

天塩川水系河川整備基本方針

天塩川水系の流域及び河川の概要

令和 8 年 8 月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

1. 流域の概要	1
1-1 河川・流域の概要	1
1-2 地形	4
1-3 地質	6
1-4 気候・気象	8
2. 流域及び河川の自然環境	12
2-1 流域の自然環境	12
2-2 河川及びその周辺の自然環境	22
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	35
2-4 自然公園等の指定状況	46
3. 流域の社会状況	49
3-1 土地利用	49
3-2 人口	53
3-3 産業と経済	55
3-4 交通	58
3-5 関係ある法令の指定状況	61
4. 水害と治水事業の沿革	66
4-1 既往洪水の概要	66
4-2 治水事業の沿革	76
4-3 流域治水対策の取組	79
5. 水利用の現状	82
5-1 水利用の現状	82
5-2 渇水被害及び渇水調整	85
6. 河川流況及び水質	86
6-1 河川流況	86
6-2 河川水質	89
7. 河川空間の利用状況	92
7-1 河川敷等の利用の状況	92
7-2 高水敷の利用状況	93
7-3 河川の利用状況	94
7-4 内水面漁業	97
8. 河道特性	98
8-1 河道の特性	98
8-2 河床変動の経年の変化	102
9. 河川管理	103
9-1 河川管理区間	103
9-2 河川管理施設	106

9-3 許可工作物	106
9-4 水防体制	107
9-5 危機管理への取組	109
10. 地域との連携	115
10-1 地域住民、河川協力団体、市民団体等との協働	115
10-2 関係自治体との連携・調整	115

1. 流域の概要

1-1 河川・流域の概要

天塩川は、我が国最北を流れる大河川で、その源を北見山地の天塩岳（標高 1,558m）に発し、山間急流部を西北流し名寄盆地に至る。さらに流域の中核都市である士別市、名寄市で剣淵川、名寄川等の支川を合わせ、智東や音威子府等の狭窄部を流れ、天塩平野を流下する間に多くの支川を集め、最下流部で南下して、天塩町で日本海に注ぐ、流域面積 5,590km²、幹川流路延長 256km の一級水系である。流域内の人口は、上流部の士別市、名寄市など川沿いに形成されている平野部に集中し、流域全体で約 7 万人（令和 2 年（2020 年）国勢調査、稚内市を除く 11 市町村）が生活している。

当流域は、上川総合振興局・留萌振興局・宗谷総合振興局の 3 市 8 町 1 村からなり、北海道北部の社会・経済・文化の基盤をなすとともに、多様な自然環境を有していることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

表 1-1 天塩川流域の概要

項 目	諸 元	備 考
流路延長	256km	全国 4 位/109 水系
流域面積	5,590km ²	全国 10 位/109 水系
流域市町村	3 市 8 町 1 村	
関連市町村人口	約 8 万 2 千人	
想定氾濫区域面積	455.9km ²	
想定氾濫区域内人口	約 4 万 3 千人	
河川数	160	

出典：第 10 回河川現況調査（平成 26 年基準）、河川データブック 2025、北海道統計書（R8）

※第 10 回河川現況調査の国勢調査は平成 22 年度



写真出典：北海道開発局（R3年、R6年撮影）

写真 1-1 天塩川流域

1-2 地形

天塩川は、地形的に見て上、中、下流部の3地域に分けられる。

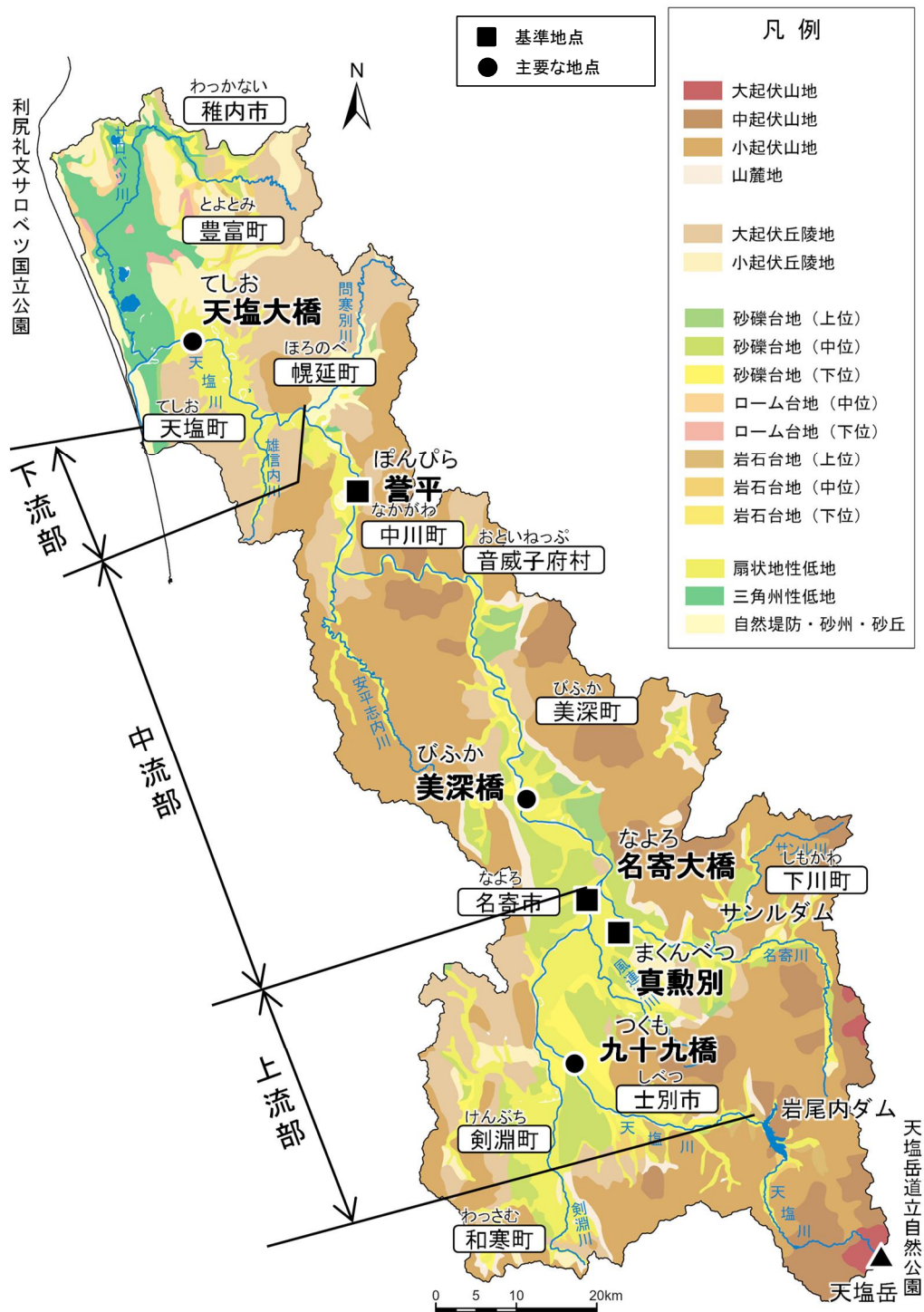
上流部は、源流の発する天塩岳から名寄川合流点までを指し、豊かな自然環境に恵まれた山間を流れる地域である。

中流部は、名寄川合流点から問寒別川合流点までを指す。名寄盆地は、オホーツク海沿岸の浜頓別から道央の富良野まで続く、“中央盆地地区”のほぼ中央に位置し、上流部の和寒町から美深町にかけて発達している。

名寄盆地の東・西にはそれぞれ、北見山地、天塩山地が走っているが、両山地とも標高は1,000m以下で、山脈状をなさずになだらかな山形を示している。

中流部から下流部にかけては、川沿いに泥炭地の分布する天塩川低地を形成している。

下流部は、問寒別川合流点から河口までを指し、広大な畑作と酪農地帯の天塩平野やサロベツ湿原が広がる地域である。宗谷岬まで連なる宗谷丘陵が天塩山地まで延び、さらに日本海側に近づくと、宗谷丘陵の一部をなす丘陵群や台地、河谷低地などがモザイク状に分布し、河口付近ではサロベツ川を中心としてサロベツ湿地帯が広がる。



出典：国土数値情報 20 万分の 1 土地分類基本調査（説明）

図 1-2 天塩川地形分類図

1-3 地質

流域を大きく区分すると、上流部は日高帯、中流部は白亜系向斜帯、神居古潭構造帯、下流部は第三系褶曲帯が主となっている。

日高帯はさらに日高東縁帯・日高中央帯・日高西縁輝緑岩帯の 3 帯に細分化される。流域内に含まれるのはそのうち日高中央帯と日高西縁輝緑岩帯であり、日高中央帯は粘板岩・チャートなどの堆積岩類とこれを貫く深成岩類から成る。

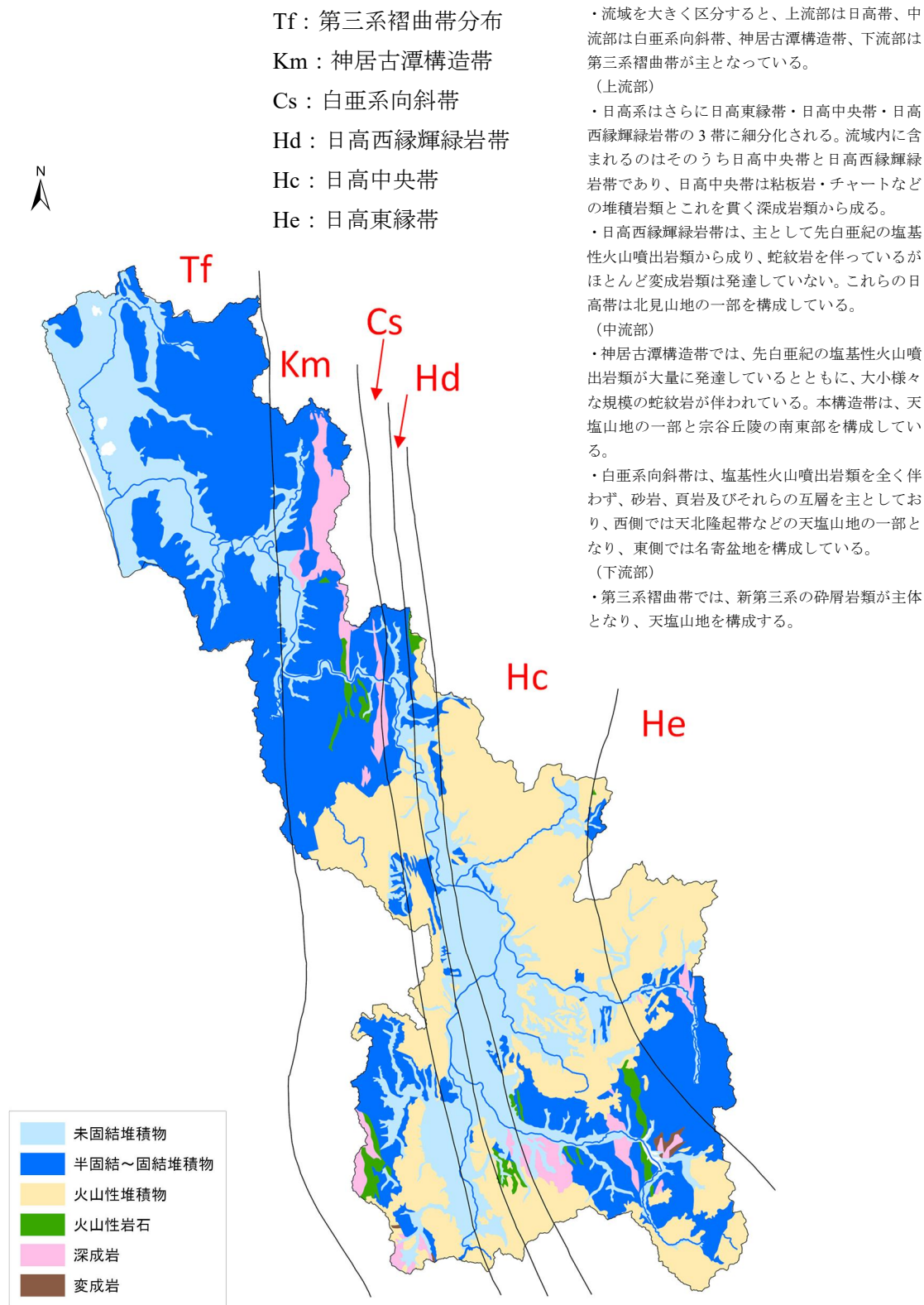
また、日高西縁輝緑岩帯は、主として先白亜紀の塩基性火山噴出岩類から成り、蛇紋岩を伴っているがほとんど変成岩類は発達していない。

これらの日高帯は北見山地の一部を構成している。

神居古潭構造帯では、先白亜紀の塩基性火山噴出岩類が大量に発達しているとともに、大小様々な規模の蛇紋岩が伴われている。本構造帯は、天塩山地の一部と宗谷丘陵の南東部を構成している。

白亜系向斜帯は、塩基性火山噴出岩類を全く伴わず、砂岩、頁岩及びそれらの互層を主としており、西側では天北隆起帯などの天塩山地の一部となり、東側では名寄盆地を構成している。

第三系褶曲帯では、新第三系の碎屑岩類が主体となり、天塩山地を構成する。



表層地質図出典：国土調査（土地分類調査・水調査）20 万分の 1 土地分類基本調査

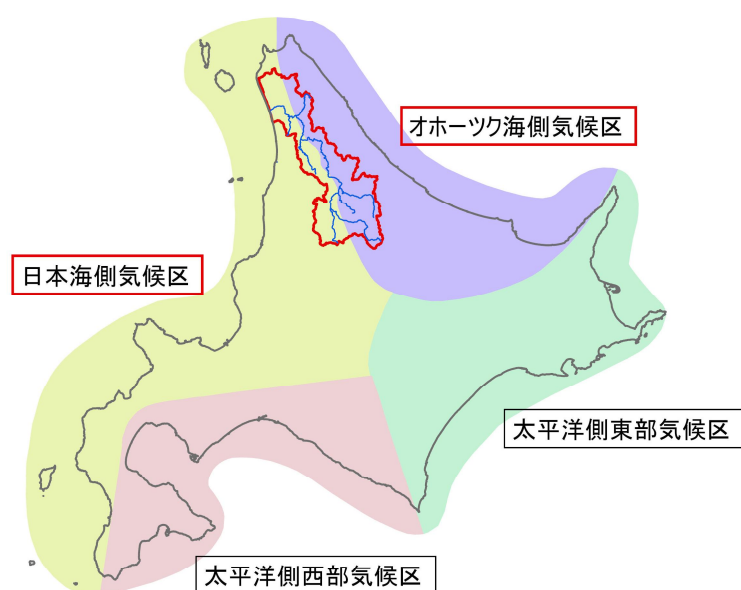
図 1-3 天塩川表層地質図

1-4 気候・気象

北海道はその周囲の海によって4つの気象区分に分類されており、地理的位置からみると、一般に温帯気候の北限あるいは亜寒帯気候の南限にあたる。冬季には大陸に蓄積された寒冷的な気団が、北西季節風として運ばれ厳しい冬をもたらす、夏季には北太平洋の温暖な気団が、南東季節風として流入し暑さをもたらすが、猛暑となるのは極めて短期間である。天塩川流域は其中で日本海面区とオホーツク海面区に属している。流域南部は内陸的気候であるのに対して、流域北部は海洋性気候を呈している。

天塩川が流れる上川北部地方は、亜寒帯気候に属し、特に地理的に内陸部に位置するため、寒暖の変化が激しいことが特徴である。平地における年平均気温は5.4～6.8℃程度であり、冬の最低気温は、-30℃程度にも達し、また夏の暑さも30℃を超え、寒暖の差は60℃程度にもなる。また、最暖期の7月～8月の月平均気温は20℃程度、最寒期の1月～2月は-5～-9℃程度である。この地方は水稻の北限地帯と言われているが、夏のごく短期間の猛暑と天塩川からの豊富な水とがこの地方の水稻を可能にしている。

月別降水量は8～10月に多く、年間降水量は900mm～1,400mm程度となっており、全道平均1,100mmと同程度である。



は天塩川流域を示す
※出典：「北海道の気候」を基に作成

図 1-4 気候区分図

表 1-2 月別気温・降水量

	和寒				朝日				士別			
	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)
1月	61.2	-8.3	-4.1	-14.2	48.2	-8.0	-3.9	-13.2	64.2	-8.5	-4.3	-14.5
2月	52.7	-7.6	-2.7	-14.1	37.1	-7.4	-2.8	-13.3	49.2	-7.7	-2.8	-14.2
3月	58.6	-2.6	2.1	-8.4	47.3	-2.9	1.8	-8.5	52.2	-2.8	1.9	-8.5
4月	53.8	4.5	9.8	-0.8	49.4	3.9	9.4	-1.6	46.7	4.2	9.5	-0.9
5月	68.3	11.6	17.9	5.5	69.5	10.9	17.5	4.5	62.9	11.2	17.5	5.2
6月	65.1	16.3	22.4	10.9	73.1	15.8	22.1	10.1	66.3	15.8	22.0	10.5
7月	128.0	20.1	25.8	15.3	139.2	19.7	25.6	14.8	130.5	19.7	25.4	15.0
8月	140.9	20.5	26.0	15.9	149.1	20.0	25.6	15.4	152.3	20.1	25.6	15.7
9月	143.3	15.8	21.5	10.8	151.0	15.2	21.2	10.0	148.8	15.5	21.2	10.6
10月	115.6	9.0	14.3	4.2	123.1	8.3	13.9	3.4	116.0	8.8	14.1	4.0
11月	127.3	1.9	5.5	-1.7	104.8	1.5	5.3	-2.3	125.7	1.7	5.4	-1.9
12月	100.4	-4.9	-1.5	-9.3	76.2	-5.0	-1.6	-9.3	102.3	-5.2	-1.8	-9.9

	下川				名寄				美深			
	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)
1月	36.8	-8.8	-3.9	-15.7	49.4	-8.6	-4.2	-14.7	81.0	-8.6	-4.1	-14.7
2月	28.2	-8.2	-2.7	-15.8	38.7	-8.0	-2.7	-14.9	60.2	-8.0	-2.7	-15.0
3月	37.3	-3.3	1.7	-9.8	44.2	-3.0	2.0	-9.1	60.2	-3.0	2.0	-9.0
4月	42.8	3.6	9.3	-2.4	45.5	3.8	9.3	-1.7	47.5	3.8	9.2	-1.6
5月	62.9	10.2	17.1	3.3	60.6	10.8	17.5	4.1	60.1	10.7	17.4	4.3
6月	64.1	14.8	21.3	8.8	65.2	15.6	22.3	9.6	64.8	15.4	22.1	9.6
7月	126.8	18.8	24.7	13.8	129.4	19.5	25.6	14.4	121.1	19.4	25.5	14.5
8月	143.6	19.4	25.0	14.7	136.1	19.9	25.7	15.1	131.6	20.1	25.8	15.5
9月	147.0	14.7	21.0	9.1	138.1	15.2	21.4	9.9	136.2	15.4	21.4	10.3
10月	118.8	7.9	13.9	2.4	115.6	8.3	14.2	3.1	130.7	8.5	14.2	3.4
11月	95.8	1.3	5.2	-2.7	108.5	1.5	5.3	-2.3	139.2	1.5	5.3	-2.4
12月	60.7	-5.4	-1.7	-10.7	83.1	-5.4	-1.8	-10.1	126.0	-5.3	-1.8	-10.0

	音威子府				中川				天塩			
	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)
1月	106.7	-8.0	-3.9	-13.9	89.2	-7.5	-3.1	-13.4	44.6	-5.4	-2.3	-9.9
2月	70.7	-7.7	-2.7	-14.5	60.6	-7.2	-2.2	-14.1	31.5	-5.3	-1.8	-10.8
3月	71.4	-2.7	1.8	-8.4	63.6	-2.4	2.0	-8.3	34.4	-1.4	1.9	-6.1
4月	56.8	3.6	8.5	-1.3	54.0	3.8	8.7	-1.6	41.4	4.3	8.1	-0.4
5月	65.5	10.1	16.4	4.3	68.6	10.0	16.0	3.8	61.2	9.6	14.0	4.6
6月	60.6	14.5	20.7	9.2	60.4	14.2	20.1	8.6	56.0	13.8	18.3	9.1
7月	120.4	18.5	24.2	14.0	114.4	18.3	23.8	13.4	109.2	18.1	22.3	14.0
8月	163.9	19.5	24.8	15.2	151.3	19.4	24.7	14.7	123.5	19.5	23.6	15.2
9月	148.0	15.3	21.1	10.5	136.8	15.2	21.2	9.4	124.1	16.2	20.8	10.7
10月	164.3	8.7	14.1	4.1	160.3	8.8	14.4	3.2	127.0	10.4	14.4	5.3
11月	180.3	1.7	5.3	-1.7	156.7	2.1	5.9	-1.8	100.5	3.5	6.7	-0.1
12月	158.0	-4.8	-1.5	-8.8	132.5	-4.2	-0.8	-8.7	60.1	-2.5	0.3	-6.1

	豊富			
	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高 気温 (℃)	日最低 気温 (℃)
1月	65.2	-6.1	-2.9	-10.7
2月	48.0	-6.1	-2.3	-11.4
3月	46.5	-1.9	1.7	-6.5
4月	46.6	4.1	8.1	-0.1
5月	61.8	9.6	14.3	5.0
6月	59.8	13.7	18.3	9.6
7月	111.2	17.9	22.3	14.1
8月	120.9	19.4	23.6	15.6
9月	130.8	16.0	20.7	11.1
10月	137.8	9.7	14.2	4.9
11月	116.6	2.7	6.0	-0.9
12月	85.9	-3.4	-0.6	-7.0

※気象庁の過去の気象データをもとに作成。1991年～2020年を平均したもの。

表 1-3 各気象観測値

項目	和寒	朝日	士別	下川	名寄	美深
平均気温 (°C)	6.4	6.0	6.1	5.4	5.8	5.8
最高気温 (°C)	11.4	11.2	11.2	10.9	11.2	11.2
最低気温 (°C)	1.2	0.8	0.9	-0.4	0.3	0.4
平均風速 (m/s)	1.7	1.6	1.6	2.5	2.0	1.5
最大風速 (m/s)	9.9	10.6	9.8	12.0	12.1	10.2
日照時間 (時間)	1,378.6	1,460.6	1,410.1	1,443.6	1,367.8	1,319.7
降水量 (mm)	1,115.0	1,067.9	1,117.6	964.8	1,006.8	1,158.5

項目	音威子府	中川	天塩	豊富	全道平均	全国平均
平均気温 (°C)	5.7	5.9	6.8	6.3	7.9	15.5
最高気温 (°C)	10.7	10.9	10.5	10.3	12.6	21.0
最低気温 (°C)	0.7	0.5	2.1	2.0	3.2	10.7
平均風速 (m/s)	2.0	2.4	4.2	2.8	4.0	2.9
最大風速 (m/s)	9.6	14.5	17.2	12.7	25.0	24.3
日照時間 (時間)	1,260.4	1,361.1	1,473.5	1,333.5	1,698.8	1,913.4
降水量 (mm)	1,391.2	1,248.3	915.4	1,030.8	1,136.1	1,676.4

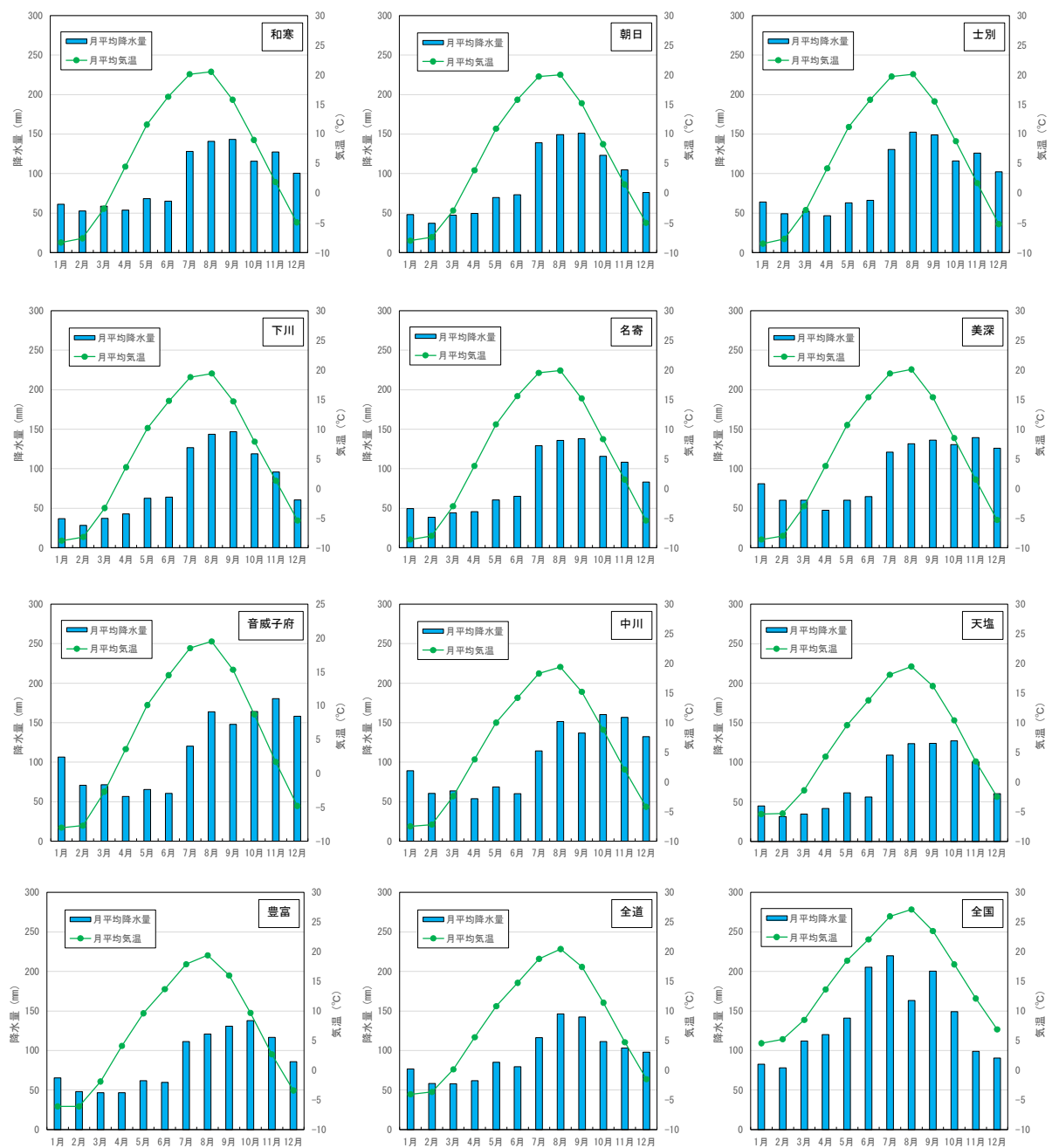
※気象庁の過去の気象データをもとに作成。

※全国平均の値は、1991年～2020年の各都道府県(県庁所在地)のデータを平均したもの。

埼玉県は熊谷、滋賀県は彦根のデータによる。

※全道平均の値は、1991年～2020年の各支庁所在地のデータを平均したもの。

※各地点の値は1991年～2020年を平均したもの。



※気象庁の過去の気象データをもとに作成。
 ※全国平均の値は、1991 年～2020 年の各都道府県(県庁所在地)のデータを平均したもの。
 埼玉県は熊谷、滋賀県は彦根のデータによる。
 ※全道平均の値は、1991 年～2020 年の各支庁所在地のデータを平均したもの。
 ※各地点の値は 1991 年～2020 年を平均したもの。

図 1-5 月別降水量

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

(1) 植物

北海道最北端を流れる天塩川流域の植生は、北部に位置しているため、低山地においても高山植物帯が形成されている。流域の植生は、上流部・中流部の河岸にはヤナギ類が連続して分布しており、ヤチダモーハルニレ群集、ミズナラ群落が多く分布している。重要種としては、ミクリ、タマミクリ、タヌキモ等が確認されている。

下流部は、周辺の丘陵地にミズナラ群落が多く分布しており、河口域の砂丘では、テンキグサやハマナス等の海浜性の植物が見られ、河岸にはヨシ群落が多く分布している。河道周辺の平地は牧草地として広く利用されている。また、河口部にはサロベツ原野が広がり、^{リシリレブン}利尻礼文サロベツ国立公園内のサロベツ川一帯はミズゴケ類が多く分布する貴重な高層湿原を形成し、高層から中間湿原には重要種であるナガバノモウセンゴケが分布するなど、湿原特有の植生や海浜植生が見られる特色のある植生状況を示している。



テンキグサ群落



ミズゴケ類

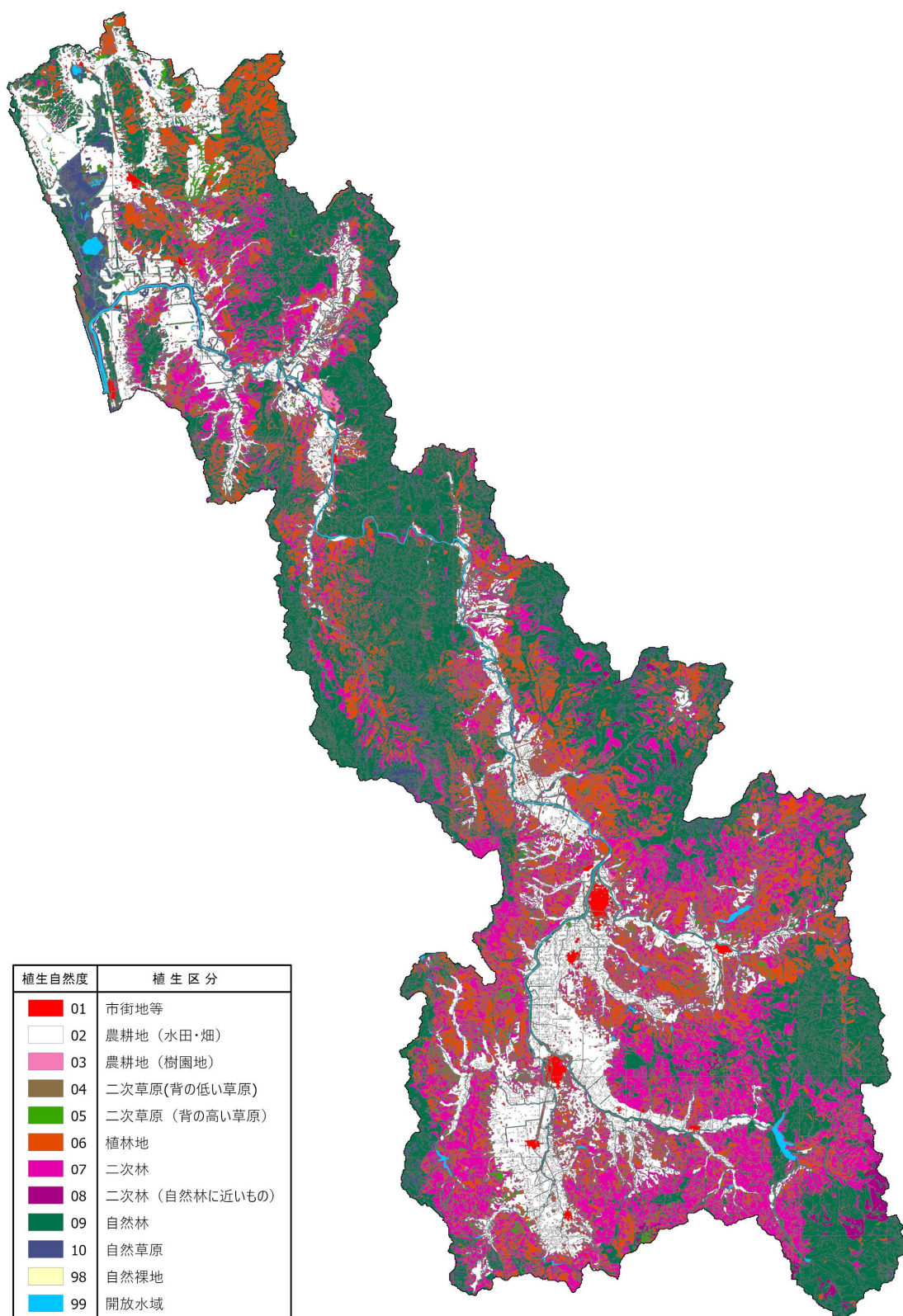


エゾノキヌヤナギーオノエヤナギ群集



ヤチダモーハルニレ群集

写真 2-1 植生



※出典：「第7回自然環境保全基礎調査」環境省生物多様性センター (<https://www.biodic.go.jp>)

(植生調査 1/25,000 「北海道」 GIS データを使用し作成)

図 2-1 天塩川植生図

(2) 哺乳類

天塩川流域は山地や丘陵地が多く、下流部にはサロベツ湿原や河跡湖があることから、哺乳類にとって多様な生息環境を有する地域である。

上・中流部の森林地域では、エゾクロテンやコテングコウモリのほか、ニホンジカ（エゾシカ）、ヒグマ、エゾアカネズミ、エゾモモンガ等が生息する。平野部や下流部では、エゾユキウサギやイイズナ（キタイイズナ）、タイリクヤチネズミ（エゾヤチネズミ）等の中・小型の哺乳類が生息している。

重要種としては、サロベツ原野に生息する世界最小の哺乳類であるトウキョウトガリネズミやエゾクロテンなどがあげられる。



エゾクロテン



エゾアカネズミ



ニホンジカ（エゾシカ）



ヒグマ

写真 2-2 哺乳類

(3) 鳥類

上流部ではカワガラスやキセキレイ、ヤマセミなど山地や溪流に多い種が見られるほか、橋梁付近ではイワツバメが確認されている。中流部では、カワセミやオシドリ、アオサギ、カワアイサ等の水鳥のほか、礫河原を利用するコチドリやイソシギ、草原性のヒバリ、コヨシキリ等が確認されている。下流部ではショウドウツバメや、ノビタキ、ノゴマ、マキノセンニュウ、シマセンニュウ等の草原性種が確認されているほか、周辺のヨシ原・ササ原を利用する重要種のチュウヒやオオジシギの繁殖が確認されている。また、周辺の河畔林ではベニマシコやアオジのほか、オジロワシ・オオワシ等の猛禽類が確認されている。

特にサロベツ原野では、天然記念物に指定されているオジロワシ、オオヒシクイ、マガンの渡りの中継地として利用されているほか、ミコアイサの繁殖が確認されている。また、国内におけるチュウヒの約4割が繁殖利用している主要な生息地となっている。



チュウヒ



オジロワシ

写真 2-3 鳥類

(4) 昆虫類

天塩川流域では様々な陸上昆虫類等が確認されており、上・中流部では、アオゴミムシ、ヒメコガネ等のほか、樹林地に多いマイマイカブリ北海道亜種や、オオルリオサムシ道北亜種等のオサムシ類、草地環境に多いケマダラカミキリ、河原や水域で見られるオオクロナガゴミムシ、ヤナギ類を食樹とするコムラサキ等が見られる。重要種としてオオルリオサムシ、カラフトヨツスジハナカミキリ等が生息している。下流部では、海浜性の貴重種であるイソコモリグモや、河跡湖等で見られるキタイトトンボ等が確認されている。



カラフトヨツスジハナカミキリ



ケマダラカミキリ

写真 2-4 昆虫類

(5) 両生類・爬虫類

両生類としては、エゾサンショウウオ、ニホンアマガエル、エゾアカガエルが流域全体に生息しており、主にワンドや水たまりなど流れの緩い箇所で卵塊が確認されている。

爬虫類では、上・中流部でニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリが確認されている。また、北海道では唯一、サロベツ原野において、重要種であるコモチカナヘビの生息を確認している。



エゾアカガエル



エゾサンショウウオ

写真 2-5 両生類・爬虫類

(6) 魚類

上流部は周囲を河畔林で囲まれた溪流であり、ハナカジカやフクドジョウ等が分布している。中流部では砂州やワンド・たまりなどが見られ、ヤチウグイやキタスナヤツメ、サクラマス（ヤマメ）やエゾウグイが分布しているほか、旧川の^{ち え ぶ ん}智恵文沼にはヒブナが生息している。また、美深町の親水公園では、昭和初期まで天塩川に数多く遡上していたチョウザメの増殖研究が行われている。下流部は沿川に旧川が多く残されており、流れの緩やかな本川では日本最大の淡水魚類であるイトウが確認されているほか、カワヤツメ、トミヨ、ニホンイトヨ、ワカサギ、ヌマガレイ等が分布している。

一方、天塩川はサケ、サクラマスの遡上河川であり、現在、^{ほろのべちよう}幌延町（天塩川）、中川町（パンケナイ川）、美深町（美深川）の3箇所に捕獲場があり、稚魚の放流事業も行われている。なお、下流部に内水面共同漁業権（留内共第1号：シジミガイ・ワカサギ）が設定されている。



サクラマス（ヤマメ）



イトウ

写真 2-6 魚類

(7) 底生動物

天塩川で確認されている底生動物は、貝類、甲殻類等を含めて60種が確認されており、上流・中流部ではヨシノマダラカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ、シマイシビル、カワシンジュガイ等が生息し、下流部は感潮区間でもあることから、ヤマトシジミ、スジエビ、モクズガニ等が生息している。また、汽水域である天塩川本川下流やサロベツ原野内の沼では、内水面共同漁業権の対象となっているヤマトシジミが生息している。



カワシンジュガイ



ヤマトシジミ

写真 2-7 底生動物

表 2-1(1) 天塩川水系の重要種

区分	No	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
植物	1	オクエゾサイシン					R
	2	カタクリ					N
	3	ミクリ			NT		R
	4	タマミクリ			NT		
	5	アカンカサスゲ					R
	6	ハイドジョウツナギ					R
	7	セイヤブシ					
	8	モメンヅル					R
	9	クロミサンザシ			EN		Cr
	10	ノウルシ			NT		R
	11	オオバタチツボスミレ			NT		
	12	エゾミズタマソウ			VU		
	13	ヤマタニタデ			VU		
	14	エゾノミズタデ					Vu
	15	ノダイオウ			VU		
	16	ホソバノツルリンドウ			VU		
	17	エゾナミキ			VU		
	18	キヨスミウツボ					R
	19	イヌタヌキモ			NT		
	20	タヌキモ			NT		R
	21	キタノコギリソウ			VU		
	22	ホソバエゾノコギリソウ			EN		En
両生類	23	エゾサンショウウオ			DD	N	
爬虫類	24	該当なし					
哺乳類	25	ヒメホオヒゲコウモリ				Nt	
	26	カグヤコウモリ				Nt	
	27	ドーベントンコウモリ				N	
	28	チチブコウモリ				Nt	
	29	ニホンウサギコウモリ				Nt	
	30	コテングコウモリ				N	
	31	テングコウモリ				Nt	
	32	シマリス（エゾシマリス）			DD	Dd	
	33	ハントウアカネズミ（カラフトアカネズミ）				N	
	34	ヒグマ			LP	Lp	
	35	クロテン（エゾクロテン）			NT	Nt	
鳥類	36	ウズラ			VU	Nt	
	37	サカツラガン			DD	Dd	
	38	オオヒシクイ	天		NT	N	
	39	ヒシクイ（亜種）	天		VU	N	
	40	マガン	天		NT	N	
	41	ハクガン			CR	N	
	42	シジュウカラガン		内	CR	Vu	
	43	オシドリ			DD	Nt	
	44	シノリガモ			LP		
	45	ヒメウ			EN	En	
	46	チュウサギ			NT		
	47	タンチョウ	特	内	VU	Vu	
	48	ヨタカ			NT	Nt	
	49	セイタカシギ			VU	Nt	
	50	ヤマシギ				N	

表 2-1 (2) 天塩川水系の重要種

区分	No	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
鳥類	51	オオジシギ			NT	Nt	
	52	ツルシギ			VU	Vu	
	53	タカブシギ			VU	Vu	
	54	ハマシギ			NT	Nt	
	55	ウミネコ				Nt	
	56	オオセグロカモメ			NT	Nt	
	57	ミサゴ			NT	Nt	
	58	ハチクマ			NT	Nt	
	59	オジロワシ	天	内	VU	Vu	
	60	オオワシ	天	内	VU	Vu	
	61	チュウヒ		内	EN	En	
	62	ハイタカ			NT	Nt	
	63	オオタカ			NT	Nt	
	64	クマタカ		内	EN	En	
	65	オオコノハズク				Nt	
	66	シロフクロウ				Dd	
	67	トラフズク				Nt	
	68	ヤマセミ				N	
	69	コアカゲラ				Dd	
	70	オオアカゲラ				Dd	
	71	クマゲラ	天		VU	Vu	
	72	ハヤブサ		内	VU	Vu	
	73	アカモズ		内	EN	En	
	74	オオムシクイ			DD		
	75	マキノセンニュウ			NT	Nt	
	76	ツメナガセキレイ				Nt	
	77	ギンザンマシコ				Nt	
	78	ホオアカ				Nt	
魚類	79	スナヤツメ北方種			VU		
	80	カワヤツメ属	-	-	-	-	
	81	カワヤツメ			VU	Nt	
	82	ヤチウグイ			NT	Nt	
	83	エゾウグイ				N	
	84	ドジョウ類	-	-	-	-	
	85	エゾホトケドジョウ			EN	En	
	86	シラウオ				Vu	
	87	イトウ			EN	En	
	88	サクラマス			NT	N	
	89	サクラマス (ヤマメ)			NT	N	
	90	エゾトミヨ			VU	Nt	
	91	ハナカジカ				N	
	92	ミミズハゼ				Nt	
	93	ジュズカケハゼ			NT		
陸上昆虫	94	イソコモリグモ			VU		
	95	ナツアカネ				R	
	96	ヒメリスアカネ				R	
	97	フタスジオオウンカ				R	
	98	キスジヒラタヨコバイ				R	
	99	オオイナズマヨコバイ				R	
	100	スナヨコバイ			NT	R	

表 2-1 (3) 天塩川水系の重要種

区分	No	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
陸上昆虫	101	ムモンナガカスミカメ				R	
	102	ババアメンボ			NT	N	
	103	オオコオイムシ				R	
	104	オオウスバカゲロウ				R	
	105	ヒメアミメトビケラ				R	
	106	ゴマフトビケラ				R	
	107	カバイロシジミ北海道北東部亜種			NT		
	108	ゴマシジミ北海道・東北亜種			NT		N
	109	ウラギンスジヒョウモン			VU		
	110	ヒョウモンチョウ東北以北亜種			NT		Dd
	111	オナガミズアオ本土亜種			NT		
	112	キスジウスキヨトウ			VU		
	113	マガリスジコヤガ			VU		
	114	クシロモクメヨトウ			VU		
	115	シロウズギンモンアミカ			NT		
	116	ジョウザンナガハナアブ				R	
	117	タテヤマセスジミドリイエバエ				R	
	118	キバネクロバエ				R	
	119	シロガネニクバエ				R	
	120	エゾアオゴミムシ				R	Nt
	121	セダカオサムシ			VU		
	122	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		
	123	キボシツブゲンゴロウ			NT		Nt
	124	オオミズスマシ			NT		
	125	エゾコオナガミズスマシ			NT	R	Nt
	126	クビボソコガシラミズムシ			DD		
	127	コガムシ			DD		Nt
	128	ガムシ			NT		
	129	ヨツバコガネ					Nt
	130	サロベツツヤミズギワコメツキ					Nt
	131	クロヒゲナガジョウカイ					Nt
	132	ベニボタル				R	
	133	ケマダラカミキリ				N	
	134	ジャコウカミキリ				R	
	135	カラフトヨツスジハナカミキリ				R	Nt
	136	コニシケブカハムシ					Nt
	137	ムナキモモフトハムシ				R	
	138	シロヒゲナガゾウムシ				R	
	139	ウスキモモフトハバチ				R	
	140	ツノアカヤマアリ			DD		
	141	テラニシクサアリ			NT		
	142	キオビホオナガズメバチ			DD		
	143	ニッポンホオナガズメバチ			DD		
	144	モンズメバチ			DD		
	145	ニッポンハナダカバチ			VU	N	
	146	マエダテツチスガリ			NT		
底生動物	147	エゾミズゴマツボ			VU		
	148	コシダカヒメモノアラガイ			DD		
	149	イグチモノアラガイ			DD		
	150	モノアラガイ			NT		

表 2-1 (4) 天塩川水系の重要種

区分	No	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 レッドリスト 2020	北海道 レッドリスト	北海道 レッドデータブック 2001
底生動物	151	カワシシユガイ		内(特定第二種)	EN		
	152	ヤマトシジミ			NT		
	153	イボビル			DD		
	154	ムカシトンボ					R
	155	ナゴヤサナエ			VU		
	156	オオコオイムシ					N
	157	Semblis属	-	-	-	-	-
	158	シロウズギンモンアミカ			NT		
	159	マルガタゲンゴロウ			VU		
	160	キボシツブゲンゴロウ			NT	Nt	R
	161	オオミズスマシ			NT		
	162	エゾコオナガミズスマシ			NT	Nt	R
	163	チビコガシラミズムシ				Nt	R
	164	ガムシ			NT		
	165	ミズバチ			DD		

<凡例>

・文化財保護法

「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)

特:特別天然記念物、天:天然記念物

・種の保存法

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」(令和 4 年政令第 12 号)

内:国内希少野生動植物種、特:特定国内希少野生動植物種、緊:緊急指定種

・環境省レッドリスト 2020

環境省 (2020)「環境省レッドリスト 2020」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群

・北海道レッドリスト

北海道 (2015)「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版 (2015 年)」

北海道 (2016)「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版 (2016 年)」

北海道 (2016)「北海道レッドリスト【昆虫>チョウ目編】改訂版 (2016 年)」

北海道 (2017)「北海道レッドリスト【鳥編】改訂版 (2017 年)」

北海道 (2018)「北海道レッドリスト【魚類編 (汽水・淡水)】改訂版 (2018 年)」

北海道 (2019)「北海道レッドリスト【昆虫>コウチュウ目編】改訂版 (2019 年)」

Ex:絶滅、Ew:野生絶滅、Cr:絶滅危惧 IA 類、En:絶滅危惧 IB 類、Vu:絶滅危惧 II 類、

Nt:準絶滅危惧、Dd:情報不足、N:留意、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群

・北海道レッドデータブック 2001

北海道 (2001)「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001」

Ex:絶滅種、Cr:絶滅危機種、En:絶滅危惧種、Vu:絶滅危急種、R:希少種、N:留意種、

Lp:地域個体群

*種まで特定されていない確認種について、候補となる種が全て重要種に該当する場合、それぞれの指定状況を併記した。

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 流域及び河川の自然環境

① 上流部（天塩岳～名寄川合流点付近）

上流部は、源流部から上士別付近までが山間を流れる溪流河川で、士別から名寄市街地周辺までが扇状地を流れる急流河川である。河岸や高水敷にはヤナギ類を中心とした河畔林が広がっている。河床は砂礫質で、トビケラ類、カゲロウ類などの底生動物が生息している。魚類はサクラマス（ヤマメ）やエゾウグイなどが生息し、水際にはトミヨ類などが生息する。ワンドや水たまりにはエゾサンショウウオの生息場もある。



写真 2-8 天塩川上流部

② 中流部（名寄川合流点～問寒別川付近）

中流部は、山間平野を流れる河川で、所々に山間狭窄部が見られる。河岸や高水敷には主にヤナギ類、ヤチダモ・ハルニレ群集やクサヨシ群落が分布し、河岸には部分的にミクリなどの湿生植物が生育している。底生動物はトビケラ類やシマイシビル等のほか、カワシンジュガイ類が多く見られる。魚類は緩流域を好むヤチウグイ等のほか、サケ、サクラマス（ヤマメ）などの遡河性回遊魚も見られる。また、旧川の智恵文沼にはヒブナが生息している。鳥類はアオサギ、オオジシギ、カワアイサ等が確認されているほか、礫河原を利用するコチドリ、イソシギ等が確認されている。



写真 2-9 天塩川中流部

③ 下流部～河口部（問寒別川合流点～河口付近）

下流部は、大きく蛇行しながら泥炭地が分布する氾濫平野を流れる区間で、捷水路工事による多くの旧川が残されている。河口付近には砂州が発達し、ミズナラ群落や、テンキグサなど海浜性の植生が特徴的である。高水敷には、ヤナギ類やヨシ群落が分布し、ミズナラ林にはオオルリオサムシ北海道亜種などの昆虫類も生息する。感潮区間であり、ヤマトシジミなどの底生動物やサケ、ワカサギ、カワヤツメなどの回遊魚も多く、サロベツ川などではイトウが確認されている。鳥類では、国指定天然記念物であるオジロワシやマガン・ヒシクイなどの集団分布地が見られるほか、ヨシ原等で営巣する草原性鳥類のチュウヒが見られる。



写真 2-10 天塩川下流部

④ 問寒別川

問寒別川は、天塩川下流部に合流する支川であり、河道幅は狭く、連続した瀬淵環境が見られる。河川敷はヤナギ類などの河畔林が連続し、オジロワシのほか、高水敷のヨシ原・ササ原ではチュウヒやオオジシギ等の草原性鳥類も確認されている。河道内の礫河原にはコチドリ等が見られる。また、サケ・サクラマスが遡上する河川であり、自然産卵が行われている。



写真 2-11 問寒別川

⑤ 名寄川

北見山地の珊瑚山^{さんる}からサンル川と合流して流下し、天塩川に合流する急流河川である。下流側の平地部ではヤナギ類を中心とした河畔林が広がり、上流側の急流部ではハルニレ・ヤチダモが優占し、多様な河川環境を創出している。河道幅は狭く、連続した瀬・淵環境が見られ、サケ・サクラマスが遡上しており、自然産卵が行われているほか、ワンドではスナヤツメ等の魚類が確認されている。また、河道内の礫河原にはコチドリ等の鳥類が確認されている。



写真 2-12 名寄川

(2) サロベツ湿原の自然環境

サロベツ湿原には、多くの貴重な生物種が生息・生育し、特に、高層湿原から中間湿原は、ナガバノモウセンゴケやトウキョウトガリネズミ、コモチカナヘビ等が生息・分布し、貴重性の高い生息環境を呈している。また、砂丘林についても、オジロワシ、オオタカ等の希少な猛禽類やエゾクロテンなど生態系の上位種が生息し、良好な環境を保持している。なお、湿原内にはペンケ沼、パンケ沼の湖沼が分布し、水鳥の中継地としても重要である。湿原内は、100 種類以上の花が咲き乱れる観光地として、多くの観光客が訪れている。



ナガバノモウセンゴケ



コモチカナヘビ

写真 2-13 サロベツ湿原の生物種

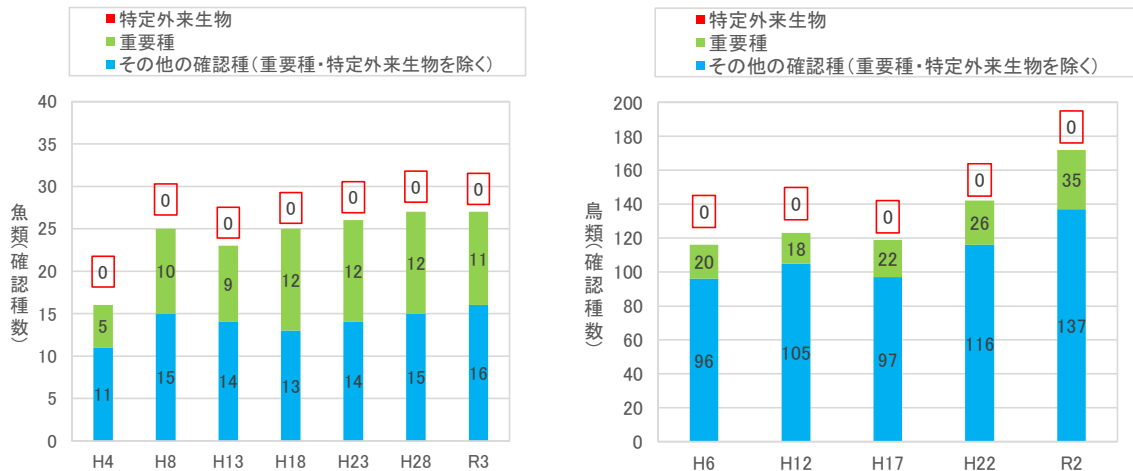
(3) 動植物の生息・生育・繁殖環境等の変遷

① 動植物の確認種数の変遷（天塩川）

魚類は、重要種の確認種数及びその他の確認種数に大きな変化は見られなかった。

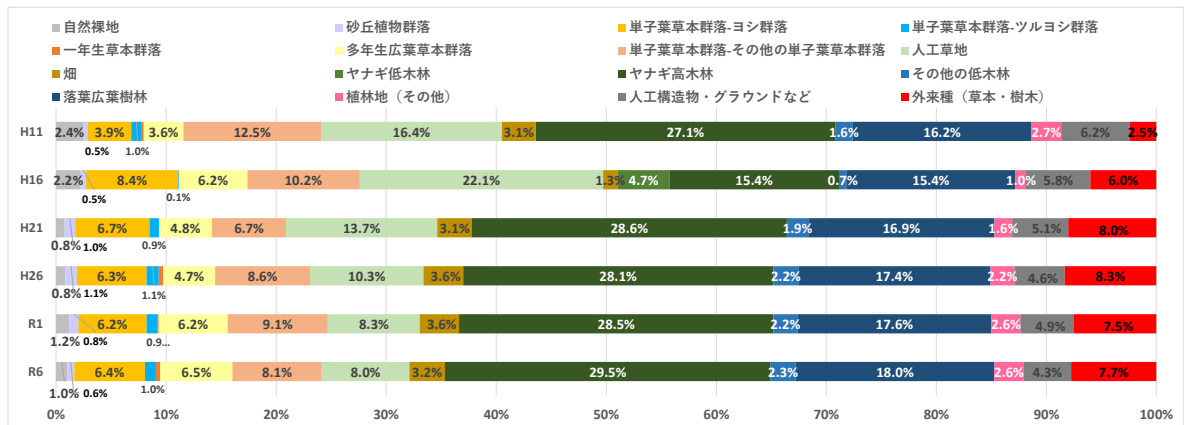
鳥類は、平成 17 年度（2005 年度）までは大きな変化は見られなかったが、令和 2 年度（2020 年度）にかけて増加傾向が見られる。

河道内は、草地や樹林環境の構成割合に大きな変化は見られず、安定している。



※出典：河川水辺の国勢調査（天塩川下流・上流の調査結果の合算値より算出）

図 2-2 生物相の経年変化（左：魚類、右：鳥類）



※出典：河川水辺の国勢調査（天塩川下流・上流の調査結果の合算値より算出）

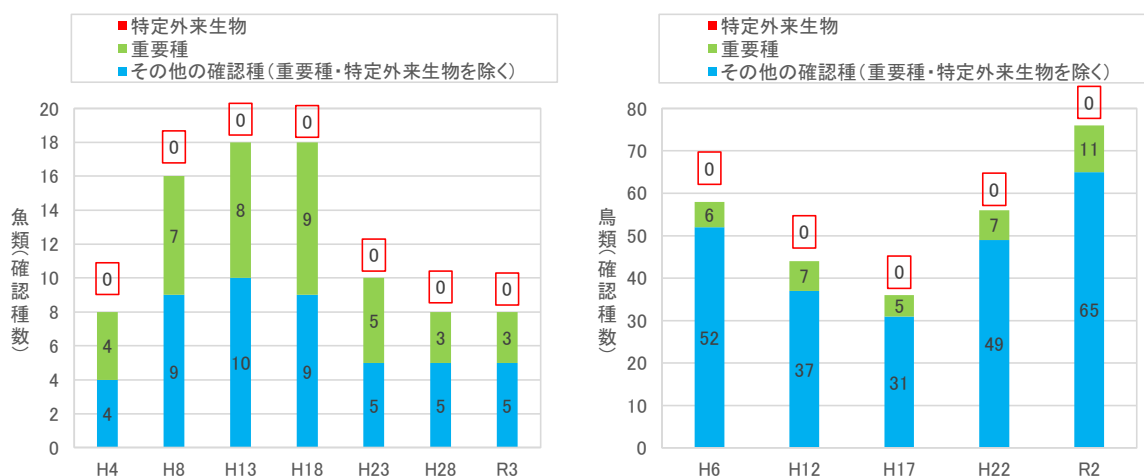
図 2-3 河道内の植物群落とその内訳の変遷

② 動植物の確認種数の変遷（問寒別川）

魚類は、平成 18 年度（2006 年度）以降、調査地点数の変更などにより確認種数が減少傾向を示している。

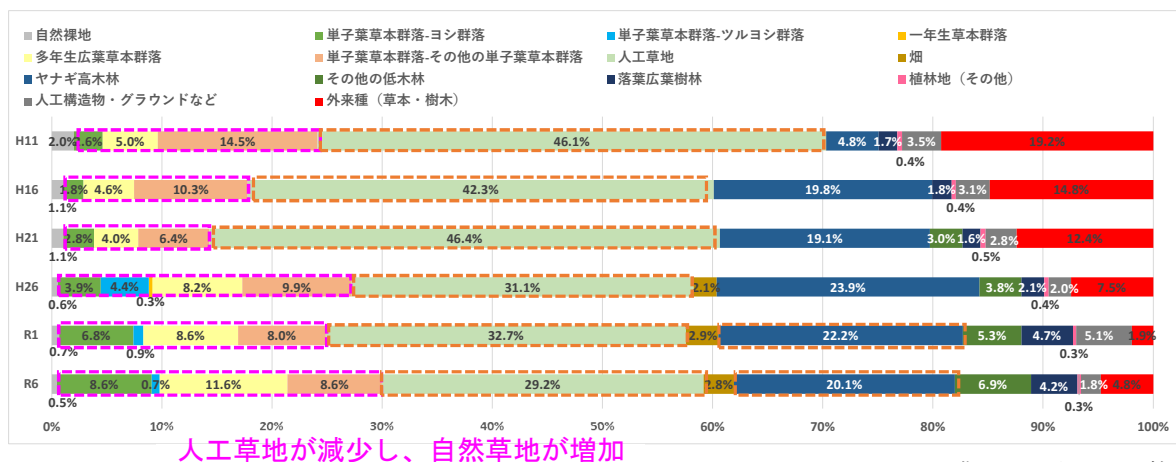
鳥類は、平成 17 年度（2005 年度）までは減少傾向を示しているが、令和 2 年度（2020 年度）にかけて増加傾向が見られる。

河道内は、平成 21 年度（2009 年度）以降は多年生広葉草本などの草地環境が増加傾向を示し、人工草地が減少傾向を示している。



※出典：河川水辺の国勢調査

図 2-4 生物相の経年変化（左：魚類、右：鳥類）



※出典：河川水辺の国勢調査

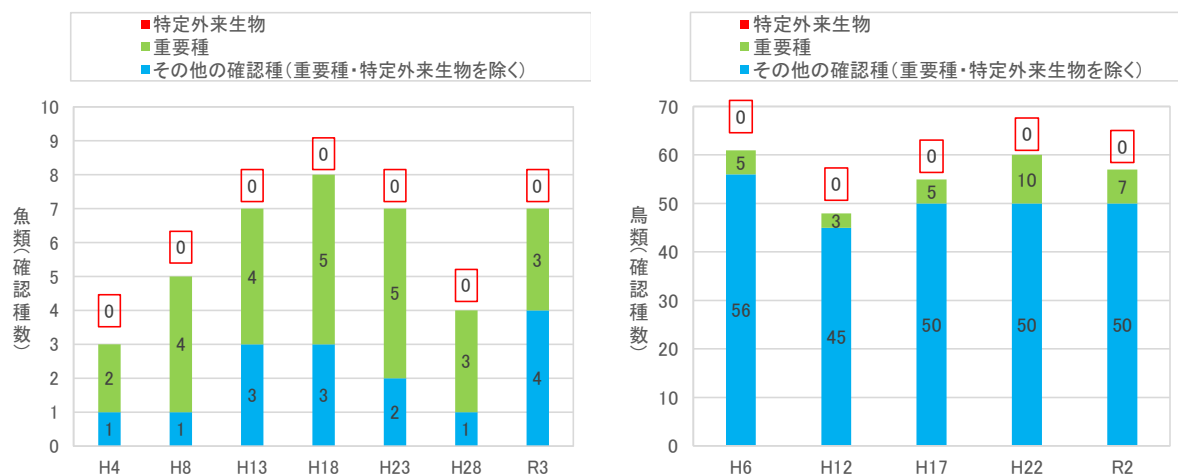
図 2-5 河道内の植物群落とその内訳の変遷

③ 動植物の確認種数の変遷（名寄川）

魚類は、平成 13 年度（2001 年度）以降、年度によるばらつきがあるが経年的に 7～8 種程度の魚類が確認されている。

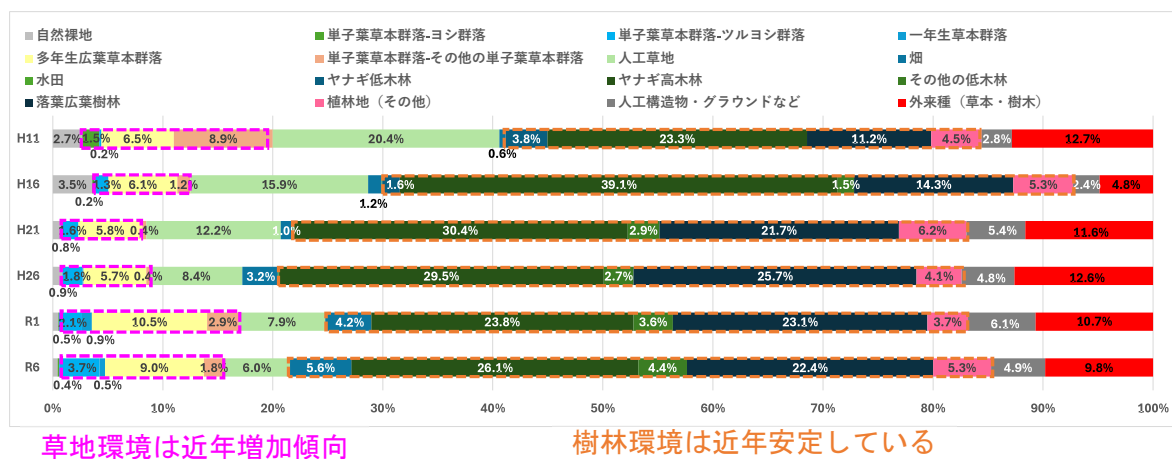
鳥類は、重要種の確認種数及びその他の確認種数に大きな変化は見られなかった。

河道内は、平成 26 年度（2014 年度）以降は多年生広葉草本などの草地環境が増加傾向を示している。



※出典：河川水辺の国勢調査

図 2-6 生物相の経年変化（左：魚類、右：鳥類）



※出典：河川水辺の国勢調査

図 2-7 河道内の植物群落とその内訳の変遷

④ 天塩川の気温、水温の変化

天塩川の代表地点の年平均気温は、36年間で天塩観測所において約2.2℃、美深観測所において約2.5℃、名寄観測所において約2.3℃、朝日観測所において約2.4℃、それぞれ上昇している。

年平均水温は、平成25年（2013年）以降はいずれの観測所においても約2.0℃の上昇が見られる。中川地点の水温の経月変化をみると、概ね最低となる2月は0～2℃で平均0.7℃、最高となる8月は15～26℃で平均21.8℃である。

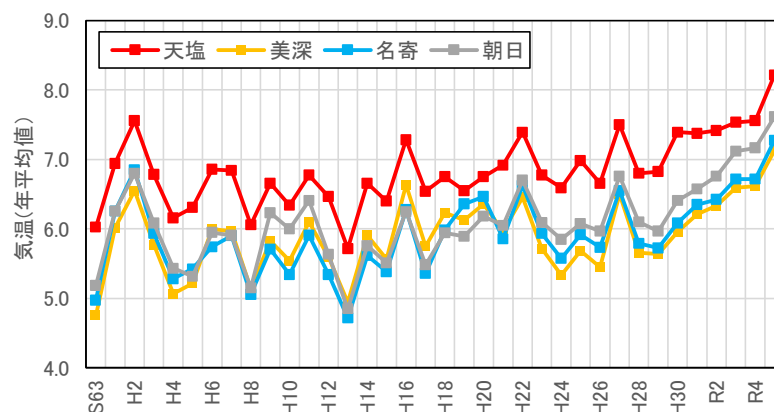


図 2-8 気温（年間平均値）の経年変化（昭和63年（1988年）～令和5年（2023年））

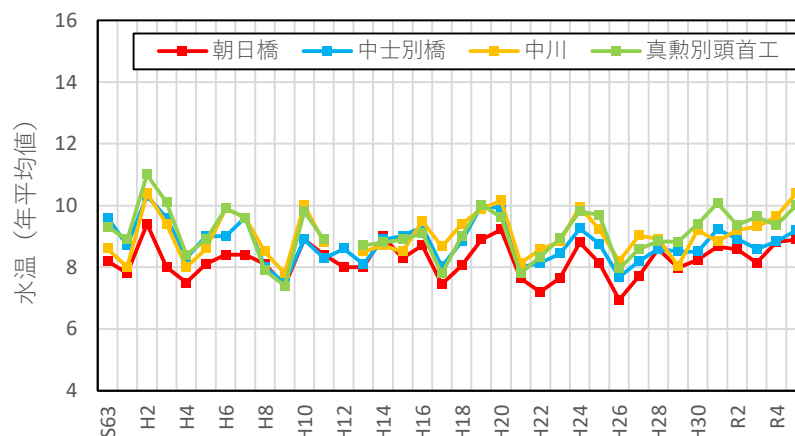


図 2-9 水温（年間平均値）の経年変化

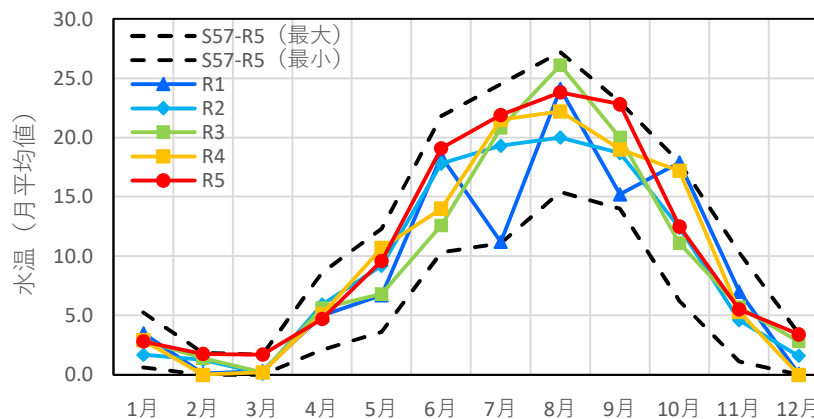


図 2-10 水温（中川地点）の経月変化

⑤ 問寒別川の気温、水温の変化

問寒別川の代表地点の年平均気温は、36年間で天塩観測所において約2.2℃、中川観測所において約2.6℃、それぞれ上昇している。

年平均水温は、平成25年(2013年)以降はいずれの観測所においても約2.0℃の上昇が見られる。中川地点の水温の経月変化をみると、概ね最低となる2月は0～2℃で平均0.7℃、最高となる8月は15～26℃で平均21.8℃である。

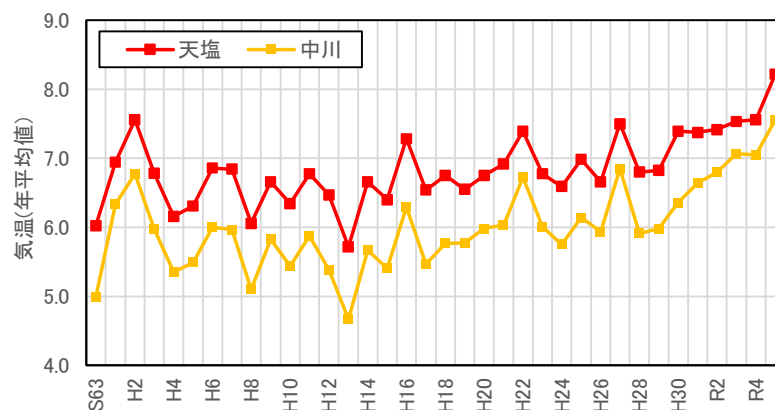


図 2-11 気温（年間平均値）の経年変化(昭和 63 年(1988 年)～令和 5 年(2023 年))

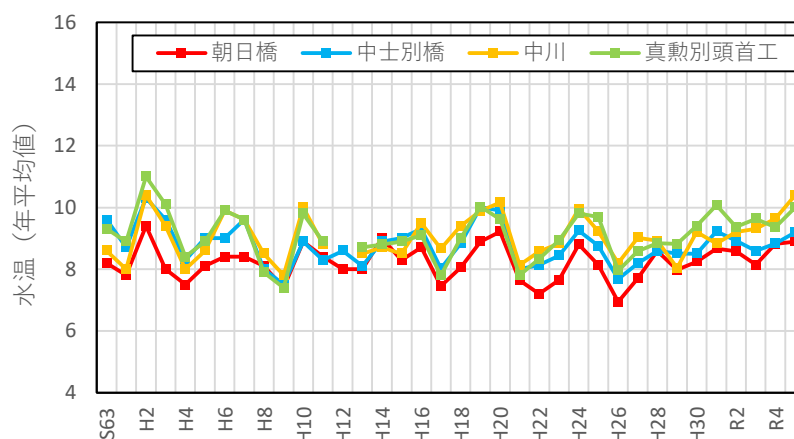


図 2-12 水温（年間平均値）の経年変化

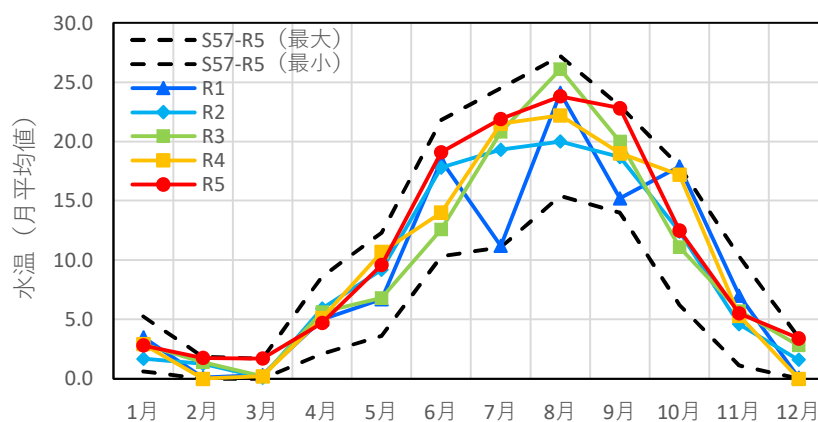


図 2-13 水温（中川地点）の経月変化

⑥ 名寄川の気温、水温の変化

名寄川の年平均気温は、下川^{しもかわ}観測所において 36 年間で約 2.2℃上昇している。

年平均水温は、真勲別頭首工^{まくんべつ}観測所において平成 25 年（2013 年）以降は約 2.0℃の上昇が見られる。

真勲別頭首工地点の水温の経月変化をみると、概ね最低となる 2 月は 0.3～1.6℃で平均 0.9℃、最高となる 8 月は 19.1～25.4℃で平均 21.2℃である。

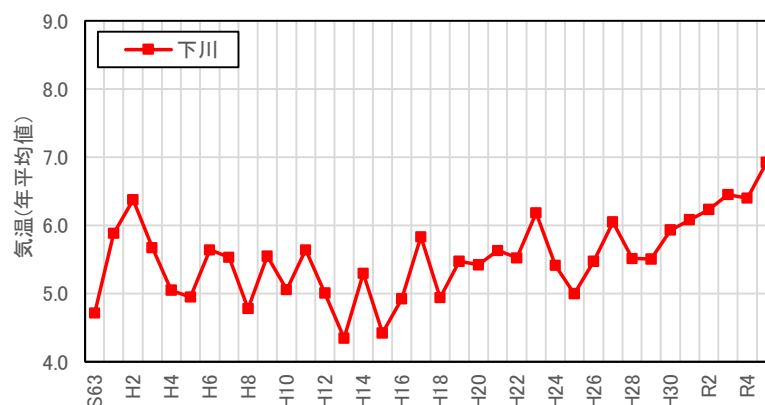


図 2-14 気温（年間平均値）の経年変化(昭和 63 年(1988 年)～令和 5 年(2023 年))

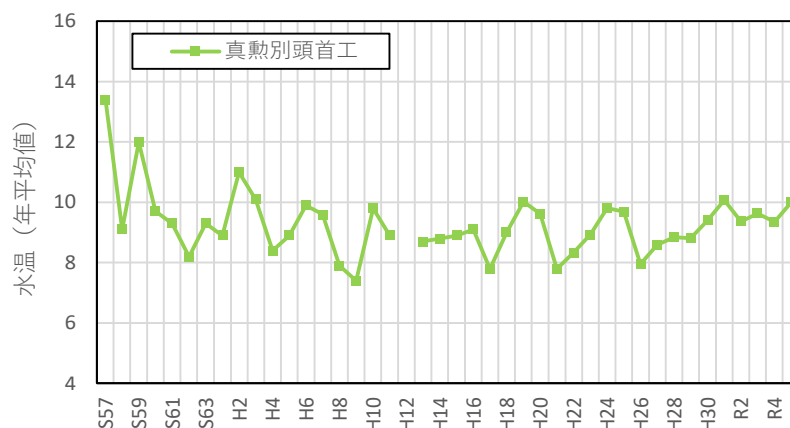


図 2-15 水温（年間平均値）の経年変化

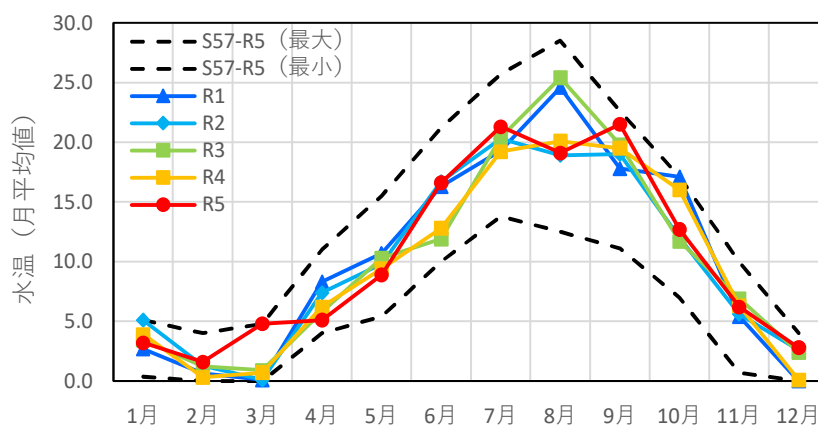
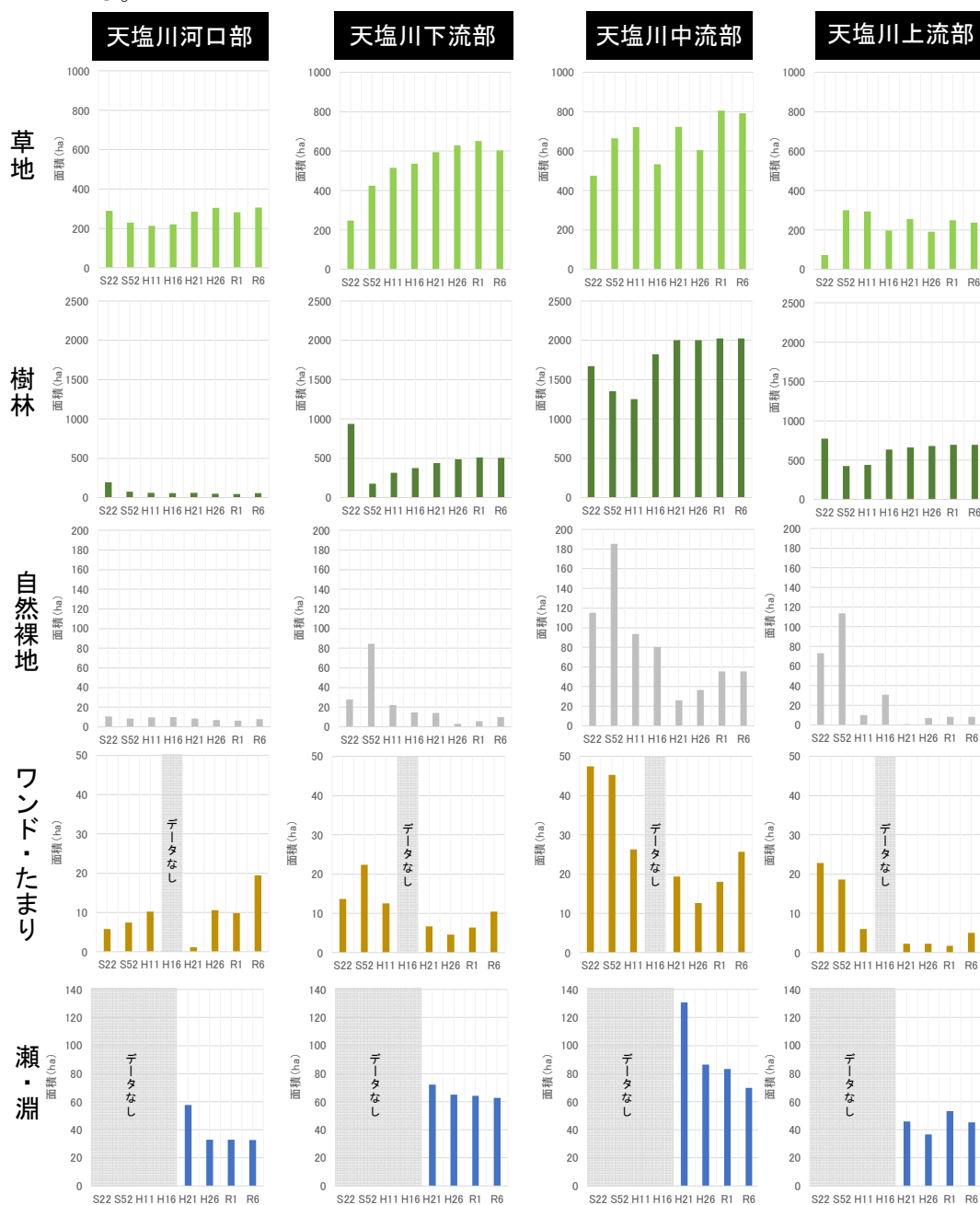


図 2-16 水温（真勲別頭首工地点）の経月変化

(4) 自然環境の現状

① 主要な自然環境要素の変化（天塩川）

天塩川における草地面積は、下流部で昭和年代と比較すると増加傾向が見られるが、それ以外の区間においては概ね横ばい傾向で推移している。樹林面積は、全区間において平成 16 年（2004 年）以降は概ね横ばい傾向で推移している。自然裸地は、中流部では平成 21 年（2009 年）以降は増加傾向を示しているが、昭和年代と比較すると全区間で減少傾向を示している。ワンド・たまりは、平成 21 年（2009 年）以降は全区間で増加傾向を示しているが、昭和年代と比較すると減少傾向にある。瀬・淵環境は概ね横ばい傾向で推移している。

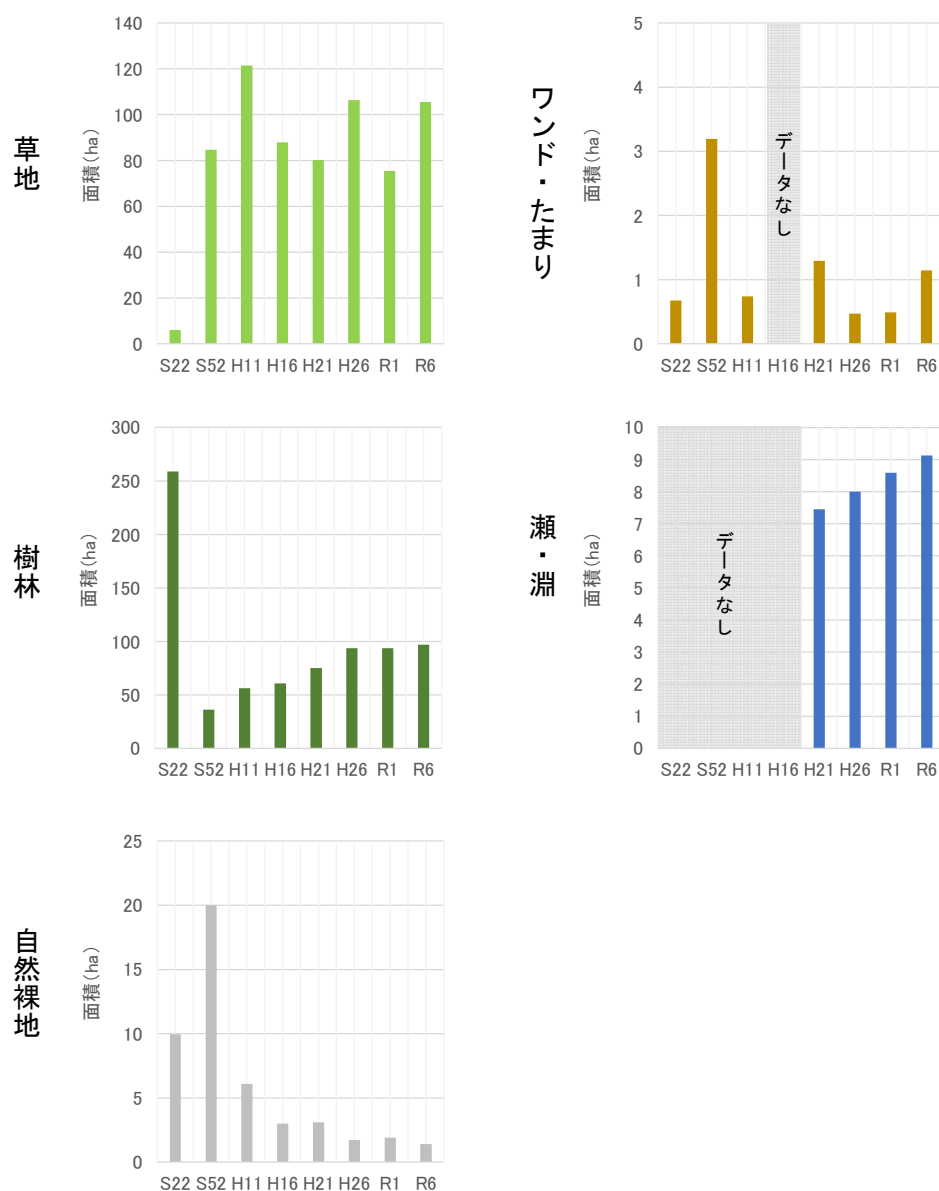


注）データ出典：S22、S52、H11：航空写真判読、H16～R6：河川水辺の国勢調査（水域は H21 以降）

図 2-17 物理環境の変遷

② 主要な自然環境要素の変化（問寒別川）

問寒別川においては、昭和 52 年（1977 年）以降に樹林面積が増加傾向を示しており、その一方で自然裸地が減少傾向を示している。また、瀬淵環境は平成 21 年（2009 年）以降、増加傾向を示している。そのほかの環境要素については、明らかな増減傾向は見られない。

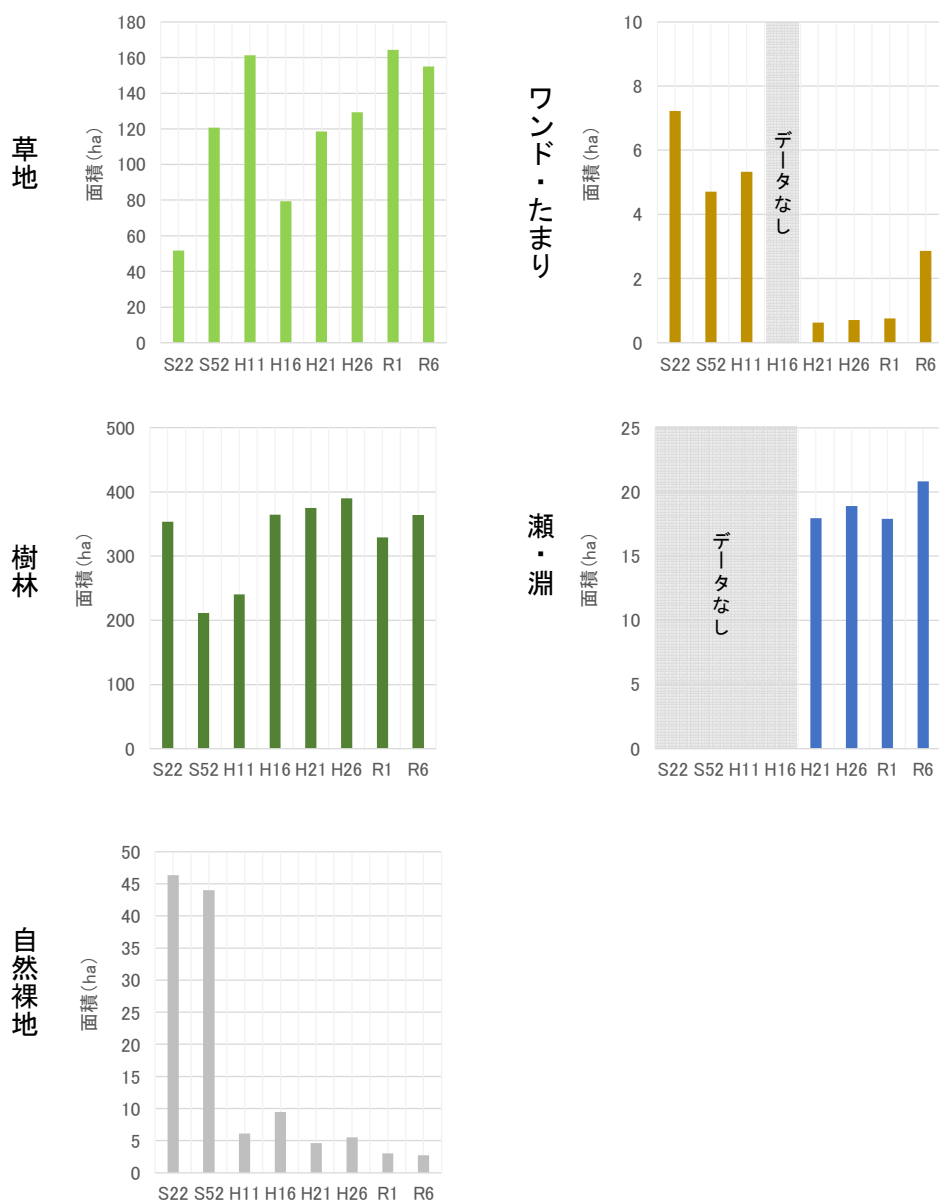


注）データ出典：S22、S52、H11：航空写真判読、H16～R6：河川水辺の国勢調査（水域は H21 以降）

図 2-18 物理環境の変遷

③ 主要な自然環境要素の変化（名寄川）

名寄川においては、昭和 52 年（1977 年）から平成 16 年（2004 年）にかけて樹林面積が増加傾向を示しており、その一方で、自然裸地が昭和 52 年（1977 年）以降減少傾向を示している。また、草地環境は、平成 16 年（2004 年）以降増加傾向を示しているほか、ワンド・たまりは平成 21 年（2009 年）以降減少傾向を示している。



注）データ出典：S22、S52、H11：航空写真判読、H16～R6：河川水辺の国勢調査（水域は H21 以降）

図 2-19 物理環境の変遷

(5) 外来種の確認状況

天塩川では、特定外来生物に指定されている植物のオオハンゴンソウ、オオキンケイギク、哺乳類のアライグマ、ミンク、陸上昆虫類のセイヨウオオマルハナバチ、底生動物のウチダザリガニが確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念される。

なお、外来種が優占する植物群落の面積割合は横ばい傾向で推移している。

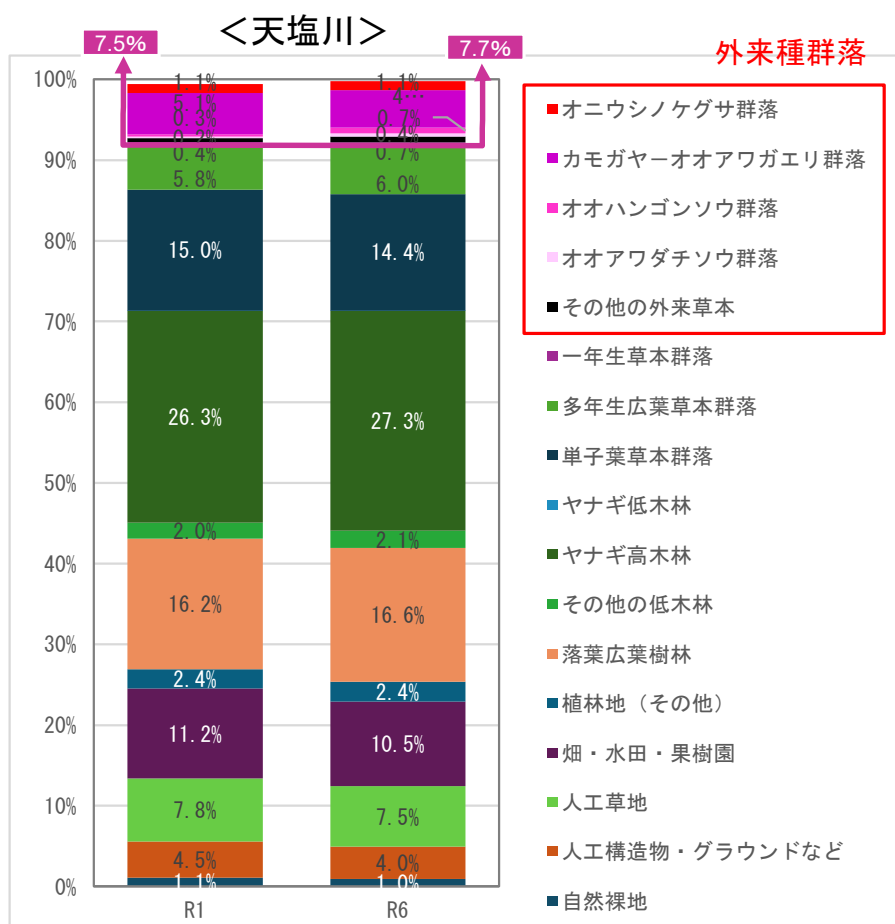


図 2-20 植物群落における外来種の分布状況



写真 2-14 外来生物

表 2-2 特定外来生物の経年確認状況

項目	種名	河川水辺の国勢調査の調査年度																							
		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
哺乳類	アライグマ	●										●										●			
	ミンク	●																				●			
鳥類	該当なし																								
魚類	該当なし																								
底生動物	ウチダザリガニ				●									●						●					
陸上昆虫	セイヨウオオマルハナバチ										●										●				
植物	オオキンケイギク																	●					●		
	オオハンゴンソウ		●					●					●					●					●		

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

① 利尻礼文サロベツ国立公園

利尻礼文サロベツ国立公園は、昭和 49 年（1974 年）に指定された、24,512ha に及ぶ日本最北端の国立公園である。

その範囲は利尻・礼文の 2 島と、稚内の^{ぼっかい}抜海から稚^{わかさかない}咲内海岸、さらに稚内市、^{とよとみちょう}豊富町、幌延町の 1 市 2 町にまたがるサロベツ原野に及んでいる。

利尻礼文サロベツ国立公園のうち、サロベツ原野の中心部分である 2,560ha はラムサール条約湿地として登録されており、北海道の最北端に広がる広大な高層湿原である。その中央に位置する原生花園では、約 100 種にも及ぶ湿原植物や花々が見られる。

特に、6 月から 7 月にかけて開花するゼンテイカ（エゾカンゾウ）の鮮やかな黄色は見事な景色を演出し、多くの観光客が訪れる。

また、サロベツ原野のパンケ沼はヤマトシジミの特産地であり、シジミ漁が行われている。



サロベツ原野を上空から望む



サロベツ原野に咲き乱れるエゾカンゾウ



パンケ沼でのシジミ漁

写真 2-15 特徴的な河川景観

② 天塩岳道立自然公園

天塩岳は、豊富な高山植物や鳥獣類の保護と北海道民のレクリエーションや健康増進を図ることを目的に、1978年（昭和53年）道立公園に指定されている。

天塩川の源流である北見山地の主峰天塩岳（標高 1,558m）は北見山地の最高峰であり、山頂からは大雪山連峰、十勝岳、芦別岳や遠くは利尻山まで眺望できる。

天塩岳には4つの登山コースがあり、毎年6月第1日曜日には天塩岳山開きが行われ、多くの登山客で賑わいを見せている。



天塩岳



天塩岳山頂

写真 2-16 天塩岳道立自然公園

③ テッシ

天塩川はアイヌ語のテシ・オ・ペッ（Tesh・o・pet）＝築（魚を捕る仕掛け）・多い・川＝が語源である。

テッシの多くは岩が築のような形に川を横断しているところから呼ばれ、多くに神話伝説を残している。

幕末の探検家松浦武四郎は、「大岩両方より出来り、テッシの形に成たり、むかし鬼神が作りしと云い、此川の惣名テッシホは此処より起りし名と言えり」と記している。

このようにテッシは天塩川の特徴的な景観であり、その周辺には良好な自然環境が形成されている。

また、カヌー下りにおいては美しい景観と共に絶好のスリルを味わえるポイントとして人々を楽しませている。



恩根内テッシ



紋穂内テッシ

写真 2-17 テッシの状況

④ 天塩川の旧川

天塩川では昭和 9 年（1934 年）以降、本格的な治水事業が開始され、洪水被害軽減のために蛇行箇所を切り替え、洪水の流れを良くする捷水路工事が多数行われている。

これにより発生した旧川は原始の天塩川の姿を物語る貴重な水辺空間となっている。

河跡湖の多くは樋門等により本川との連続性が保たれており、排水機場等の内水調整池としても機能している。灌漑用水取水場所としての営農利用や、動植物のための汽水・静水環境を有するものがあり、治水・利水・環境面で多面的に機能している。

また、一部の旧川では、水辺空間を利用した公園整備が進み、紋穂内湖^{もんぼない}周辺には道の駅びふかや、総面積 76ha の広大な敷地内に天然温泉や物産館などの交流施設をはじめ様々なアウトドア施設が整備された「森林公園びふかアイランド」が整備され、地域住民の憩いの場となるほか道北観光の拠点にもなっている。



紋穂内湖



智恵文沼で釣りを楽しむ愛好家

写真 2-18 旧川の状況

(2) 文化財・史跡

① 文化財

天塩川流域では、国指定の文化財が2箇所、道指定が1箇所ある。このうち国指定の天然記念物として、「名寄鈴石」「名寄高師小僧^{たかしこぞう}」があり、道指定の天然記念物として、「稚咲内海岸砂丘林」がある。

「名寄鈴石」は、名寄市郊外の緑丘と呼ばれる河成段丘の畑の中から発見されたものであり、直径3～6cm程度の球又は楕円体状で、赤茶褐色又は暗褐色の粗雑な表面を有する岩塊である。これを振るとカラカラと鈴のような音を発することから鈴石あるいは鳴石と呼ばれている。

「名寄高師小僧」は、鈴石と同様、河成段丘の畑の中から発見され、地下水に溶けた鉄分が土壌中の植物体の周りにこれと交代しながら水酸化鉄（褐鉄鉱、沼鉄鉱）として沈殿した後、中の植物が腐って消失し、中空の管状、樹板状になったものであり、我が国の代表的な産地として指定された。

「稚咲内海岸砂丘林」は、豊富町の日本海側沿いに幅1.6～2.0km、長さ20kmにわたって続いており、砂丘上に成育したカシワ林、針広混交林及びトドマツ・エゾマツ林から構成されている。その立地の景観とともに特異な海岸林の形態を示している。

② 史跡

天塩川の川筋を中心に先史時代における多数の遺跡が発見されている。無土器時代の石器は九十九山遺跡・日進篠原遺跡^{にっしんしのはら}・モサナル遺跡等で発見されている。特にモサナル遺跡は名寄川沿いの台地上に立地する遺跡で、大小様々な形の石器が発見されている。

縄文時代（早期・前期・中期・後期・晩期）のものとしては、早期のものでは名寄の智東C遺跡で土器を備えた集石墓が見つかり、当時の埋葬法を知る貴重な発見がされている。

約7,500年前の縄文時代前期になると、解氷による海水面の上昇があり、遺跡も上土別遺跡、多寄遺跡^{たよろ}など現在の^{たよろ}上流部に多く分布している。多寄遺跡では丸棒に刻み目をつけてころがしながら文様をつけた平底の土器が発見されている。

約5,000年前の縄文時代中期では、水が引き始め現在の地形のほぼ原型ができあがった。中期の遺跡は流域の各地で発見されているが、特に、名寄の智東B遺跡では住居跡まで残っている。

縄文時代後期・晩期の遺跡は流域であまり発見されていない。それでも名寄の智東C遺跡では墓状の穴と備えられた大型の土器が見つかった。

後縄文時代では、薄く全体を擦って整形した土器が作られた。この時代の遺跡としては豊富遺跡、ポンピラ遺跡、天塩川口遺跡などがある。

先住の人々であるアイヌの遺跡としては、天塩川口チャシ、歌内^{うたない}チャシ、オフイチャシ、茨内^{はらうち}チャシ、智恵文チャシ、ニセオチャシなど川近くの小高い丘陵の先端を空壕により区画して造られたチャシ（アイヌ語で柵囲い、砦の意）などがある。発見された中ではオフイチャシが最大のものである。

③ その他

松浦武四郎の北海道命名の地の碑が音威子府村の^{おさしま}箴島にある。松浦武四郎は安政4年(1857年)に天塩から石狩川上流への道路開さく調査のため天塩川を遡った。その調査記録を要約・刊行したのが「天塩日誌」であり、武四郎は其中で、音威子府村の川筋に住んでいたアイヌの家に宿泊し、アエトモという長老と話をした時に「ホッカイドウ」という名称の発想をしたと記述している。武四郎はアイヌの言葉を十分理解していたが、「カイナー」（男の意、カイチーが女の意）という言葉が不思議に思っていた。アエトモは「カイとはこの国に生まれた者、ナは敬語である」と武四郎に教えた。武四郎はこれを根拠に、「北加伊道」と命名し、その後「加伊」を「海」にあて「北海道」という名が誕生した。



出典：音威子府観光情報サイト

<https://inspot.jp/otoineppu/pages/1306>

写真 2-19 北海道命名の地の碑（松浦武四郎命名）

表 2-3 指定文化財一覧表 (1)

指定	市町村名	種 別	名 称	指定年月日
国	名寄市	史跡名勝天然記念物	名寄鈴石	1939/9/7
国	名寄市	史跡名勝天然記念物	名寄高師小僧	1939/9/7
国	名寄市	史跡名勝天然記念物	ピリカノカ 九度山（クトゥンヌプリ）	2009/7/23
国	士別市	登録有形文化財(建造物)	大野家住宅主屋（旧大野組事務所兼主屋）	2019/12/5
道	中川町	天然記念物	ナカガワニシン化石	2020/5/19
道	豊富町	天然記念物	稚咲内海岸砂丘林	1971/4/21
市町村	士別市	有形文化財/建造物	屯田兵屋	2005/9/1
市町村	士別市	記念物/史跡	上士別遺跡	2005/9/1
市町村	士別市	記念物/天然記念物	祖神の松	2005/9/1
市町村	士別市	無形文化財/芸能	瑞穂獅子舞	2005/9/1
市町村	名寄市	有形文化財/建造物	名寄教会	2006/3/27 (旧名寄市指定 :2002/11/27)
市町村	名寄市	無形文化財/芸能	風連獅子舞	2006/3/27 (旧風連町指定 :1977/4/1)
市町村	名寄市	記念物/天然記念物	グイマツ	2006/3/27 (旧風連町指定 :1978/4/1)
市町村	名寄市	記念物/天然記念物	ミズナラ林	2006/3/27 (旧名寄市指定 :2002/11/27)
市町村	和寒町	有形文化財/美術工芸品	神楽面	1999/7/5
市町村	和寒町	民俗文化財/無形	稚児舞	2011/3/30
市町村	和寒町	有形文化財/美術工芸品	青い目の人形	2011/3/30
市町村	和寒町	記念物/史跡	ペオッペ駅通	1999/7/5
市町村	剣淵町	有形文化財/建造物	屯田兵屋	1975/7/12
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「こうしがうまれたよ」絵本原画	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「こうしがうまれたよ」デッサン	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「こうしがうまれたよ」デッサン	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「いちばんはじめのクリスマス」絵本原画	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「白鳥のおきさき」絵本原画	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「くまの王子」絵本原画	2023/4/14

表 2-4 指定文化財一覧表 (2)

指定	市町村名	種 別	名 称	指定年月日
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	「ジャックと豆のつる」絵本原画	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	木漏れ日の椅子	2023/4/14
市町村	剣淵町	有形文化財/美術工芸品	ピクチャーフレームにある椅子	2023/4/14
市町村	剣淵町	記念物/史跡	屯田兵射的場跡地	1954/9/1
市町村	剣淵町	記念物/天然記念物	やちだも	1956/9/1
市町村	剣淵町	記念物/天然記念物	緋鮒、銀鮒、鉄魚	1964/9/1
市町村	下川町	記念物/天然記念物	はるにれ	1964/10/14
市町村	下川町	記念物/天然記念物	下川鳴る石	1982/12/10
市町村	下川町	民俗文化財/無形	上名寄郷土芸能	1964/10/14
市町村	美深町	記念物/史跡	天塩川由来の地	1983/10/3
市町村	美深町	記念物/史跡	富岡遺跡	1983/10/3
市町村	美深町	記念物/史跡	モンポナイ遺跡	1983/10/3
市町村	美深町	記念物/史跡	楠遺跡	1983/10/3
市町村	美深町	記念物/天然記念物	松山湿原	1983/10/3
市町村	天塩町	有形文化財/建造物	天塩巖島神社	2011/10/28
市町村	天塩町	記念物/史跡	運上屋跡	1982/1/26
市町村	天塩町	記念物/史跡	天塩駅通跡	1982/1/26
市町村	天塩町	記念物/史跡	基線渡船場跡	1983/1/21
市町村	天塩町	記念物/史跡	雄信内渡船場跡	1984/2/29
市町村	天塩町	記念物/史跡	振老渡船場跡	1984/2/29

出典：国指定文化財等データベース

北海道教育委員会 北海道指定の文化財一覧、市町村指定の文化財一覧

(3) イベント・観光

天塩川は、散策、釣り、カヌーツーリング等、河川や自然とのふれあいの場として利用されており、天塩川河口部には鏡沼海浜公園や天塩川河川公園等が整備され、キャンプ場やアウトドアレジャースポット、ジョギングや散策など、地域住民や観光客の憩いの場として多目的に利用されているほか、「天塩川しじみまつり」等が開催されている。

天塩川上・中流部では、河川敷にパークゴルフ場、サッカー場、サイクリング園路等が整備され、市民の健康増進、憩いの場として利用されている。また、天塩川全川を使って天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ」が毎年開催されている。

加えて、宗谷シーニックバイウェイ（道路事業）と連携した、旭川から稚内の宗谷岬まで自転車で走るサイクルイベント「TEPPEN-RIDE」や、道（Road＝自転車・歩く）、川（River＝カヌー）、鉄道（Rail＝JR 宗谷本線に乗車、駅弁）が並行する地域性を活かして、3つのRを活用した「R3 モニターツアー」を実施している。

また、市民や地域の NPO 等と河川管理者が連携しながら、河川清掃などの維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察等の環境教育が積極的に行われている。こうした中、かわまちづくりと一体となった観光振興や親水空間創出の具体化に向け、「天塩地区かわまちづくり計画（平成 27 年（2015 年）3 月）」や「名寄地区かわまちづくり計画（平成 29 年（2017 年）3 月）」に基づき、市民や河川管理者が協働して地域の活性化に取り組んでいる。

このように、天塩川流域では、各地域の特色を活かし、まちづくりと一体となった整備や河川利用がなされ、環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、天塩川の魅力や河川を軸とした歴史・文化の発信に関する新たな取組も積極的に行われている。



写真 2-20 ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッの様子



写真 2-21 TEPPEN-RIDE の様子

表 2-5 主な観光対象（1）

項目	名称	市町村	概要
イベント	森と匠の村 ふるさと納涼まつり	音威子府村	花火大会、子ども縁日、よさこい、太鼓演奏、キッチンカーなど、夏の日を楽しめる。
	しべつ雪まつり	士別市	士別の冬を代表する一大イベント。会場には巨大滑り台、大雪像、テント屋台村などが登場する。士別が元祖の国際選手権「国際雪ハネ選手権」も開催される。
	士別神社例大祭（士別まつり）	士別市	7月中旬頃。毎年3日間にわたり盛大なお祭りを行っている。境内では大國舞や、つくも太鼓などの様々な奉納行事が行われる。街中では神輿渡御、中央公園には屋台や露店も出店される。
	岩尾内湖 湖水まつり	士別市	森と湖に囲まれた大自然の中での体験イベントやステージイベント、特産品の販売、湖面に映える花火大会など湖畔の1日を存分楽しめる。
	士別天塩川まつり	士別市	種類豊富なしべつグルメ広場や縁日、ヨサコイにお菓子まきなど楽しいイベントのほか、川舟みこしや千人踊りが行われる。納涼花火大会では、音楽に合わせた花火の打ち上げや、スターマインなど花火を間近で観覧できるのが魅力。
	天塩川しじみまつり	天塩町	恒例のしじみ貝詰め放題、バラエティ豊かなキッチンカーフェスティバル、こども縁日にふわふわ遊具、大抽選会、音楽ライブ、ものまね芸人によるステージショー、キャラクターショー、花火大会などが行われる。
	厳島神社例大祭	天塩町	厳島神社は、日本海と天塩川で働く人々の守護神としてまつられ、天塩港の鎮守神でもある。勇壮な神輿がまちを練り歩き、古式ゆかしい天塩獅子舞、かわいいう子供樽神輿や稚子舞などが花を添える。伝統のおまつり。
	雄信内夏まつり	天塩町	年に一度の雄信内の野外イベントで、盆踊り、ビンゴ大会などが行われる。
	ダウン・ザ・テッシェーオーベツ	天塩町、幌延町	1992年から続く天塩川を下る伝説の国内最大リバーカヌーのツーリングイベント。毎年2日間のキャンプをしながら天塩川の40～50km区間を下り、4年に一度100マイル（160km）一氣にリバーツーリング・キャンプをするという雄大な北海道にふさわしい壮大なカヌーのエクスペディション。
	中川町秋味まつり	中川町	出店、物産販売、丸太押し相撲大会、鮭のつかみ取りや野菜の詰め放題、ステージイベントやもちまきなどが行われる。
	ふうれん白樺まつり	名寄市	風運御料太鼓、阿波おどり、多彩なステージショーを楽しむことができる。ちびっこ広場なども設けられている。
	てっし名寄まつり	名寄市	各地のグルメを楽しめるキッチンカーフェスタ、ステージショー、花火大会などが行われる。
	なよろひまわりまつり	名寄市	特産品・オリジナルグッズの販売、ひまわりドアなどのフォトスポットの設置などが行われる。期間限定の名寄の「絶景」を楽しめる。
	なよろ産業まつり～もち米日本一フェスタ～	名寄市	恒例の「もちまき」や観客参加型イベントが開催される。高所作業車への搭乗ができる「建設業体験コーナー」や名寄で夏に味わう赤福や赤福米の販売、物販ブースやステージイベントなども行われる。
	なよろ雪質日本一フェスティバル	名寄市	会場内は滑り台付き大雪像や芸術家による雪像彫刻作品、イルミネーションに彩られるほか、雪の巨大迷路、スノーモービル遊覧、極寒焼肉フェス、雪質日本一雪上わんぱく相撲、全日本5色綱引き大会などが行われる。スノードーム作り体験や屋台、キッチンカーの出店、名寄市ご当地グルメ「なよろ煮込みジンギスカン」も味わえる。
	雪灯籠まつり	美深町	商店街や事業所などで制作する雪灯籠が町中に数十基並び、淡いきれいな光が美深の夜を彩る。
	望の森さくらまつり	美深町	春恒例のおまつり。水風船キャッチ大会、美深町の豪華特産品が当たる「お楽しみ抽選会」などスペシャル企画が盛りだくさん。
	美深ふるさと夏まつり	美深町	あんどん行列、納涼ビールパーティーに打上げ花火、ビンゴ大会、お楽しみ抽選会などが行われる。
	美深ふるさと子供盆踊り	美深町	美深町の夏の恒例行事。子供盆踊りや駄菓子撒きが行われ、大人でも楽しめる企画、出店が盛りだくさん。
	美深ファーマーズマーケット	美深町	地元生産者による新鮮でおいしい野菜のマーケット。地元野菜を現地で農家さんから直接購入できる年に一度の貴重なイベント。ハズレなし！豪華景品が当たるスタンプラリーも同時開催している。
	美深ふるさと秋まつり	美深町	美深の秋の大収穫祭。美深産の新鮮野菜を農家さんが販売する。お菓子すくいコーナー、歌謡ショーなどもある。
	ほろのべ名林公園祭	幌延町	豪華ゲストのライブステージ。様々な展示ブースやキッチンカー、とうもろこしムキムキ大会、豪華景品が当たるお楽しみ大抽選会、賞金争奪綱引き大会や伝統のど真ん中踊り練り歩き、子供・大人の仮想盆踊り大会、打ち上げ花火などが行われる。
	クリスマスパーティー in 糠南	幌延町	ダントツ人気の秘境駅「糠南駅」で開かれているクリスマスパーティー。かまくら作り体験や除雪体験などもある。
自然	祖神の松	士別市	樹齢1千数百年といわれるイチイの木。巨樹・巨木林調査の全国イチイの部では第2位にランクされている。士別市指定文化財にも指定されており、この祖神の松が山の守り神として崇められてきた。
	満天の星の丘	士別市	全国でも有数の星空観測スポット。天の川をはじめ、夏の三大三角形やカシオペア座、北斗七星など、肉眼でもいくつもの星を見ることができ、天然のプラネタリウムを楽しむことができる。
	岩尾内湖	士別市	天塩川を堰きとめたダム湖。穏やかな湖に現れる水鏡も魅力。周辺には岩尾内湖白樺キャンプ場、バンガローがあり、湖では、釣り、カヌー、ボート等を楽しめる。
	天塩岳	士別市	日本二百名山、「天塩岳道立自然公園」にも指定されており、一面に広がる高山植物やクマガイラやナキウサギなど貴重な生物が息息する、北海道の隠れた名山。
	振老沼	天塩町	シベリアから渡ってくる、白鳥や雁達の貴重な中継地となっており、春と秋にはたくさんさんの渡り鳥が観覧できる。
	期間限定の原生花園	中川町	国道40号線の東沿いに並ぶ防風林の向こう側に、6月中旬出現する黄色の絨毯。野生のエゾカンゾウが一斉に咲き誇る。 その一か月後、同じ場所が紫色一色に！今度はノハナショウブが短い夏を盛り上げる。 どちらもピークは1週間程度で、この時期に、ここでしか楽しめない、美しい景色。
	仁宇布の冷水と十六滝	美深町	仁宇布地域に点在している16ヶ所の滝のうち、雨霧の滝、女神の滝、深緑の滝、激流の滝、高広の滝は、車で行くことも可能。
	びふか松山湿原	美深町	北海道自然環境保全地域で、日本の重要湿地500のひとつに数えられる。幾百年もの歳月に耐えた様性のアカエゾマツ、ハイマツがまるでオブジェのように並び、帯に見事な姿を披露してくれる。
	函岳	美深町	晴天時、山頂からはオホーツク海や日本海に浮かぶ利尻富士を大パノラマで眺望できる。
	パンケ沼	幌延町	標高0mにあるため、海水がやや混じり、ヤマトシジミ（生息北限）、イトウなども棲息。鳥類では準絶滅危惧種のオオヒシクイ、コハクチョウなどのガンカモ類の飛来地となっている。パンケ沼園地に整備された木道途中には、野鳥観察舎、沼に突き出た立見台などがあり、途中の立見台からは岸辺の泥炭層も観覧できる。
	サロベツ原野	幌延町	日本三大湿原のひとつ「サロベツ湿原」は、6,700haの面積を誇る国内最大の高層湿原。5～9月にかけて100種類以上の花が次々に咲き、6月下旬から7月初旬はサロベツを代表する花「エゾカンゾウ」が見頃を迎える秋は渡り鳥と草紅葉、冬はスノーシューが楽しめる。

表 2-6 主な観光対象 (2)

項目	名称	市町村	概要
公園	つくも水郷公園	士別市	使命を終えたD51型397蒸気機関車が展示されている。アスレチックや水遊び場、パークゴルフやボートがあり、冬は無料でスケートリンク場も利用できる。さらにはキャンプ場も用意されており、子供から大人まで楽しめる人気の公園。
	天塩川河川公園	天塩町	北海道で2番目の長流天塩川河口河川敷につくられた「天塩川河川公園」。青々とした芝生と雄大な天塩川、対岸の砂洲から広がる日本海。水平線からそびえる利尻山。夕暮れ時には巨大なパノラマが始まる。
	天塩町鏡沼海浜公園	天塩町	鏡沼を中心にした公園で、バーベキューを楽しめる多目的施設やキャンプ場を設置しており、近くには保養施設の「てしお温泉・夕映（ゆうばえ）」があり、西側の丘にはハマナス100万本を目標にボランティアが植栽活動を進めている。
	茂吉小公園	中川町	志文内（現共和）にあった守谷富太郎の診療所の前に、1978（昭和53）年10月に茂吉の来町を記念する歌碑が建てられた。診療所は1993（平成5）年に老朽化のために解体されたが、その跡地と茂吉歌碑を中心に茂吉小公園として整備・保存されている。短歌フェスティバルの歴代の入選歌が掲示されており、短歌に親しむ人々の吟行ポイントとなっている。
	北海道立サンビラーパーク	名寄市	森林・水・草原・花畑などがひろがる自然豊かな公園空間で、それぞれに特徴のある3つのエリアと11のゾーンがある。敷地内に児童遊具施設、工芸体験ができる工房館やオートキャンプ場、ひまわり畑などがあり、大人から子供まで楽しめる。また、毎年8月上旬～中旬頃に見ごろの時期を迎えるひまわり畑には観光案内所や展望台が設置される。約3万平米の斜面いっぱいの黄色いひまわりの向こうには名寄市内を一望することができる。
	森林公園びふかアイランド	美深町	びふか温泉、キャンプ場、チョウザメ館、ターフグレンデ、パークゴルフ場、テニスコート、カヌー体験など、豊かな緑に包まれながら身体を動かし、潤いと安らぎを感じながらアウトドアを満喫できる。
観光拠点	北海道命名之地	音威子府村	「北海道」の名付け親は、幕末の探検家 松浦武四郎。その基となる「北加伊道」は、音威子府村で発案された。松浦武四郎の『天塩日誌』に残された記録などから、釧路地区天塩川流域の地に『北海道命名之地』碑を建立されている。
	エコミュージアムおさしまセンター	音威子府村	彫刻家の砂澤ビッキの作品を中心に展示している芸術文化施設。ビッキが生誕に遡り制作した約1,000点の作品のうち、およそ200点余りを展示。2か月に1回のペースで村にゆかりのアーティストなどの展示企画も行っている。喫茶スペース「いないいないばあ」では、美深のコーヒード豆店「煎り豆」さんのコーヒータや、ガラナなどの懐かし瓶ジュースを揃えている。
	高橋 昭五郎 彫刻の館	音威子府村	彫刻家砂澤ビッキ氏と親交のあった彫刻家「高橋昭五郎」氏の作品を数十点展示している。
	道の駅 羊のまち 侍・しべつ	士別市	市内中心市街地にあり地域の食と観光を繋ぎ届ける施設。アンテナショップでは、地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」などの市内特産品や名産品をはじめ、友好都市や近隣市町村の特産品などを販売している。レストランでは「士別サフォークラム」を使用したメニューや、地元の食材を活かした料理を味わうことができる。
	士別市立博物館	士別市	約6000年前の遺跡で、士別の文化財に登録されている上士別遺跡の発掘物や、北海道の先住民であるアイヌ民族が使用していた衣装、屯田兵の生活の再現、開拓当時使用していた道具や士別発展の基盤を作った産業を象徴する展示品が見られる。
	士別市立公会堂展示館（文化芸術展示）	士別市	館内では、版画家 小池幡子氏や彫刻家 阿部晃工氏などの郷土の芸術家の作品や、和泉雅子氏や輪島功一氏などの士別ゆかりの著名人の資料を展示している。
	士別市朝日郷土資料室（朝日活性化施設まなべる）	士別市	朝日町開拓時代からの農機具・林業用具・生活用品・個人収集品など、朝日町の歴史に関わる品を展示している。
	天塩町情報交流センター「道の駅てしお」	天塩町	札幌・留萌方面と稚内方面とを結ぶ天塩バイパス（国道232号線）に面し、天塩町の観光案内を始め特産品の販売や、しみじみ汁やしじみラーメンなどが味わえるレストランの機能が備わっている。
	天塩川歴史資料館	天塩町	「赤レンガ」として町民に親しまれている旧役場庁舎を利用し、「新天地天塩」に夢を求め天塩川とともに歩んだ地域の歴史や、文化、教育資料など2,000点を超える貴重な資料を展示している。また、約300万年前と推定される世界最古のコクシラ化石（テシオコクシラ）も展示されている。
	道の駅 なかがわ	中川町	北海道の道の駅の中では最大級の暖炉がある。絵本や町内の様々な風景や動植物の写真を展示しており、中川の魅力を紹介するコーナーがある。ガラス天窓から光が降り注ぎ、明るい雰囲気のレストランでは、道外の北海道物産展で人気のステーキ弁当も販売している。
	中川町エコミュージアムセンター「エコールなかがわ」	中川町	閉校した佐久中学校を利用し、宿泊研修施設を併設した自然誌博物館。全長11mのクビナギリウの復元骨格や、大きなアンモナイトなど、恐竜時代の化石が数多く展示されている。
	佐久ふるさと伝承館	中川町	JR佐久駅の駅舎内に、地元の方々から寄贈された昔の道具など貴重な資料が展示されている。ハッパの蒸留装置や馬糞、そして生活感あふれる道具たちが静かに並んでいる。
	道の駅「もち米の里☆なよろ」	名寄市	名寄市特産のもち米で作った特産品をはじめ、農産物直売所ならではの珍しい野菜が手に入る。豊富な種類を取りそろえる「ソフト大福」をはじめ、市内で製造するお菓子やそば等、お土産品も豊富に取り揃えている。地元食材を取り入れた料理を提供するレストラン「お食事 風の寄り道」も人気。
	名寄北国博物館	名寄市	厳寒の冬の自然と先人が培った歴史に学ぶため、冬の森のジオラマや住居と探検の移り変わりを復元したコーナーなど、「北国」をテーマにした展示が充実。先史時代、アイヌ文化、暖房・防寒・除雪具、スキーなど雪・寒さに関する希少な生活資料が展示されています。
	SL排雪列車キマロキ	名寄市	「キマロキ」編成とは、機関車の（キ）、マックレー車の（マ）、ロータリー車の（ロ）、機関車の（キ）の順に連結された、排雪用編成列車のかしら文字をとって、名づけられたもの。現在は全国で名寄市にしか現存しておらず、旧名寄本線の線路上に展示されている。丁寧に手入れされ、今なお迫力満載な姿を見ることができ。
	トロッコ王国美深	美深町	本物のレールの上を白樺や木々のトンネルをくぐり、渓谷の合間や野原を風を切って走るエンジン付のトロッコに乗ることができる。往復10キロ（約40分）自らの運転で走ることができるテーマパークは、全国でもここだけ。
	道の駅びふか（美深町物産展示館双子座館）	美深町	国道40号沿いにある道の駅「びふか」は、イタリア人の建築家が設計した中世ヨーロッパの城風の建物。美深産はちみつをトッピングした「びふかはちみつソフト」、白樺の樹液をつめたドリンク「森の雫」や、名産のくりじやがを使った揚げたてコロッケ、美深産「美深キャビア」、自家栽培・自家製造にこだわったトマトジュース「太陽の水」など、美深の特産品が勢揃いしている。
	チョウザメ館	美深町	美深町で養殖を行っている生きた化石とも呼ばれているチョウザメを無料で見学することができる。チョウザメの養殖過程が見られる展示もあり、子供はもちろん大人も楽しめる施設。
	幌延町 トナカイ観光牧場	幌延町	約30頭のトナカイたちが暮らしている。トナカイそり体験や現地ガイド（事前連絡必要）、当たりくじ付きトナカイのえさガチャがある。定休日でも牧場内でトナカイを見ることができ。北方圏の花園（ノースガーデン）では幻の花「青いケシ」を栽培している。自生種は標高3,000～5,000メートルのヒマラヤや中国西南部の秘境でしか見られず、登山家の間では天上の妖精と称され、青い色は澄んだ湖水のように美しく、見る人の心を惹きつける。
	幌延深地層研究センター ゆめ地創館	幌延町	幌延深地層研究センターで行われている高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発について、分かりやすく紹介されている。研究の背景についての説明や、調査研究が行われている地下施設の紹介、また地下の様子など、様々な内容について展示している。地上50mの展望タワーや地下500mの世界への移動を模擬体験できるエレベータ、地下350mにある調査坑道を3Dで探検できるコンテンツなど、子供でも楽しめる展示もたくさん用意されている。
	金田心象書道美術館	幌延町	書家「金田心象」先生の、書作品約1,700点をはじめ、硯・筆・陶器類約400点を収蔵している美術館。
	幌延町郷土資料館	幌延町	先史時代の遺物や開拓時代の生活用品を展示している。動植物のコーナーもあり、人と自然が共生してきた幌延の歴史が学べる。
	幌延ビジターセンター	幌延町	ビジターセンターの1階では、サロベツで出会うことができる動植物を紹介している。季節毎に花の開花状況などの自然情報を発信しているホワイトボードがあるほか、設置しているタブレット端末では、利尻礼文サロベツ国立公園で行うことができる体験アクティビティ、周囲の施設へのアクセス方法や天候情報などを調べることができる。2階では下サロベツ原野を一望することができ、天気が良い日は利尻山を見ることができる。

※出典：流域市町村の公式ウェブサイト及び観光協会ウェブサイト

2-4 自然公園等の指定状況

天塩川流域内では、「利尻・礼文・サロベツ国立公園」、「天塩岳道立自然公園」の2つが自然公園法の指定を受けている。流域内における鳥獣保護区は22箇所が指定され、休猟区が3箇所、銃猟禁止区域が2箇所指定されている。

また、松山ピヤシリ湿原が自然環境保全地域に指定されている。

表 2-7 自然公園

図面 番号	名称	指定年月日	保護計画による地区、地域面積 (ha)			
			特別保護区	特別地域	普通地域	計
①	利尻礼文サロベツ 国立公園	昭和 49 年 (1974 年) 9 月 20 日	9,566	14,791	155	24,512
②	天塩岳 道立自然公園	昭和 53 年 (1978 年) 1 月 6 日	—	9,348	—	9,348

表 2-8 自然環境保全地域等

図面番号	名称	市町村名	面積 (ha)
③	松山ピヤシリ	名寄市、美深町、雄武町	1,882

表 2-9 銃猟禁止区域

図面番号	名称	面積 (ha)	存続期間
1	鏡沼	294	H27.10.1～H37.9.30

表 2-10 鳥獣保護区

図面番号	名称	面積 (ha)	存続期間
(1)	サロベツ (国設、渡)	3,739	H23.10.1～H43.9.30
(2)	和寒 (道設、森)	490	R6.10.1～R26.9.30
(3)	ペオッペ (道設、森)	300	H17.10.1～H37.9.30
(4)	朝日 (道設、森)	374	R5.10.1～R25.9.30
(5)	ふどう (道設、身)	23	H23.10.1～H38.9.30
(6)	^{ちゅうれつぷ} 忠烈布 (道設、森)	920	R6.10.1～R26.9.30
(7)	西風連 (道設、森)	300	H18.10.1～H38.9.30
(8)	旭東 (道設、身)	35	H26.10.1～H46.9.30
(9)	となみが丘 (道設、身)	172	H26.10.1～H46.9.30
(10)	新下川 (道設、森)	513	H17.10.1～H37.9.30
(11)	一の橋 (道設、森)	383	H17.10.1～H37.9.30
(12)	松山 (道設、森)	838	H20.3.30～H39.9.30
(13)	中川 (道設、森)	516	H18.10.1～H38.9.30
(14)	北大中川地方演習林 (道設、大)	19,342	H19.10.1～H39.9.30
(15)	智恵文沼 (道設、渡)	23	H25.10.1～H45.9.30
(16)	中多寄 (道設、渡)	10	H27.10.1～H47.9.30
(17)	函岳 (道設、森)	3,514	H28.10.1～H48.9.30
(18)	北大天塩研究林 (道設、森)	323	H18.10.1～H38.9.30
(19)	幌延 (道設、身)	187	H26.10.1～H46.9.30
(20)	^{だんのつぷ} 男能富 (道設、森)	168	H19.10.1～H39.9.30
(21)	^{ゆうくる} 夕来稚咲内 (道設、森)	2,832	H22.10.1～H42.9.30
(22)	兜沼 (道設、渡)	278	H25.10.1～H45.9.30

森：森林鳥獣生息地保護区 渡：集団渡来地保護区 身：身近な鳥獣生息地 大：大規模生息地保護区

3. 流域の社会状況

3-1 土地利用

天塩川流域は上川、留萌、宗谷の3支庁にわたり3市8町1村で構成され、流域面積は約5,590km²である。

土地利用の現況（令和3年）を地目別にみると、山林が北見山地、天塩山地の樹林を中心に、約73%を占め最も大きい。次いで平野部を中心に広がる田・畑が大きく、農地で約18%となっている。市街地は、名寄市街をはじめとして稚内市を除く流域11市町村に点在し、全面積の約0.7%である。

表 3-1 地目別土地利用の割合（天塩川流域）

	山林	農地	市街地	河川	その他
昭和51年	66.3%	17.1%	0.6%	2.1%	13.9%
平成9年	64.4%	19.5%	0.8%	2.1%	13.3%
平成21年	71.5%	18.1%	0.9%	2.0%	7.5%
平成28年	73.1%	18.2%	0.7%	2.2%	5.8%
令和3年	73.1%	18.2%	0.7%	2.3%	5.7%

※四捨五入等端数処理の都合により、各項目の合計は100%にならない

出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（S51、H9、H21、H28、R3）

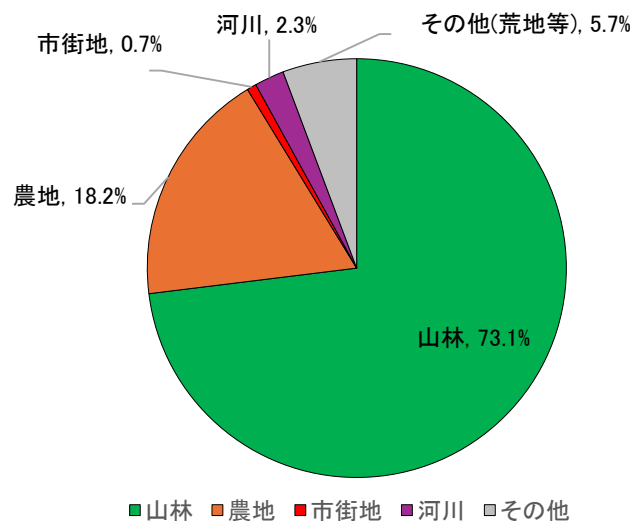
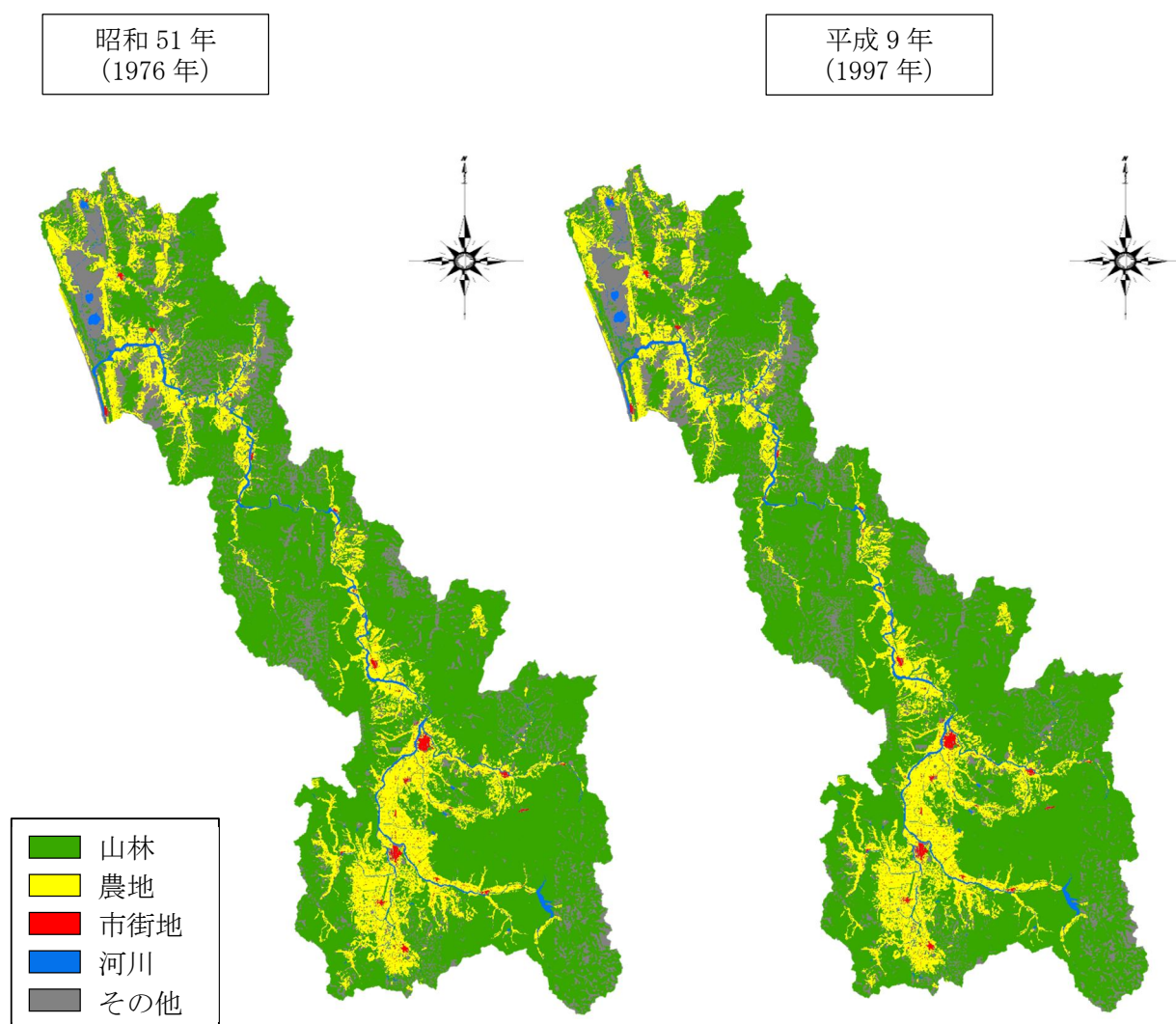


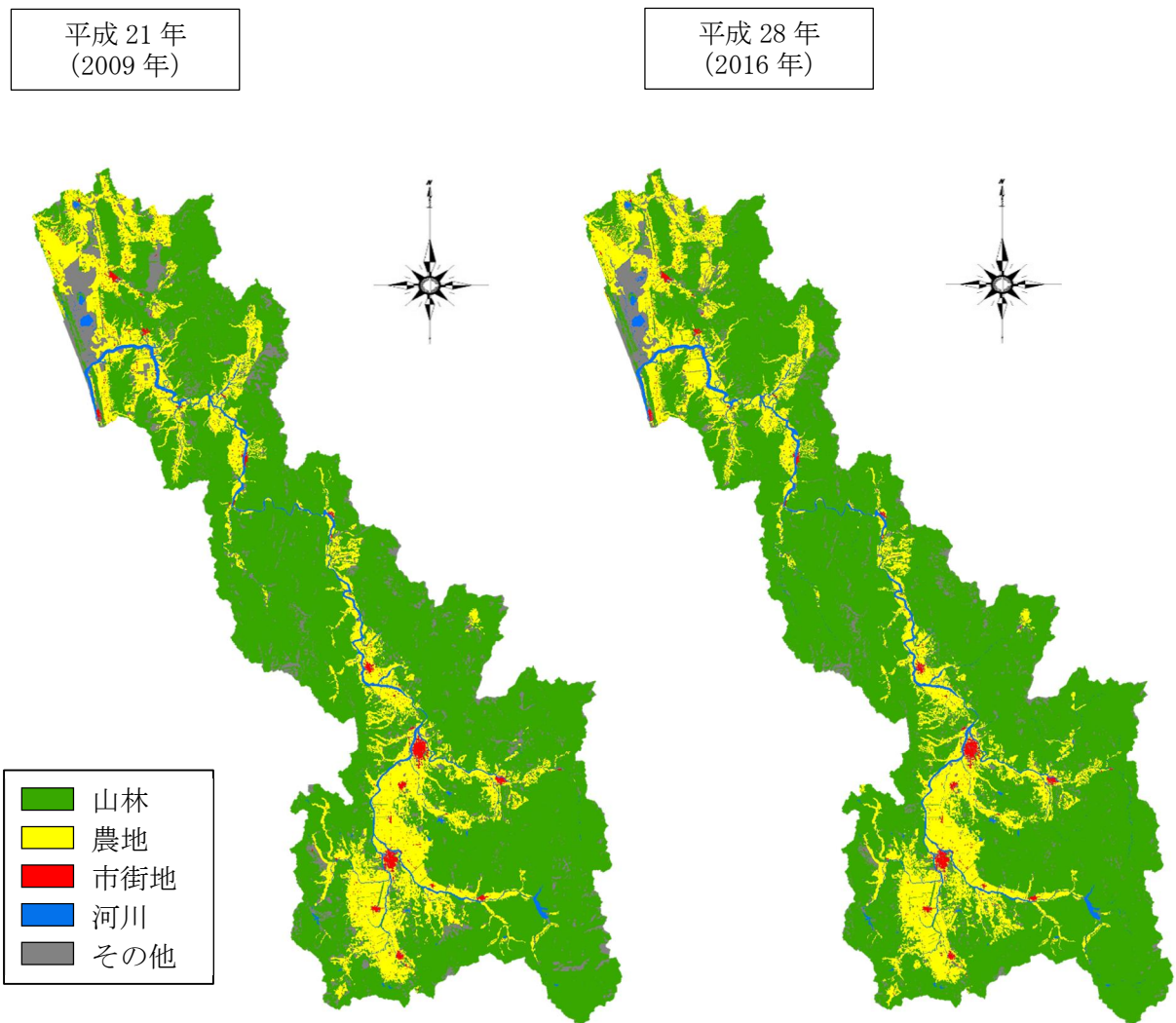
図 3-1 地目別土地利用の割合（R3）

※出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（R3）



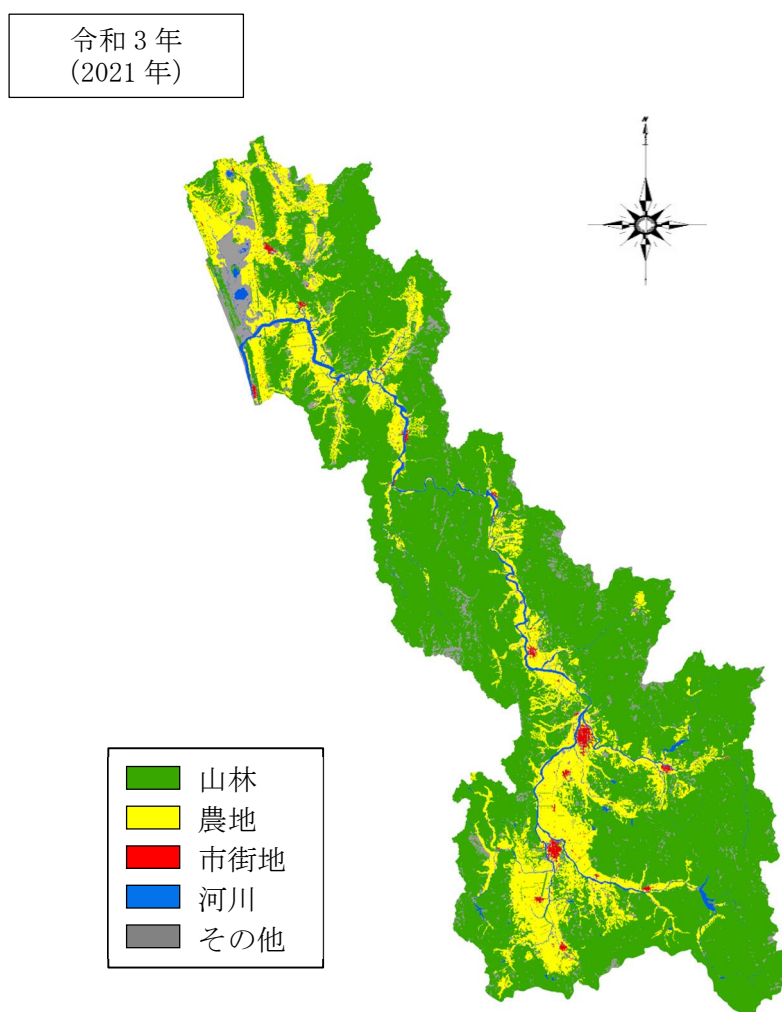
出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（S51、H9）

図 3-2（1） 天塩川流域の土地利用の変遷



出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（H21、H28）

図 3-2（2） 天塩川流域の土地利用の変遷



出典：国土数値情報土地利用細分メッシュ（R3）

図 3-2 (3) 天塩川流域の土地利用の変遷

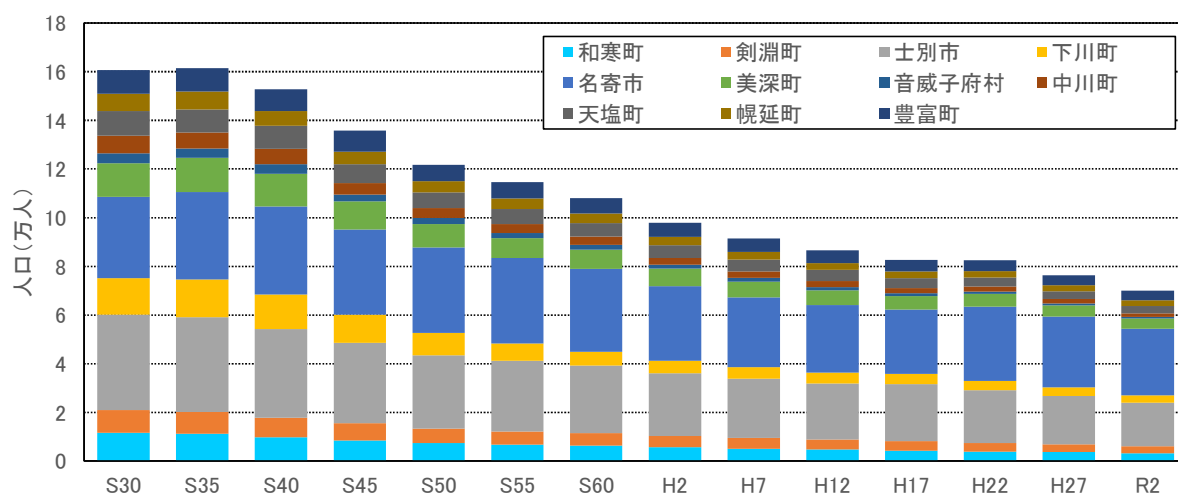
3-2 人口

天塩川の流域は上川総合振興局・留萌振興局・宗谷総合振興局にまたがる3市8町1村からなり、その人口は70,058人（令和2年（2020年）国勢調査、稚内市を除く）である。また、天塩川流域の人口は、昭和35年（1960年）をピークに減少傾向を示している

表 3-2 天塩川流域に関わる市町村人口・世帯数・人口密度

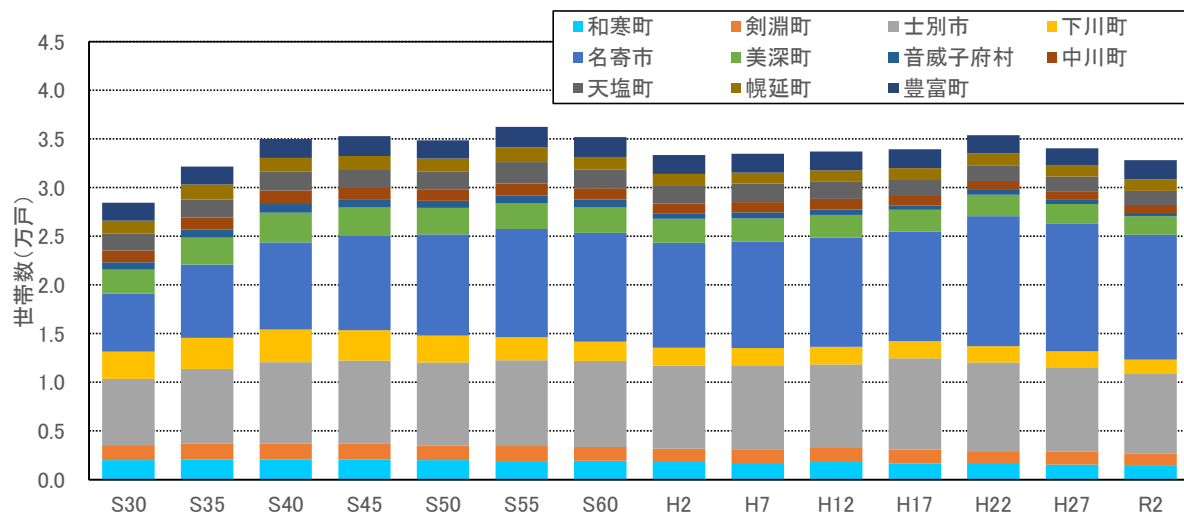
区分	面積 (km ²)	総人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口密度 (人/km ²)
和寒町	225.11	3,192	1,429	14.2
剣淵町	130.99	2,926	1,227	22.3
士別市	1,119.22	17,858	8,184	16.0
下川町	644.54	3,126	1,473	4.8
名寄市	534.86	27,282	12,810	51.0
美深町	672.09	4,145	1,912	6.2
音威子府村	275.63	706	347	2.6
中川町	594.74	1,528	822	2.6
天塩町	353.56	2,950	1,425	8.3
幌延町	574.10	2,371	1,225	4.1
豊富町	520.69	3,974	1,951	7.6

人口はR2国勢調査人口を採用。稚内市を除く
市区町村別総面積 出典：北海道統計書（R7）



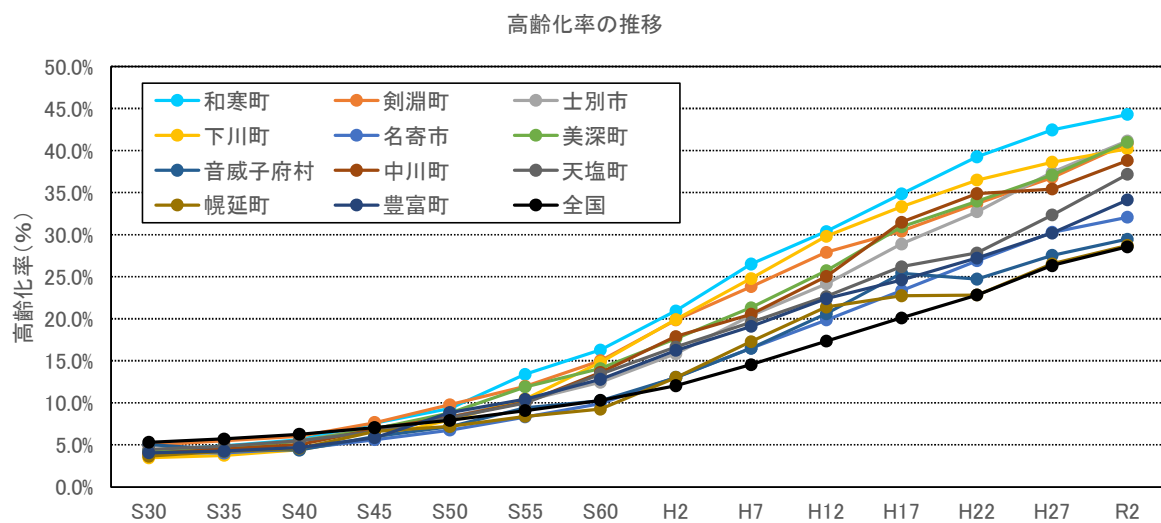
出典：昭和30年～令和2年国勢調査

図 3-3 天塩川流域に関わる市町村人口の推移



出典：昭和30年～令和2年国勢調査

図 3-4 天塩川流域に関わる世帯数の推移



出典：昭和30年～令和2年国勢調査

図 3-5 高齢化率の推移

3-3 産業と経済

上流部は豊富な森林資源に恵まれており林業が盛んである。また、名寄盆地を中心に大規模な稲作及び畑作が行われている。製造業は、地元の木材や農産物を活用した製紙、農産物加工業が盛んである。中流部は畑作が中心であり麦類や雑穀・豆類及び甜菜を中心とした工芸農作物が多く生産されている。また、美深町は稲作の北限地帯である。他には、広大な土地を利用した酪農が盛んであり、河川敷にも多数の採草放牧地が存在する。下流部は中流部と同様に畑作と酪農が盛んである。河口では漁業が盛んであり、シジミ漁やサケ漁が行われており天塩町の鏡沼では毎年「鏡沼しじみまつり」が開催され、夏の名物となっている。

表 3-3 天塩川流域における産業別就業者数

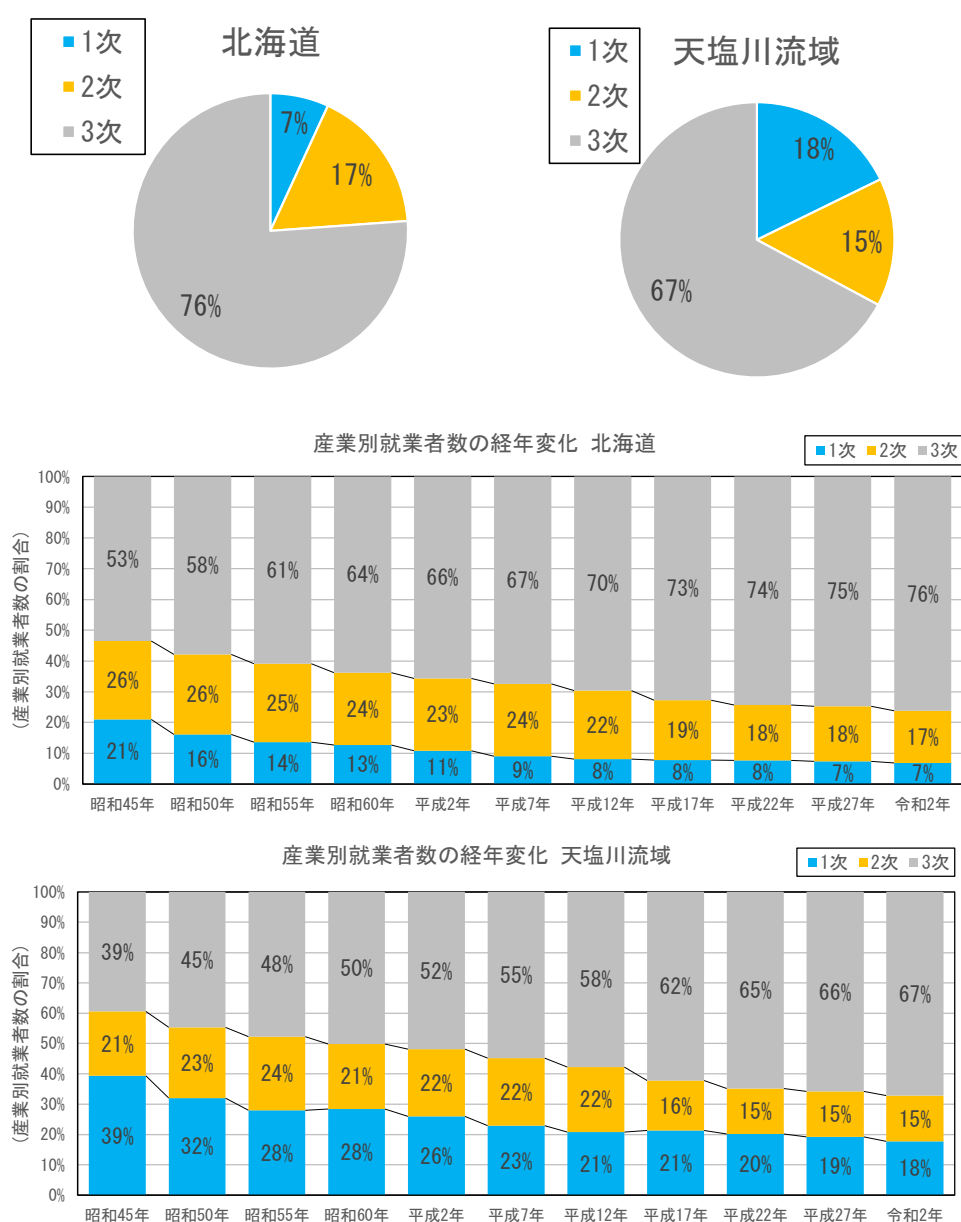


図 3-6 (1) 天塩川流域の産業別就業者数 (R2 国勢調査)

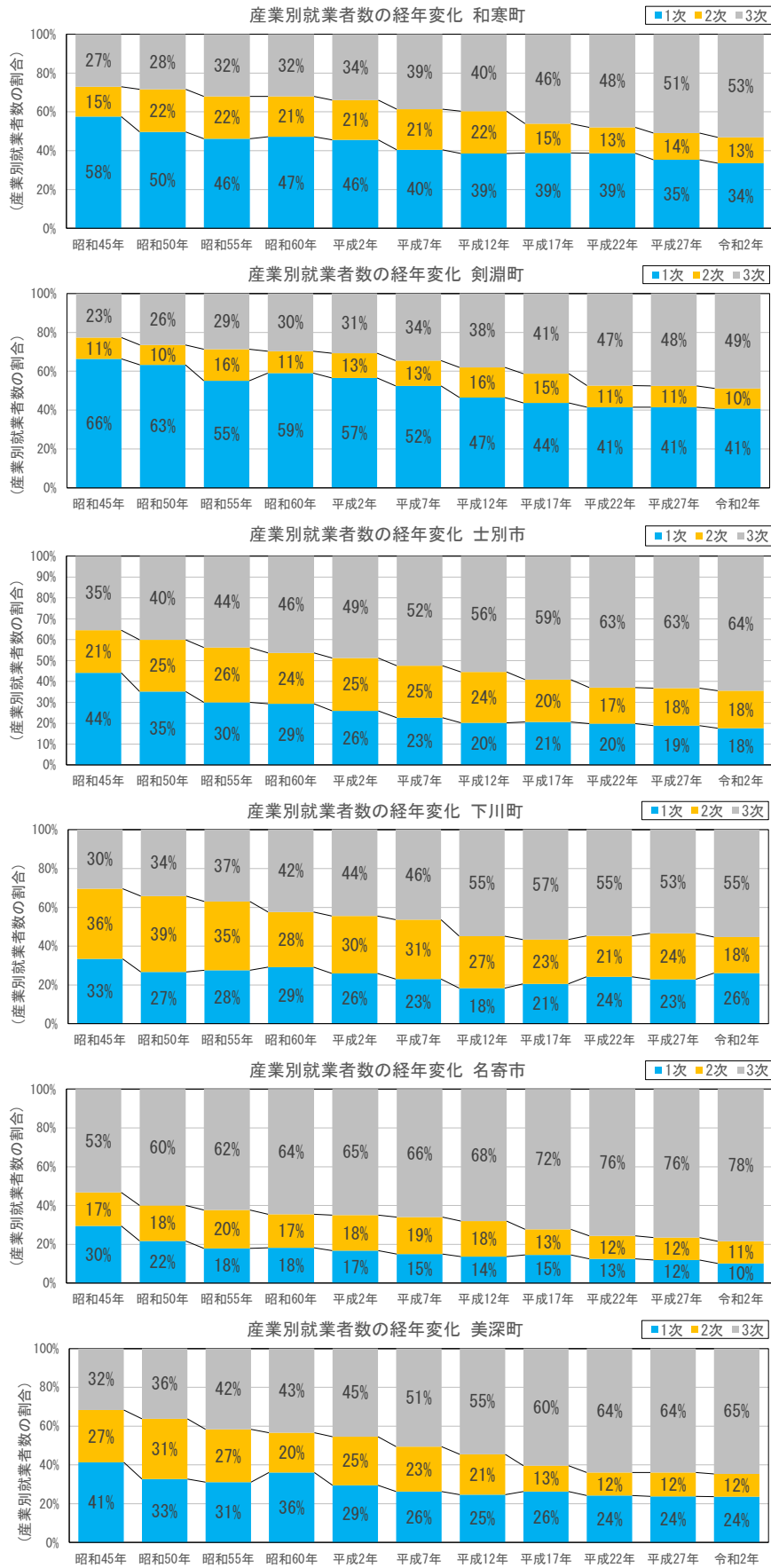


図 3-6 (2) 天塩川流域の産業別就業者数 (R2 国勢調査)

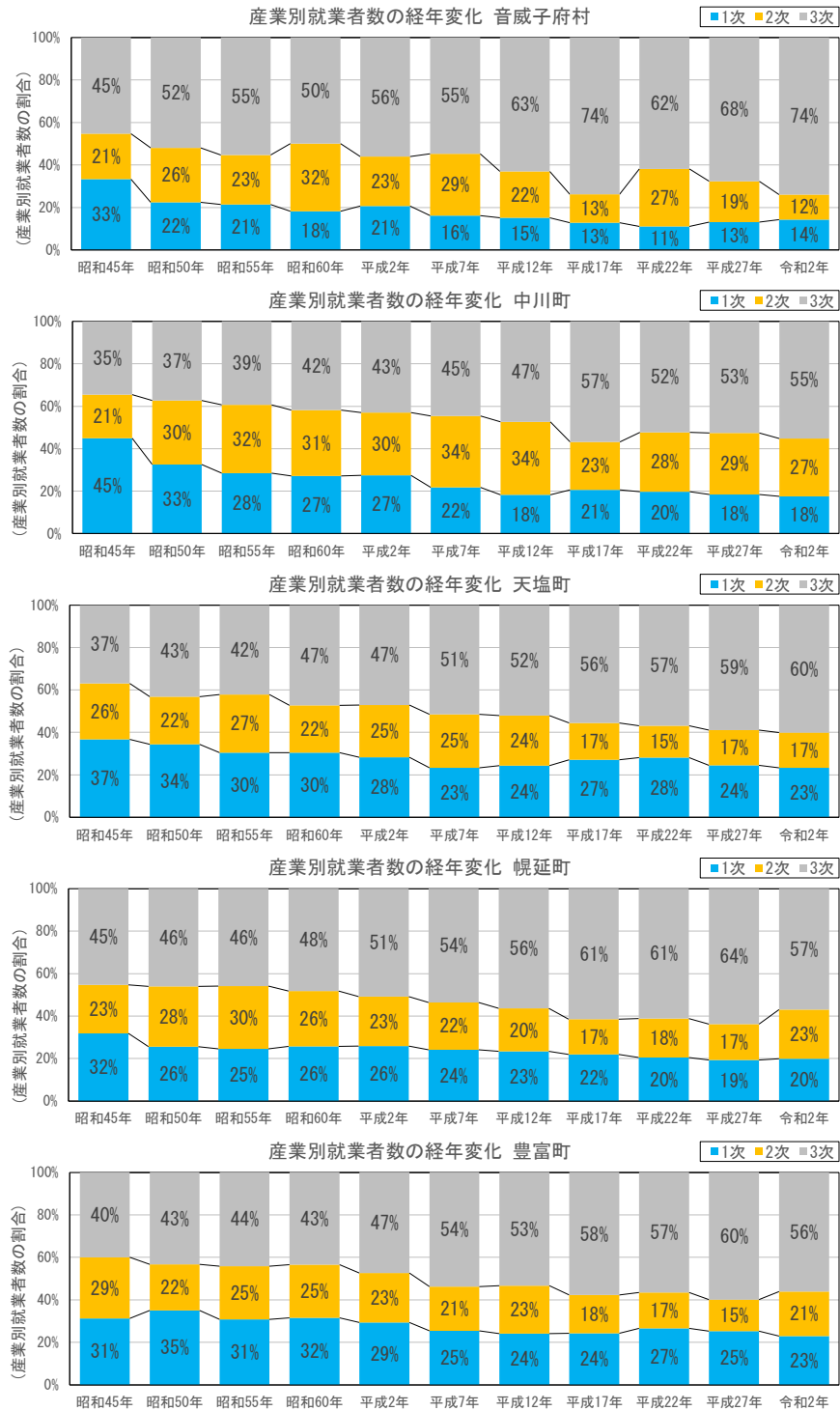


図 3-6 (3) 天塩川流域の産業別就業者数 (R2 国勢調査)

3-4 交通

(1) 現況

天塩川流域は広大な地域に生産活動と結び付いた市街地が天塩川沿いに存在するという地理的な特性がある。交通の骨格を成す国道 40 号と JR 宗谷本線は、流域の大部分で天塩川と併走している。流域内の乗用車保有率 392 台／千人（令和 6 年（2024 年）北海道自動車統計、令和 2 年（2020 年）国勢調査）と全道平均 356 台／千人を若干上回り、自動車への依存度が高く、道路は最も重要な役割を担っている。

また、道路ネットワークは国道 40 号が現在の天塩川流域の最も重要な道路となっている。道央札幌圏からは、主に道央自動車道から旭川を経由して、同地域へアクセスすることになるが、北海道縦貫自動車道が稚内まで予定路線として決定されており、その整備により広域的な自動車アクセス条件は飛躍的に高まると予想されている。

鉄道では、天塩川流域を JR 宗谷本線が縦貫しており、旭川－稚内間を結んでいる。

航空便は、稚内、旭川、札幌の空港より、観光客のほか、郵便物や農・海産物の輸送等に利用されている。

(2) 舟運の過去と現在

天塩川流域の開拓は、河口の天塩から上流へ向かって進められた。開拓初期には道路整備が入植に追いつかず、人や物資の移動には舟運が中心であった。

明治31年（1898年）に上流の士別に屯田兵村が設置されてからは、村まで資材や食料を川舟で運送することを専門とする天塩川合同運漕会社も営業を始めた。

明治43年（1910年）頃の記録によると、名寄から天塩河口の間に20ヶ所の船着場や多くの渡船場があった。各地の船着場一体には郵便局、巡査駐在所などの公共機関をはじめ、雑貨店、旅館、飲食店などが並び、賑わいを見せていたが、時代とともに渡船場は橋梁に変わっていき、舟運は昭和32年度（1957年度）までの運航であった。

現在は、産業としての舟運はないが、近年、川を利用したアウトドア・スポーツ、特にカヌーが盛んに行われるようになり、流域市町村各地にカヌークラブが誕生し、天塩川全域でカヌー利用やイベントが行われている。



天塩国上川郡上名寄村天塩川上流渡船場 明治43年
(北海道大学北方資料室蔵)



北海道天塩港木材積取船入港之景(北海道立図書館蔵)

図 3-8 舟運の状況

3-5 関係ある法令の指定状況

(1) 第9期北海道総合開発計画

第9期北海道総合開発計画では、2050年の北海道の将来像に向け、「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」、「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」を目標としている。

天塩川流域は農業、畜産及び水産等の1次産業が盛んな地域であり、1次産業の生産を利用した2次産業の割合も高い地域が多く、1次+2次産業の就業者割合が北海道全体と比較して高くなっていることから、第9期北海道総合開発計画の主要施策である「豊かな土地・水資源等を活かして我が国の食料安全保障を支える」ために必要な地域であり、北海道の価値を生み出す「生産空間」を維持・発展させるための重要な地域である。

天塩川流域は、北海道総合開発計画の長期ビジョンや目標を踏まえたうえで、日本及び世界に貢献する自立した北海道の実現に向け、安全でゆとりある快適な地域社会の形成、食料供給力の確保・向上、流域の人々の連携・協働による地域づくりを通じ、北海道北部の地域を先導する役割を果たす必要がある。

このような天塩川流域の将来像を実現するため、地域住民や関係機関が連携し、水産業農業及び観光業等の地域産業が持続的に発展できる安全で活力に満ちた地域社会の形成を図る必要がある。

加えて、北海道は気候変動による影響が大きく、これに伴う降雨量増大が懸念される。そのため、次世代に防災・減災にかかわる負の遺産を継承することのないよう、気候変動の進捗に対応した時間軸の中で、適応策の展開や社会・経済活動の変化等を総合的に評価し、気候変動への対応を合理的かつ段階的に進めていくことが重要である。

 国土交通省
北海道局

1

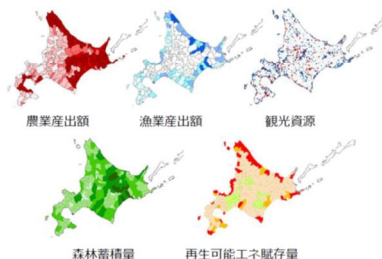
国土交通省
北海道局

2

第9期北海道総合開発計画 主要施策2

北海道の価値を生み出す生産空間の定住環境を維持

北海道の価値を生む 「生産空間」の分布



北海道の生産空間の構造的課題 【定住環境の厳しさ＝二重の疎】



+ 積雪寒冷の厳しい気候、千島海溝地震の切迫

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり



AI活用によるインフラ維持
管理の効率化
(北大情報科学院との連携)



高規格道路の整備促進



対2024年問題対策
「北海道物流WEEK」
(令和6年2月19日～22日)

教育委員会との連携
「ほっかいどう学」の展開



千島海溝地震による津波避難対策特別強化地域(39市町)



避難施設の計画・建設

図 3-9 (2) 北海道総合開発計画の概要

(2) 地域プロジェクト及び都市計画

天塩川流域においては、沿川を中心とした市街化・宅地化が進んでおり、令和7年(2025年)3月時点では流域内の名寄市、士別市で都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画が策定されている。立地適正化計画においては、洪水浸水想定区域を踏まえ、居住誘導区域・都市機能誘導区域の設定を行っている。

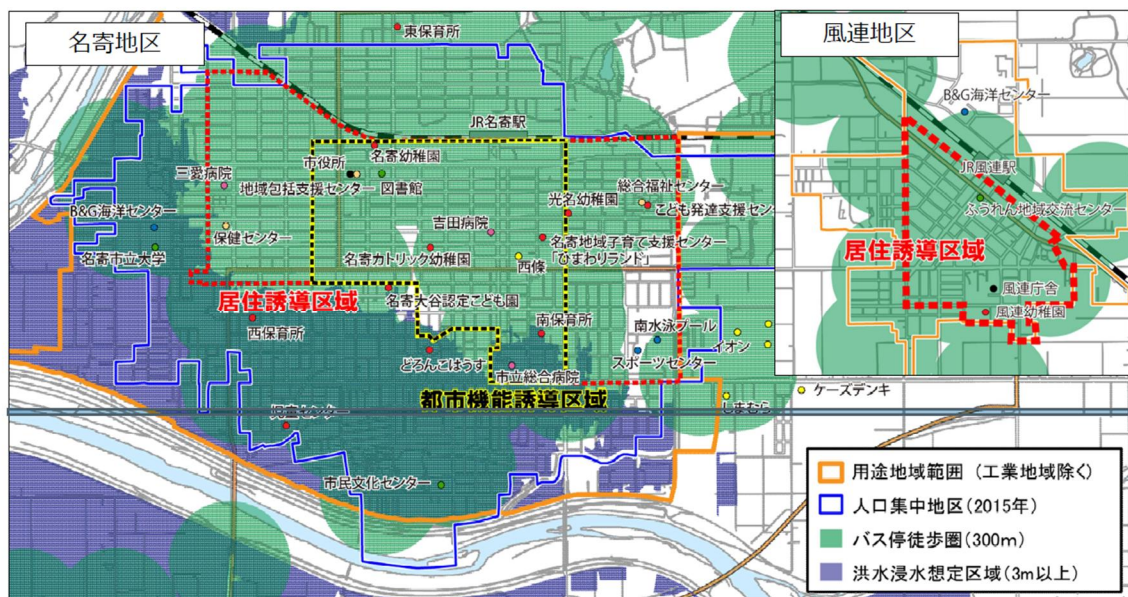


図 都市機能誘導区域・居住誘導区域の範囲

出典：名寄市立地適正化計画

図 3-10 洪水浸水想定区域を踏まえた都市機能誘導区域・居住誘導区域の設定
(名寄市の例)

②保健・医療拠点の都市機能誘導区域

- 1) 河川洪水の浸水想定区域外で災害時の安全性が担保される、市立病院敷地と隣接する福祉施設敷地を含む範囲とする。

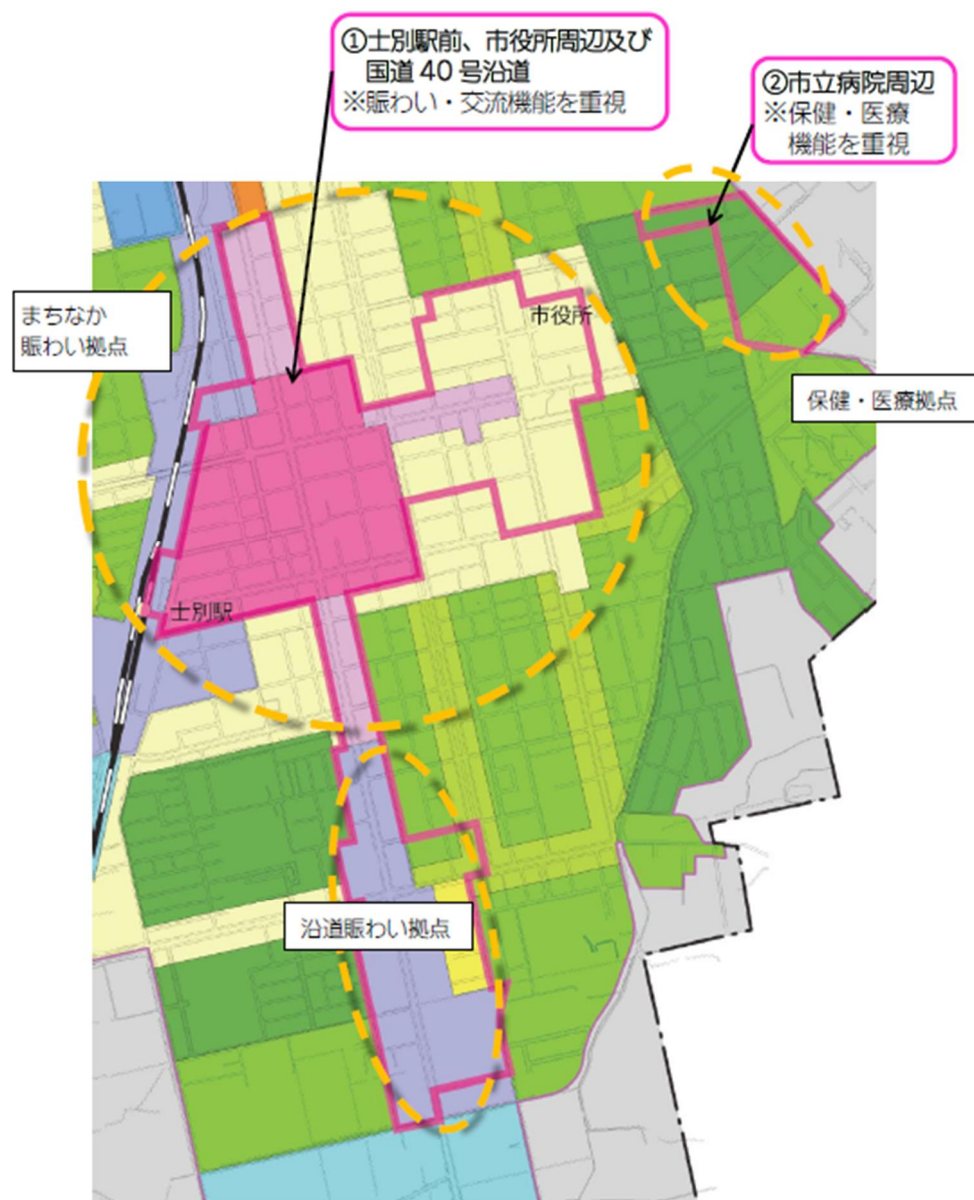


図 各拠点と都市機能誘導区域

出典：土別市立地適正化計画

図 3-11 洪水浸水想定区域を踏まえた都市機能誘導区域の設定（土別市の例）

4. 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

天塩川の洪水は、流域の位置、形状などの河川特性が大きく影響しており、洪水の形態は春季の融雪出水と夏季の豪雨による洪水の2つがある。

最北の地にある天塩川は、南から北へ流下する寒冷地河川で、冬季期間は結氷し春先は上流から融解し始め、まだ結氷中の下流へモロミとなって流下する。この現象は天塩川特有のもので、氷詰りの異常水位となって、大きな水害をもたらしてきた。加えて、年間総流出量の40%~60%は4月から6月にかけて流出し、この融雪出水は、日本海側北部の河川特有の現象であるが、気温の上昇と降雨が重なった場合、大きな水害になることがある。また、気温10℃、風速5.0m³/sのとき1日に融ける雪の量は、雨量に換算すると45mm位と言われており、融雪出水は極めてゆっくりと長期間にわたって下流に流出してくる。



図 4-1 冬期に結氷する天塩川（営平）

一方、夏季の洪水は集中豪雨に起因する出水が多いのが特徴となっている。強い雨が降るのは限られた期間で、それは、本州の梅雨が終わる頃の不連続線の北上する7月初めと、オホーツク海高気圧により寒冷前線の発生する7月後半、あるいはシベリア高気圧により寒冷前線が南下する8月下旬の3種類が挙げられ、これに低気圧や台風が伴うと更に雨量は多くなり、水害が発生している。

次に、主要洪水の概要を示す。

(1) 昭和 7 年（1932 年）8 月の洪水

この年は、8 月から 9 月にかけて 8 回の大雨に見舞われ、全道的に河川の洪水氾濫が相次ぎ、かつ低温、寡照で冷害凶作の年となった。

8 月 14 日午前 3 時頃より降り出した雨は、深夜に入って一層強烈をきわめて夜を徹して降り続いた。その結果、天塩川本流並びに各支流は一斉に増水氾濫し、流域のほとんどの町村が大災害を被った。

降雨量は中旬で上士別 174mm、下旬では上士別 143mm、名寄 124mm、音威子府 112mm が記録されている。

また、下旬の洪水での被害は浸水家屋 383 戸、田畑の被害は浸水水田 3,457ha、浸水畑 19,370ha となっている。

この年の天塩川水系の被害額は 4,422,142 円となっており、全道被害額の約 18%が天塩川水系で発生した。



図 4-2 昭和 7 年 8 月洪水（士別軌道天塩川九十九橋の流出）

(2) 昭和 14 年（1939 年）7 月の洪水

7 月 28 日から 30 日にかけて道北地方を襲った大雨は、上川、留萌支庁管内にかなりの被害をもたらした。上音威子府で 197mm の降雨があり、天塩川水系の被害は、鉄道の浸水 5 箇所、橋梁流失 32 箇所、死者 1 名、道路浸水 1 箇所、浸水家屋 180 戸、浸水田畑 3,918ha となった。

(3) 昭和 28 年（1953 年）7 月の洪水

この年、6 月下旬九州をはじめ西日本一帯に大水害を発生させたが、北海道において 7 月から 8 月にかけての計 3 度に及ぶ豪雨は、まれに見る洪水となった。特に上川地方では降水量が平年の 4 倍以上にも達した。これは 7 月 7 日より 9 日までの第 1 次豪雨、19 日より 22 日までの第 2 次豪雨、及び 31 日より 8 月 1 日にかけての第 3 次の豪雨と、計 3 回にわたり約 10 日間の間隔をおいて集中的に道北、道南に発生した結果によるものである。

天塩川流域の降雨量は上士別で 149mm、和寒 136mm、名寄 95mm、河口 101.3mm を記録し、驟雨性といわれ、その強さの変動の度合いは大きかった。

被害の状況は、下流部では死者 2 名、農地被害 1,605ha、道路・河川決壊 23 箇所となっている。また、上流部では死傷者 6 名を出し、家屋流失半壊 31 戸、同浸水 1,721 戸、堤防流失損壊 196 箇所、氾濫面積は 8,038ha に及んだ。



図 4-3 昭和 28 年 8 月洪水（中川村大富地先の浸水状況）

(4) 昭和 30 年（1955 年）7 月、8 月の洪水

この年、7 月の上旬から 8 月の下旬に至る 2 ヶ月間に 4 回にわたって大きな洪水に見舞われた。とりわけ 7 月 2 日～4 日にわたる降雨は、前線が北上し大雨をもたらした。降雨量は上士別 195mm、和寒 167mm、中士別 195mm、一の橋 185.1mm、名寄 134mm、また、8 月 19 日には辰根牛^{たつねうし}111.5mm、名寄 149mm と流域全般に豪雨があり、和寒以北の 9 市町村に災害救助法が適用されるという稀にみる大水害を蒙ったのである。

7 月洪水の被害は、死傷者 8 名、家屋浸水 177 戸、同半壊 23 戸に及び、氾濫面積 5,907ha、農地被害 1,099ha、橋梁流失 2 箇所、道路損壊 6 箇所であったと記録されている。

8 月洪水の被害は、家屋浸水 1,160 戸、同半壊 17 戸、氾濫面積 4,927ha、堤防流失損壊 10 箇所に及び、釐平の最高水位は計画高水位 18.87m にあと 0.13m と迫る大出水であった。この洪水が計画高水流量を見直す契機となったのである。



図 4-4 昭和 30 年 8 月洪水（名寄川の洪水による鉄道流失状況）

(5) 昭和 48 年（1973 年）8 月の洪水

台風第 10 号崩れの低気圧が北上し、8 月 18 日夜半から日本海を経て道央を通過した。上川管内北部を中心に 40mm を超える大雨が降った。その状況は、低気圧の接近に伴い 17 日 17 時過ぎから降り始め、18 日 9 時までに名寄 96.5mm、岩尾内^{いわおない}77.5mm、下川サシル 79.0mm の雨が降り続いた。低気圧の中心が近づき前線が活発化した 12 日頃から雨は次第に強くなり、名寄では 1 時間で 20mm 前後の大雨が 3 時間も続き、総雨量は名寄 230mm に達し、美深橋では計画高水位にあと 0.15m までに迫った。

出水状況は、名寄大橋で 18 日 21 時に指定水位 92.40m（流量 1,218m³/s）、真勲別で水位 103.6m（流量 1,115m³/s）となり、誉平では、19 日の 15 時には警戒水位 16.50m を超え、17.16m（流量 3,156m³/s）の水位を記録した。

被害状況は、上流部では国鉄名寄～美深間が冠水で不通となったほか、各地で多大の被害が発生し、名寄では自衛隊の災害出動を要請し、土のう積などを行った。名寄川でも国鉄名寄～下川間が一部不通となり、小河川氾濫、市道などの決壊等も発生した。このほか、家屋浸水 1,255 戸、浸水水田 3,128ha、浸水畑 9,647ha、堤防流失損壊 159 箇所であった。



図 4-5 昭和 48 年 8 月洪水（名寄市十線川の溢水氾濫状況）

(6) 昭和 50 年（1975 年）8 月の洪水

8 月 22 日アムール河下流部の発達した低気圧から、南に伸びる寒冷前線が、22 日夜から 23 日夜半にかけ北海道を北西から南西に縦断するような形で停滞し、これに北上してきた台風第 6 号の影響が加わって、雷を伴った強い雨となり、24 日朝まで続いた。これによる降雨は和寒 203mm、士別 211mm、名寄 157mm、美深 119mm と上流部の降雨が多かった。

天塩川の水位は、天塩川本川の名寄大橋では、23 日 8 時には 93.43m（流量 1,500m³/s）のピークを記録した。誉平では、24 日指定水位 16.40m を超え 22 時には 16.76m（流量 2,781m³/s）のピークに達した。

被害の状況は、被害家屋 2,642 戸、氾濫面積 11,640ha、農地被害 481ha、堤防流失損壊 219 箇所、河川決壊 2 箇所、道路損壊 2 箇所であった。下流では国根府、安牛、天塩町北川口、振老、サロベツ、幌延地区の外水氾濫、雄信内、安牛地区の内水氾濫があった。



天塩川左岸 箴島左岸築堤の溢水氾濫状況
音威子府村



天塩川 音威子府村の浸水状況

図 4-6 昭和 50 年 8 月洪水の状況

(7) 昭和 56 年（1981 年）8 月の洪水

① 天塩川上流部

8 月 3 日から 6 日にかけて、北海道を縦断する形で寒冷前線が停滞しつづけたため、天塩川全流域を覆うような豪雨をもたらした。雨量は名寄大橋 248mm、朝日 280mm、剣淵 301mm、下川パンケ 268mm を記録した。

天塩川の基準地点である誉平ではピーク水位 17.24m を記録し、流量は $3,758\text{m}^3/\text{s}$ となり、計画高水流量 $3,800\text{m}^3/\text{s}$ に迫る大出水である。また、誉平での流域平均 3 日雨量は 232.9mm となった。

被害状況は、床下浸水 408 戸、床上浸水 73 戸、田・畑の浸水 14,108ha、土木被害は河川 187 箇所、道路損壊 147 箇所、橋梁損壊 18 箇所、被害額は 7,503,842 千円であった。また、増水による浸水防止及び、浸水の恐れのある箇所に土俵積止するため、ポンプ排水を 27 箇所で行った。



天塩川右支川名寄川
内水による浸水のため住民避難
(名寄市徳田白樺団地)



天塩川 音威子府市街の浸水状況

図 4-7 (1) 昭和 56 年 8 月洪水の状況

② 天塩川下流部

8月3日昼頃から夕方にかけて、留萌管内北部の天塩、幌延に発達した低気圧と前線の影響で30～50mmの強い雨が降った。5日に入り台風第12号の影響も加わって断続的に降りつづき、6日未明までに天塩大橋 155mm、円山 131mm、新問寒別橋 110.5mm を記録し、天塩大橋地点での流域平均3日雨量 214.7mm となった。

天塩大橋における流量は $3,940\text{m}^3/\text{s}$ であり、既往最高の記録となった。

被害状況を見ると、国根府、サロベツ、北川口の無堤地区の外水による氾濫 7,684ha、東ウブシ地区などの内水氾濫 1,184ha であり、総合氾濫面積は 8,868ha に及んだ。

天塩町、幌延町の一般被害は共に農作物で作付面積の17%に当たる被害を蒙り、被害総額は 276,000 千円となっている。このほか、辰根牛地区などで土俵の水防活動が実施されたが、床上浸水 8 戸、床下浸水 34 戸、農地の被害は畑で 4,492ha、河川堤防損壊 3 箇所、道路橋梁損壊 2 箇所などの被害があり、被害額は 565,841 千円に達した。



天塩川右支川サロベツ川左岸
幌延町南下沼地区の冠水した農家

図 4-7 (2) 昭和 56 年 8 月洪水の状況

(8) 平成 6 年（1994 年）8 月の洪水

北海道中部に活発な前線が停滞し、8 月 14 日未明から深夜にかけ中部以北を中心に時間雨量 30～50mm の強い雨が降り、14 日 1 時から 14 日 24 時までの総雨量は朝日 109mm、士別 129mm、名寄 102mm となった。

出水状況は、名寄大橋で 15 日 5 時には、警戒水位 93.30m に迫る 93.08m（流量 1,388m³/s）のピークに達し、誉平では、15 日 18 時に 13.80m（流量 1,765m³/s）のピークに達した。被害状況は、家屋浸水 138 戸、氾濫面積 854ha を記録した。

(9) 平成 26 年（2014 年）8 月の洪水

平成 26 年（2014 年）8 月に天塩川的美深橋水位観測所、名寄川の真勲別水位観測所において、氾濫危険水位を超過し、天塩川流域の 8 水位観測所で氾濫注意水位を超過。士別市や名寄市において家屋浸水被害が発生し、一般国道 239 号（下川町）においては道路冠水により一時通行止めとなった。

表 4-1 既往の主要洪水の概要

洪水発生年月日	気象原因	代表地点雨量 (mm/3 日)	誉平地点 流量 (m³/s)	被害等
明治 37 年 6 月～7 月	台風・前線	102(名寄)	不明	氾濫面積 1,036ha
明治 44 年 8 月 16 日～17 日	台風	130(士別) 91(上名寄) 105(誉平)	不明	上川支庁管内 田畑被害面積 6,403ha
大正 11 年 8 月 21 日～25 日	台風	104(士別) 103(美深) 75(音威子府)	不明	上川支庁管内 浸水家屋 3,010 戸、同流失 60 戸、浸水水 田 3,921ha、同流失 139ha、浸水畑 5,430ha、同流失 902ha
昭和 7 年 8 月 29 日～9 月 1 日	低気圧・停滞 性前線	143(上士別) 124(名寄) 112(音威子府)	不明	上川支庁管内 浸水家屋 383 戸、浸水水田 3,457ha、 浸水畑 19,370ha
昭和 14 年 7 月 28 日～30 日	不明	197 (上音威子府)	不明	死者 1 名、浸水家屋 180 戸、 浸水田畑 3,918ha
昭和 27 年 7 月 25 日～26 日	低気圧	92.3(円山)	不明	浸水家屋 1,104 戸(同流失 2 戸、同半壊 8 戸)、浸水田畑 400ha、橋梁流失 15 箇所
昭和 28 年 7 月 27 日～8 月 2 日	前線	101(河口) 95(名寄)	1,620	死傷者 8 人、家屋流失半壊 31 戸、同浸水 1,721 戸、浸水面積 9,643ha
昭和 30 年 7 月 3 日～5 日	低気圧	195(上士別)	2,200	家屋浸水 177 戸、同半壊 23 戸 浸水面積 7,006ha
昭和 30 年 8 月 17 日～21 日	前線	111(辰根牛) 149(名寄)	1,510	家屋浸水 1,160 戸、同半壊 17 戸 浸水面積 4,927ha
昭和 45 年 10 月 24 日～26 日	低気圧	205(上間寒別)	1,255	間寒別川流域が氾濫 家屋浸水 193 戸、浸水面積 2,511ha
昭和 48 年 8 月 16 日～18 日	台風・前線	230(名寄)	[3,547]	家屋浸水 1,255 戸 浸水面積 12,775ha
昭和 50 年 8 月 21 日～24 日	台風・前線	211(士別) 157(名寄)	[3,359]	家屋浸水 2,642 戸 浸水面積 12,121ha
昭和 50 年 9 月 6 日～8 日	低気圧	109(円山)	<2,752>	家屋浸水 117 戸 浸水面積 8,609ha
昭和 56 年 8 月 3 日～7 日	低気圧・ 前線・台風	283(士別) 226(名寄)	[4,364]	家屋浸水 546 戸、氾濫面積 15,625ha、 農地被害 14,070ha
平成 6 年 8 月 12 日～15 日	前線	129(士別)	<1,769>	家屋浸水 138 戸 浸水面積 854ha
平成 13 年 9 月 8 日～12 日	前線・台風	179(士別) 180(名寄)	<2,863>	被害家屋 2 戸 浸水面積 315ha
平成 22 年 7 月 28 日～30 日	低気圧	122(名寄)	<2,441>	被害家屋 60 戸 浸水面積 279ha
平成 26 年 8 月 4 日～6 日	低気圧	158(名寄)	<2,916>	

※北海道開発局資料等から作成

※() 内は雨量観測所名

※[] 内は氾濫量及び岩尾内ダムによる調節量を戻して算出した値

※< >内は岩尾内ダムによる調節量を戻して算出した値

※内水、土砂災害等を含む

4-2 治水事業の沿革

(1) 治水事業の沿革

天塩川の治水計画は、大正 8 年（1919 年）に天塩川治水計画が立案されたのが始まりである。次いで昭和 7 年（1932 年）8 月の洪水を契機に昭和 9 年（1934 年）には第 2 期拓殖計画の一環として計画高水流量を $4,174\text{m}^3/\text{s}$ とし、智恵文、名寄付近の屈曲部に着手したことに始まる。次いで、昭和 12 年（1937 年）から士別、名寄付近等の堤防整備を実施した。

昭和 21 年（1946 年）に第 2 期拓殖計画が終わるまでに 6 捷水路を完成させ、士別、名寄付近の堤防整備等を進めていった。

昭和 21 年（1946 年）7 月及び昭和 28 年（1953 年）7 月洪水を契機として計画的改修工事を進める必要性が高まり昭和 28 年（1953 年）度以降改修総体計画が策定された。その後、昭和 30 年（1955 年）7 月洪水に鑑み、河川調査の進展にともない一部計画に修正が加えられつつ治水事業が進められ、昭和 38 年（1963 年）度以降改修総体計画へと移行していった。

また、昭和 39 年（1964 年）7 月、新たな河川法が制定され、天塩川は昭和 41 年（1966 年）3 月に一級河川に指定されるに至り、同 41 年（1966 年）に岩尾内ダムの建設を含めた天塩川水系工事实施基本計画が策定された。基準地点誉平における基本高水のピーク流量を $4,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち岩尾内ダム等により $600\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、計画高水流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とする計画である。

この計画に基づき、岩尾内ダムの建設（昭和 46 年（1971 年）完成）、河川改修工事を実施していった。しかしながら、昭和 48 年（1973 年）8 月、昭和 50 年（1975 年）8 月、昭和 56 年（1981 年）8 月と数度にわたり、計画規模に迫る、あるいはこれを上回る大出水が発生したことから昭和 62 年（1987 年）に天塩川水系工事实施基本計画を改訂し、基準地点誉平における基本高水のピーク流量を $6,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $700\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、計画高水流量を $5,700\text{m}^3/\text{s}$ とする計画とした。この計画に基づき、コクネップ捷水路の開削、河道の掘削、浚渫、堤防の新設及び拡築、護岸の設置等を実施してきた。また、平成 5 年度（1993 年度）には、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、発電を目的とするサンルダム建設事業に着手した。



図 4-8 昭和 46 年に完成した岩尾内ダム

その後、平成 9 年（1997 年）の河川法改正に伴い、天塩川水系河川整備基本方針を平成 15 年（2003 年）2 月に策定した。その基本高水のピーク流量、計画高水流量については、既往洪水等から妥当性を検証の上、工事実施基本計画を踏襲した。

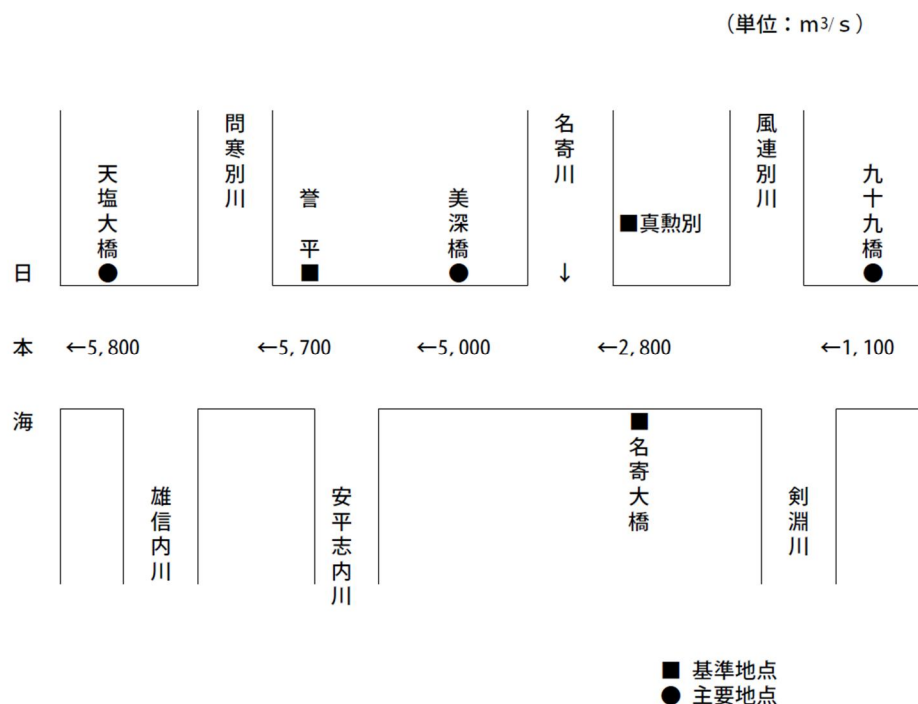


図 4-9 天塩川水系河川整備基本方針（平成 15 年 2 月）における計画高水流量配分図

平成 19 年（2007 年）10 月には、河川整備計画の目標流量を基準地点誉平で 4,400m³/s とし、既設の岩尾内ダム及びサンルダムにより 500m³/s を調節して河道への配分流量を 3,900m³/s とする天塩川水系河川整備計画【直轄管理区間】を策定した。この計画に基づき、堤防整備、河道掘削などとともにサンルダムを建設(平成 30 年(2018 年)完成)し、ダム下流の名寄川及び名寄川合流後の天塩川の洪水被害の軽減を図ることとした。

平成 27 年（2015 年）9 月関東・東北豪雨を受けて、平成 27 年（2015 年）12 月に策定された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、平成 28 年（2016 年）4 月に「天塩川下流減災対策部会」を、同年 5 月に「天塩川上流減災対策委員会」を設置した。その後、同年 8 月に北海道と東北を相次いで台風が襲い、各地で甚大な被害をもたらしたことから、「大規模氾濫減災協議会制度」を新たに盛り込んだ改正水防法が平成 29 年（2017 年）6 月に施行された。これに伴い、本部会を水防法第 15 条の 9 に基づく法定協議会に改組し、北海道管理河川も対象とした「天塩川上流減災対策協議会」、「天塩川下流減災対策協議会」に移行し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国、道、市町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

また、河川管理者、ダム管理者及び関係利害者により、令和 2 年（2020 年）5 月に天塩川水系治水協定が締結され、流域内にある 14 基の既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大

限活用し、下流部の浸水被害の軽減を図る取組を進めている。

さらに、気候変動の影響による水害の頻発化・激甚化を踏まえ、治水対策を抜本的に強化するため、天塩川上流流域治水協議会・天塩川下流流域治水協議会が設立され、令和 3 年（2021 年）3 月に「天塩川（上流）水系流域治水プロジェクト」、「天塩川下流流域治水プロジェクト」を策定・公表した。

加えて、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、令和 6 年（2024 年）3 月に気候変動の影響を考慮した河川及び流域での対策方針を反映した「天塩川（上流）水系流域治水プロジェクト 2.0」、「天塩川下流流域治水プロジェクト 2.0」への更新を行った。

また、被害軽減のためのハザードマップ、マイ・タイムラインの作成による水害リスクの周知等の取組により、流域における浸水被害の軽減を図ることとしている。

4-3 流域治水対策の取組

(1) 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、北海道や流域内市町村では森林の整備・保全の取組を進めているほか、流水の貯留機能向上を図るための田んぼダムや、排水路整備を実施している。



図 4-10 森林整備の取組事例

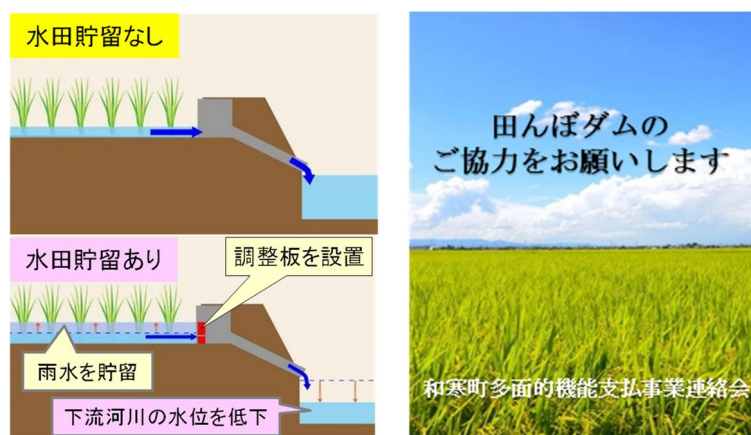


図 4-11 田んぼダムのイメージ及び普及活動

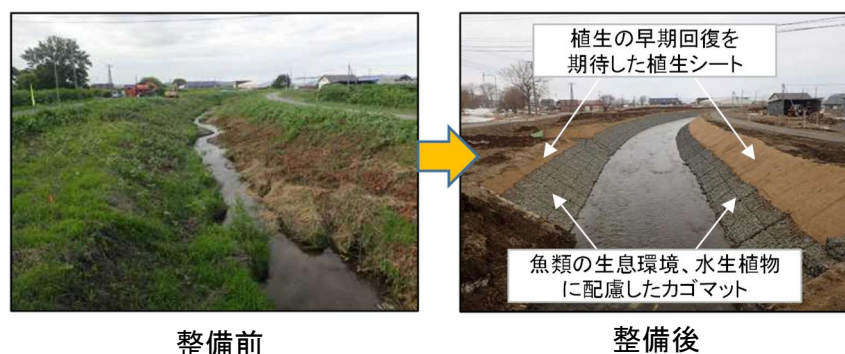


図 4-12 農業排水路の整備事例

(2) 被害対象を減少させるための対策

被害対象を減少させるための対策として、河道掘削残土を活用した農地嵩上げを実施しているほか、名寄市では浸水想定水位を踏まえた施設建設計画の立案が進められている。



河道掘削状況



農地への搬出状況

図 4-13 掘削残土を活用した農地嵩上げの取組事例

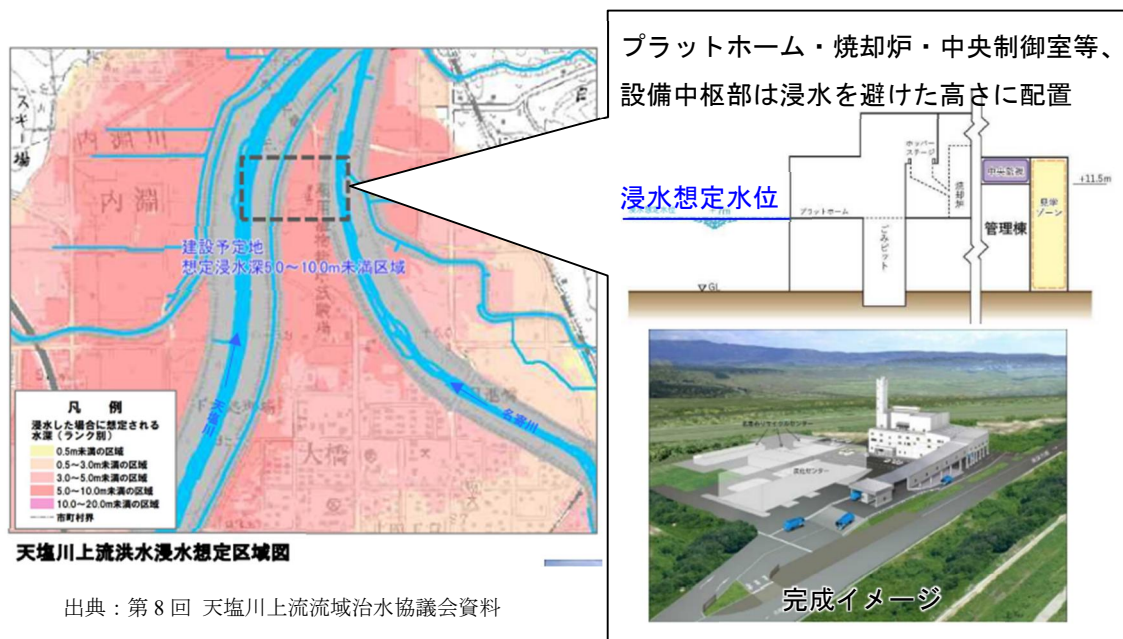


図 4-14 浸水対策を講じた施設建設計画の実施例

(3) 被害の軽減、早期復旧、復興のための対策

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、市民の迅速・確実な避難行動のため、マイ・タイムライン作成支援や防災教育活動を実施し、防災に対する適切な対応について認識を深めてもらうことで、防災知識向上を推進している。

また、高齢者等の要配慮者の迅速な避難のため、聞き取り調査を実施し、地域住民の逃げ遅れによる被害ゼロを目指している。



図 4-15 マイ・タイムライン作成支援の実施例



図 4-16 市民への防災セミナーの実施例



図 4-17 避難行動要支援者への聞き取り調査の実施例

5. 水利用の現状

5-1 水利用の現状

(1) 水利用の概要

天塩川は、古くから農業用水を主体として水利用がなされてきた。

農業用水としては約 25,000ha の耕地に約 72.4m³/s が利用されている。

天塩川における利水の現況は、下表に示すとおりであり、農業用水をはじめ工業用水、上水道用水などに広く使われており、さらに水力発電にも積極的に利用されている。

使用水量については、発電を除けば大半が農業用水であり、地域的には、名寄市、士別市に水利用が集中している。

表 5-1 天塩川水系水利用の現況（法定河川内の許可水利）

名 称	最大取水量（m ³ /s）	件 数	摘 要
かんがい	72.4	246 件	
水道	0.3	7 件	
工業	1.4	5 件	
その他	2.4	21 件	
発電	56.0	4 件	
合 計	132.5	283 件	

出典：一級水系水利権調書（北海道開発局、令和 6 年 3 月末現在）

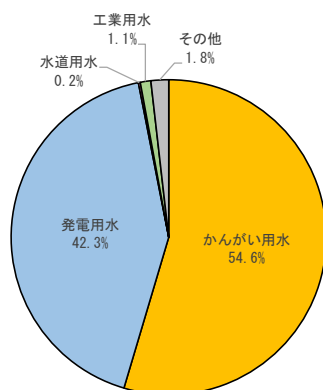


図 5-1 水利用割合図



図 5-2 士別市剣淵川合流点周辺に広がる水田地帯

(2) 農業用水

天塩川本川最下流の取水施設は、河口から 120km 上流の美深町にある西里揚水機場である。美深町から下流の地域では、ほとんど水稻作付けは行われていない。

水田のほとんどは名寄盆地に集中しており、大規模頭首工等も同盆地に集中している。かんがい普通期における取水量が $1\text{m}^3/\text{s}$ を超える取水施設は、本川に 7 件ある。また、施設の統廃合が進んでいる。法定河川からの取水により賄われる耕地かんがい面積は、約 25,000ha に及ぶ。

(3) 水道用水

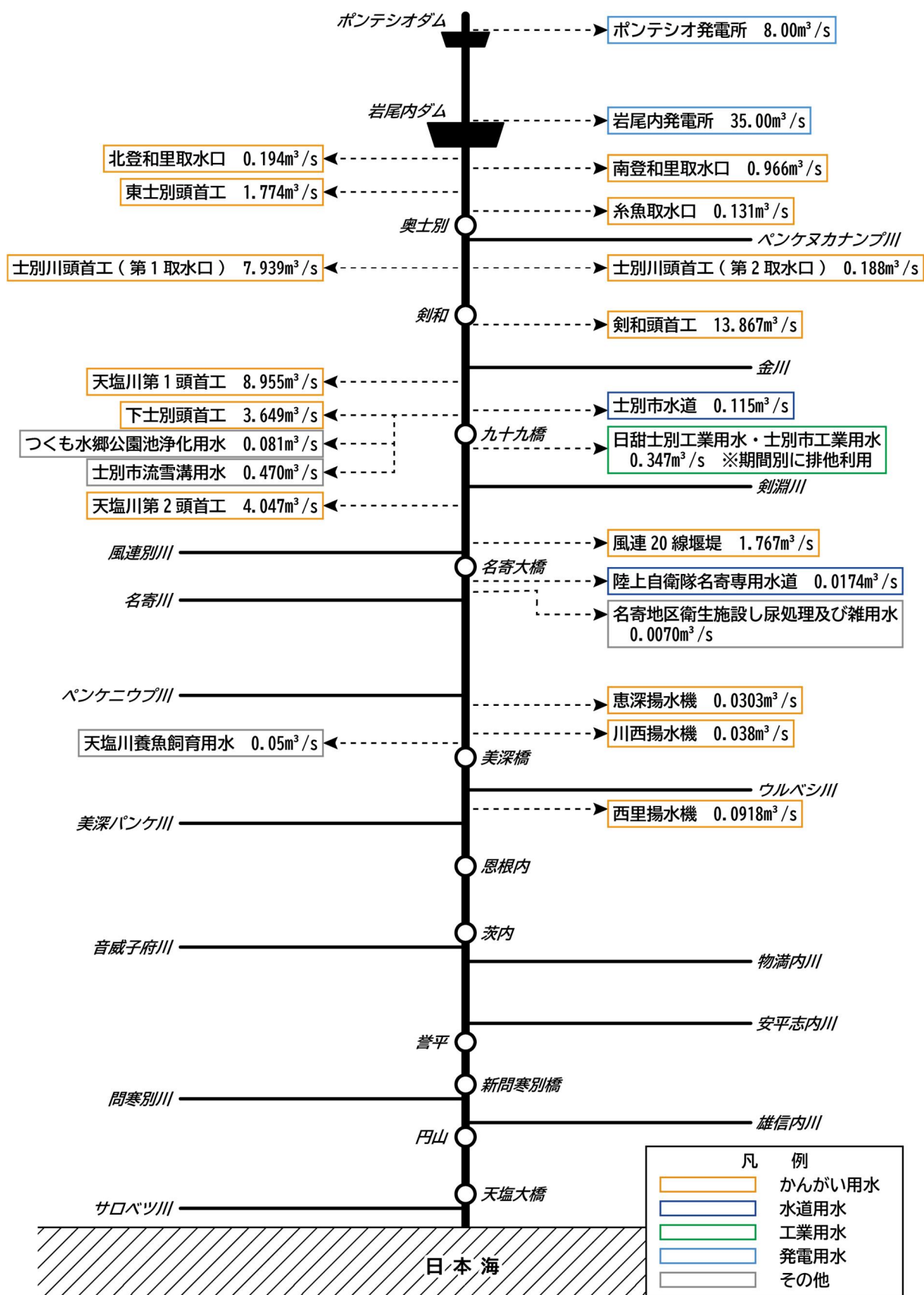
名寄市水道は名寄川真勲別頭首工から最大約 $11,200\text{m}^3/\text{日}$ 、士別市水道は天塩川から最大約 $11,000\text{m}^3/\text{日}$ の取水している。その他の地域・陸上自衛隊・事業所等は、簡易水道等をもって賄っている。

(4) 工業用水

天塩川流域には澱粉工場、乳製品加工工場、製粉・製菓・製パン等の食品加工工場等が点在している。名寄川真勲別頭首工から最大約 $50,000\text{m}^3/\text{日}$ の取水を行う製紙工場の工業用水が最大であり、表 5-1 中の工業用水の約 4 割を同工場が占める。

(5) その他・発電用水

天塩川流域には、岩尾内発電所・ポンテシオ発電所・仁宇布川^{にうぶ}発電所・サンル発電所の 4 発電所があり、総最大出力約 27,000kW の電力供給が行われている。



注) 図中の値は最大取水量を示す

図 5-3 天塩川水系取排水図

5-2 渇水被害及び渇水調整

天塩川では過去、昭和 51 年（1976 年）、昭和 55 年（1980 年）、平成 5 年（1993 年）等、積雪量の不足や夏場の雨不足による渇水被害が発生しており、昭和 53 年（1978 年）には士別市長を会長とする「天塩川水系天塩川上流士別地区渇水調整協議会」が設立されている。

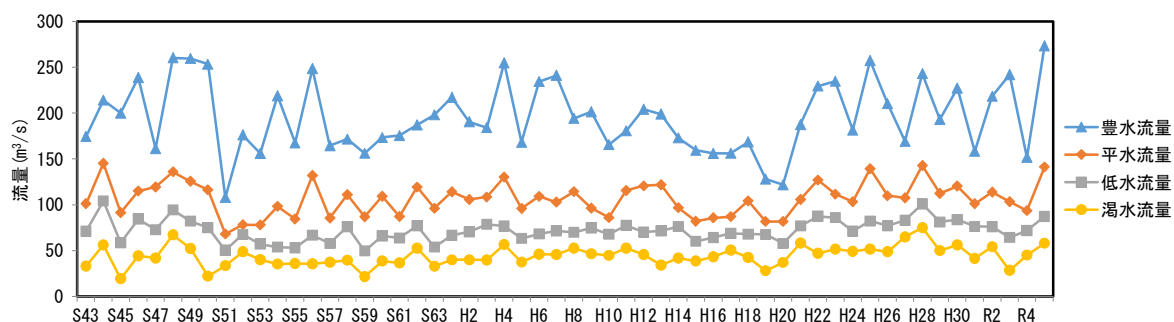
近年においては平成 5 年（1993 年）の渇水が深刻で、7 月の雨不足により水稻をはじめとする農作物に被害が生じるとともに、岩尾内ダムが貯水量が常時満水容量の 3%まで低下した。

このため、渇水協議会において 35%の農業用水取水制限を決定し、7 月末から渇水対策を実施していたが、ついに岩尾内ダムが枯渇し、農業用水の取水がストップする事態となった。

6. 河川流況及び水質

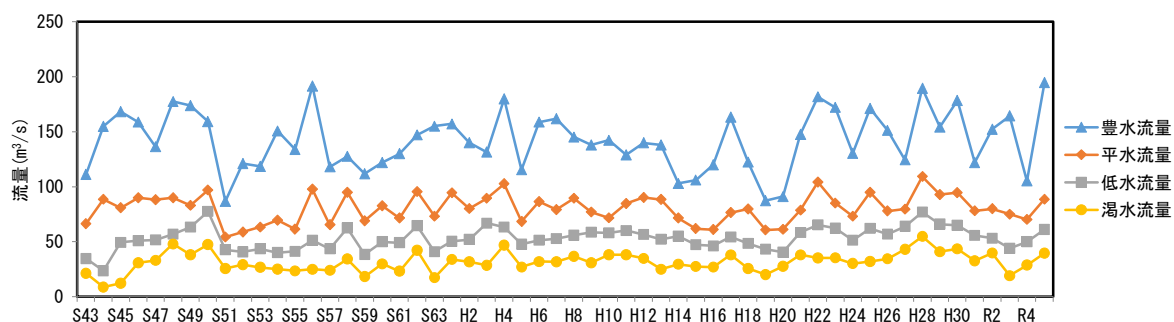
6-1 河川流況

天塩川の昭和43年（1968年）～令和5年（2023年）の56年間における流況は、誉平地点は表6-1に示すとおり、平均渇水流量は44.16m³/s、平均低水流量が72.06m³/s、美深橋地点は、表6-2に示すとおり、平均渇水流量は31.46m³/s、平均低水流量が53.02m³/sである。



※出典：国土交通省 水文水質データベース

図 6-1 誉平地点流況経年変化図



※出典：国土交通省 水文水質データベース

図 6-2 美深橋地点流況経年変化図

表 6-1 菅平地点における流況表

年	データ数	欠測数	流量 (m³/s)					
			最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量
S43	366	0	677.80	174.53	101.19	71.21	33.18	28.88
S44	364	1	1423.04	214.10	145.34	104.30	56.41	44.70
S45	365	0	1853.92	199.88	91.55	58.64	19.52	13.02
S46	365	0	1203.26	238.76	115.09	84.49	44.51	27.95
S47	366	0	1276.40	161.19	119.52	72.93	41.99	33.07
S48	365	0	2695.30	260.35	135.99	94.50	67.28	56.74
S49	365	0	1637.63	259.42	125.66	82.24	52.36	45.06
S50	365	0	2134.56	253.39	116.38	75.08	22.14	19.98
S51	366	0	1255.08	108.04	68.27	50.57	33.56	24.30
S52	365	0	1617.93	176.28	78.25	67.63	48.73	44.02
S53	365	0	1148.94	156.07	78.01	57.14	40.21	34.11
S54	365	0	1458.40	218.90	98.36	53.90	35.36	25.30
S55	366	0	1107.85	167.58	84.60	53.02	36.02	29.10
S56	362	3	3034.52	248.45	132.14	66.86	35.53	31.98
S57	365	0	1437.79	164.48	85.57	57.96	37.45	33.08
S58	365	0	1431.02	171.74	111.11	76.03	39.48	18.21
S59	366	0	861.14	156.22	86.97	49.62	21.79	17.92
S60	365	0	1041.26	173.53	109.31	66.10	38.65	29.38
S61	365	0	1333.48	175.48	87.39	63.89	36.65	27.50
S62	365	0	1754.67	187.15	119.38	77.21	52.69	46.26
S63	366	0	1688.77	198.19	96.26	53.87	32.91	24.98
H 1	365	0	972.51	217.16	114.17	66.70	40.03	30.44
H 2	365	0	1025.83	190.56	105.81	70.70	40.11	30.43
H 3	365	0	1137.80	184.21	108.52	78.70	39.81	22.54
H 4	366	0	1647.07	254.84	130.24	76.82	56.65	50.30
H 5	365	0	639.02	168.20	96.05	63.34	37.55	33.26
H 6	365	0	1269.77	234.36	109.25	68.25	46.16	39.72
H 7	365	0	943.14	241.18	102.98	71.53	45.79	37.13
H 8	366	0	1105.38	194.25	114.41	69.88	52.78	46.66
H 9	365	0	1253.21	201.42	96.36	74.89	46.69	35.34
H10	365	0	1134.86	165.69	86.04	67.94	44.78	38.81
H11	365	0	1565.52	180.67	115.58	77.54	52.86	46.34
H12	366	0	1633.59	204.17	120.61	70.17	45.78	36.50
H13	365	0	2508.20	198.94	122.03	71.60	34.37	30.45
H14	365	0	1509.68	172.97	96.92	76.27	41.95	33.38
H15	365	0	1275.73	159.41	82.02	60.25	38.64	28.90
H16	366	0	1098.19	156.08	85.73	64.29	43.34	30.85
H17	365	0	1273.57	156.24	87.07	68.95	50.55	42.62
H18	365	0	2091.73	168.52	104.37	68.08	42.74	34.26
H19	365	0	947.56	128.18	81.76	67.63	28.08	19.00
H20	366	0	797.49	121.71	81.79	57.94	37.07	24.27
H21	365	0	1080.80	187.52	105.80	76.97	58.26	42.38
H22	365	0	2152.22	229.56	127.08	87.48	47.03	33.24
H23	365	0	1359.41	234.82	111.59	85.99	51.71	44.52
H24	366	0	1875.41	181.58	103.49	71.30	49.24	44.48
H25	365	0	1238.91	257.31	139.36	82.32	51.80	43.11
H26	365	0	2306.15	210.33	109.86	77.32	48.83	44.84
H27	365	0	795.53	169.26	107.54	83.15	64.94	44.56
H28	366	0	1734.85	243.12	142.81	101.09	75.11	64.18
H29	365	0	1110.86	193.06	112.38	81.24	50.07	42.62
H30	363	2	1566.56	227.37	120.33	83.84	56.23	42.71
R 1	365	0	965.91	158.39	101.22	76.44	41.60	35.91
R 2	366	0	2043.94	218.32	113.80	76.19	54.23	44.38
R 3	365	0	1066.78	241.98	103.47	64.36	28.53	25.58
R 4	365	0	1007.67	151.80	93.71	71.94	45.30	40.47
R 5	365	0	2216.29	273.28	141.28	87.34	58.16	42.60
最大値			3034.52	273.28	145.34	104.30	75.11	64.18
平均値			1436.14	195.36	106.46	72.06	44.16	35.40
最小値			639.02	108.04	68.27	49.62	19.52	13.02
近年56年間(S43～R 5)第5位			861.14	156.07	81.79	53.90	28.53	19.98
近年50年間(S49～R 5)第5位			943.14	156.07	81.79	53.90	32.91	22.54
近年40年間(S59～R 5)第4位			861.14	156.08	85.73	60.25	32.91	24.27
近年30年間(H 6～R 5)第3位			943.14	151.80	82.02	64.29	34.37	25.58
近年20年間(H16～R 5)第2位			797.49	128.18	81.79	64.29	28.53	24.27
近年10年間(H26～R 5)第1位			795.53	151.80	93.71	64.36	28.53	25.58

注) 流域面積: 4,029.0km²

表 6-2 美深橋地点における流況表

年	データ数	欠測数	流量 (m³/s)					
			最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量
S43	366	0	654.90	111.17	66.34	34.62	21.25	19.48
S44	365	0	982.04	154.80	88.54	23.55	8.83	4.42
S45	365	0	911.16	168.26	80.80	49.38	12.35	10.00
S46	365	0	776.03	158.60	89.88	50.93	30.81	30.81
S47	366	0	891.07	136.30	88.29	51.63	33.04	26.99
S48	365	0	1906.43	177.41	89.89	56.75	47.87	34.41
S49	365	0	1082.60	173.74	83.04	63.17	38.18	30.71
S50	365	0	2263.68	159.24	96.93	77.48	47.42	34.76
S51	366	0	869.63	86.78	54.27	42.70	25.73	10.65
S52	365	0	1226.08	121.02	58.94	40.76	29.06	22.14
S53	365	0	803.89	118.43	63.29	43.62	26.72	20.99
S54	365	0	682.69	150.63	69.58	40.11	25.16	18.74
S55	366	0	762.59	133.84	61.47	41.30	23.49	17.78
S56	365	0	2389.58	191.44	97.69	51.23	24.99	20.65
S57	365	0	904.72	117.90	65.44	43.61	24.00	19.64
S58	365	0	844.53	127.56	94.90	62.45	34.22	29.77
S59	366	0	587.29	111.72	68.99	38.45	18.26	14.20
S60	365	0	661.64	121.98	82.72	49.99	29.90	7.48
S61	365	0	800.22	129.96	71.50	49.05	23.18	13.17
S62	365	0	1333.08	147.06	95.62	64.51	42.20	34.24
S63	363	3	1019.71	155.07	73.23	40.93	17.31	13.50
H 1	365	0	666.40	157.05	94.39	50.45	33.88	27.34
H 2	365	0	631.87	139.98	80.13	52.01	31.72	25.81
H 3	365	0	724.67	131.45	89.46	66.82	28.54	15.52
H 4	366	0	1231.04	179.84	102.61	63.24	46.97	35.92
H 5	365	0	455.86	115.30	68.42	47.68	26.99	21.46
H 6	365	0	1336.86	158.59	86.39	51.28	31.94	22.14
H 7	365	0	618.11	161.84	79.19	52.76	31.78	26.04
H 8	366	0	683.61	145.09	89.41	55.90	36.68	30.94
H 9	365	0	774.85	137.98	77.01	58.67	30.86	23.97
H10	365	0	843.45	142.23	71.69	58.11	38.08	29.53
H11	365	0	1016.08	128.93	84.75	60.19	38.16	29.52
H12	366	0	966.58	139.86	90.29	56.61	34.90	23.39
H13	365	0	2157.46	137.95	88.32	52.23	24.95	19.93
H14	365	0	1032.84	102.96	71.48	55.03	29.45	23.44
H15	365	0	762.34	105.97	61.96	47.27	27.40	18.08
H16	356	10	699.21	119.97	61.05	46.26	26.86	19.23
H17	273	92	764.98	163.29	76.39	54.32	38.00	34.13
H18	363	2	1385.28	122.26	79.80	48.33	25.63	20.27
H19	361	4	549.27	87.30	60.64	43.24	20.14	13.21
H20	366	0	447.30	90.98	61.26	40.55	27.73	20.85
H21	365	0	647.33	147.52	78.69	58.37	37.98	29.74
H22	344	21	1452.82	181.74	104.26	65.32	35.27	25.06
H23	363	2	1063.66	172.10	85.12	62.39	35.34	26.59
H24	366	0	1297.74	130.32	73.11	51.26	30.18	27.73
H25	365	0	723.99	171.12	94.83	62.08	32.00	25.34
H26	365	0	1594.50	151.11	77.87	56.87	34.40	30.09
H27	365	0	624.14	124.27	79.66	63.94	43.07	29.67
H28	366	0	1645.03	189.53	109.22	76.96	54.75	44.62
H29	365	0	686.36	154.13	92.87	65.93	40.92	34.87
H30	365	0	1103.57	178.30	94.65	64.96	43.40	31.73
R 1	364	1	665.60	122.04	78.04	55.67	32.71	28.59
R 2	366	0	1078.74	152.31	79.95	53.19	39.74	29.40
R 3	365	0	651.82	164.31	75.07	44.05	19.05	15.41
R 4	365	0	637.76	105.21	70.14	49.97	28.77	23.33
R 5	365	0	1719.35	194.61	88.65	61.12	39.55	25.61
最大値			2389.58	194.61	109.22	77.48	54.75	44.62
平均値			994.54	142.15	80.32	53.02	31.46	23.98
最小値			447.30	86.78	54.27	23.55	8.83	4.42
近年56年間(S43～R 5)第5位			618.11	105.21	61.26	40.55	19.05	13.17
近年50年間(S49～R 5)第5位			618.11	105.21	61.26	40.93	23.18	13.50
近年40年間(S59～R 5)第4位			587.29	105.21	61.96	43.24	20.14	13.50
近年30年間(H 6～R 5)第3位			618.11	102.96	61.26	44.05	24.95	18.08
近年20年間(H16～R 5)第2位			549.27	90.98	61.05	43.24	20.14	15.41
近年10年間(H26～R 5)第1位			624.14	105.21	70.14	44.05	19.05	112.77

注) 流域面積 : 2,899.0km2

6-2 河川水質

天塩川水系における水質汚染に係わる環境基準の類型指定は、水質汚濁防止法に基づく北海道の条例により次の通りである。

表 6-3 環境基準類型指定状況（昭和 47 年（1972 年）4 月 1 日 北海道告示）

水域の範囲	類型	達成期間	環境基準地点名
天塩川上流 ペンケヌカナンブ川合流点から上流（ペンケヌカナンブ川を含む）	AA	イ	朝 日 橋
天塩川中流 ペンケヌカナンブ川合流点から土別取水口まで	A	イ	中 士 別 橋
天塩川下流 (1) 名寄川の名寄取水口から上流	A	イ	真 勲 別 頭 首 工
天塩川下流 (2) パンケナイ川の全域	A	イ	下 中 川 捕 獲 場
天塩川下流 (3) 剣淵川の犬牛別川合流点から上流	A	ロ	1 2 線 橋
天塩川下流 (4) 土別取水口・犬牛別川合流点及び名寄取水口下流	B	ロ	中 川

注) 1. 達成期間の「イ」は、類型指定後直ちに達成すること。
2. 達成期間の「ロ」は、類型指定後 5 年以内で可及的速やかに達成すること。

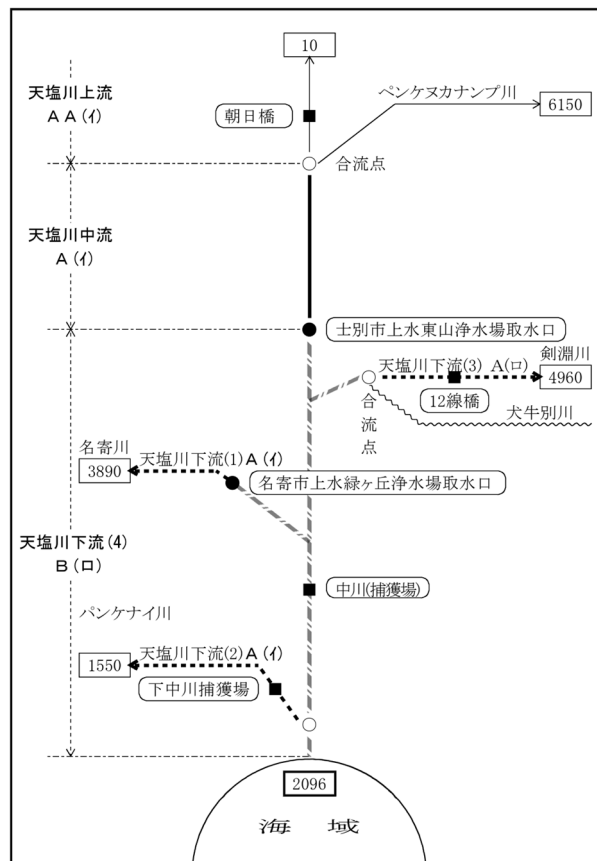


図 6-3 環境基準地点及び類型指定位置図

(1) 主要な地点の現状

天塩川流域における主要な地点の水質は以下のとおりである。

令和5年度（2023年度）のBOD75%値は、天塩川本川の環境基準地点である朝日橋地点で0.5mg/l、中士別橋地点で0.7mg/l、中川地点で0.5mg/l、名寄川の環境基準地点である真勲別頭首工地点で0.6mg/lとそれぞれの環境基準値を満足している。

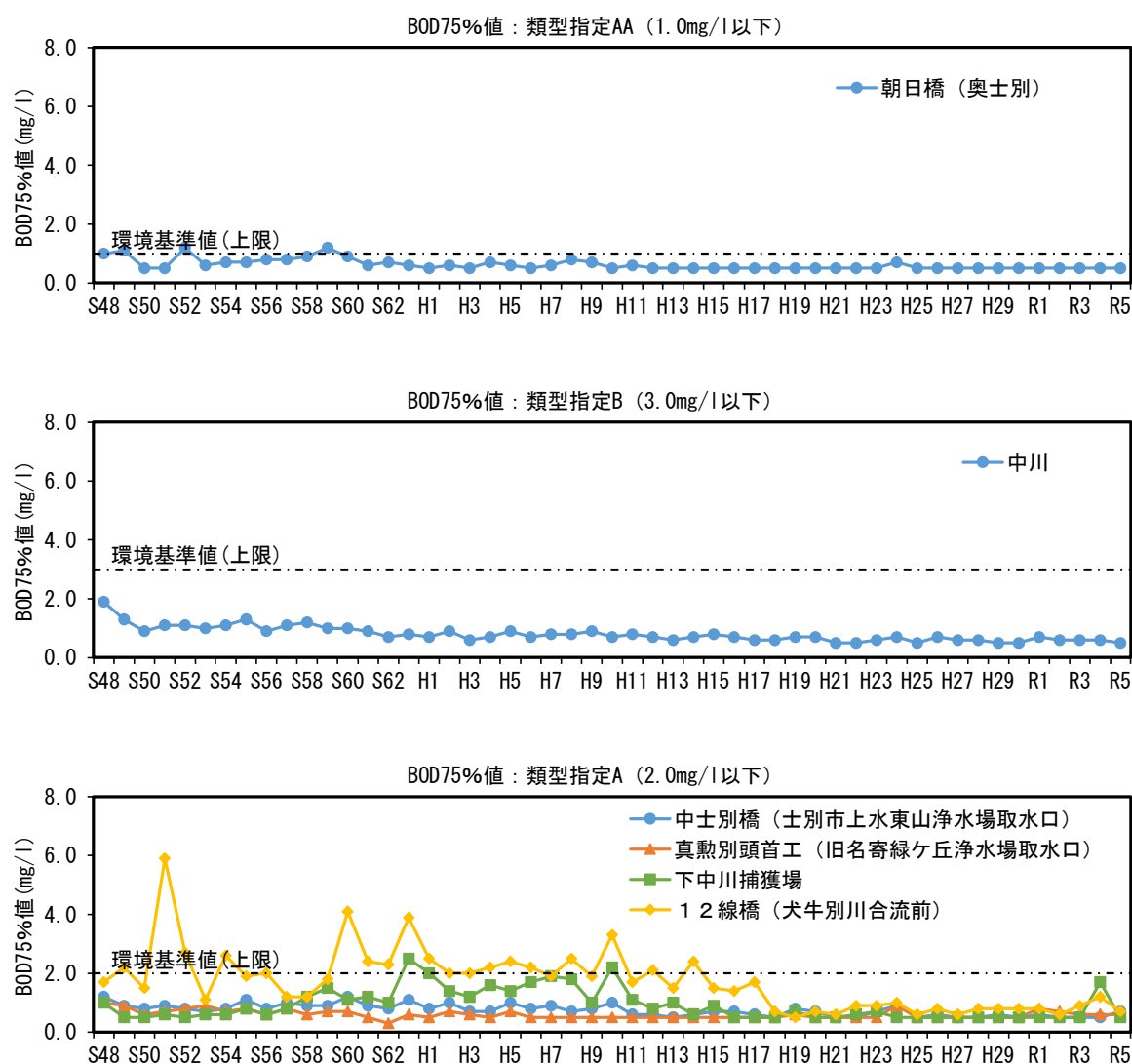


図 6-4 天塩川の各水質観測地点における BOD75%値の経年変化

(2) 旧川水質の現状

旧川における水質について、計測データがある全窒素と全リンの経年変化をみると、湖沼の環境基準値は基準値程度かやや超過している傾向が見られる。

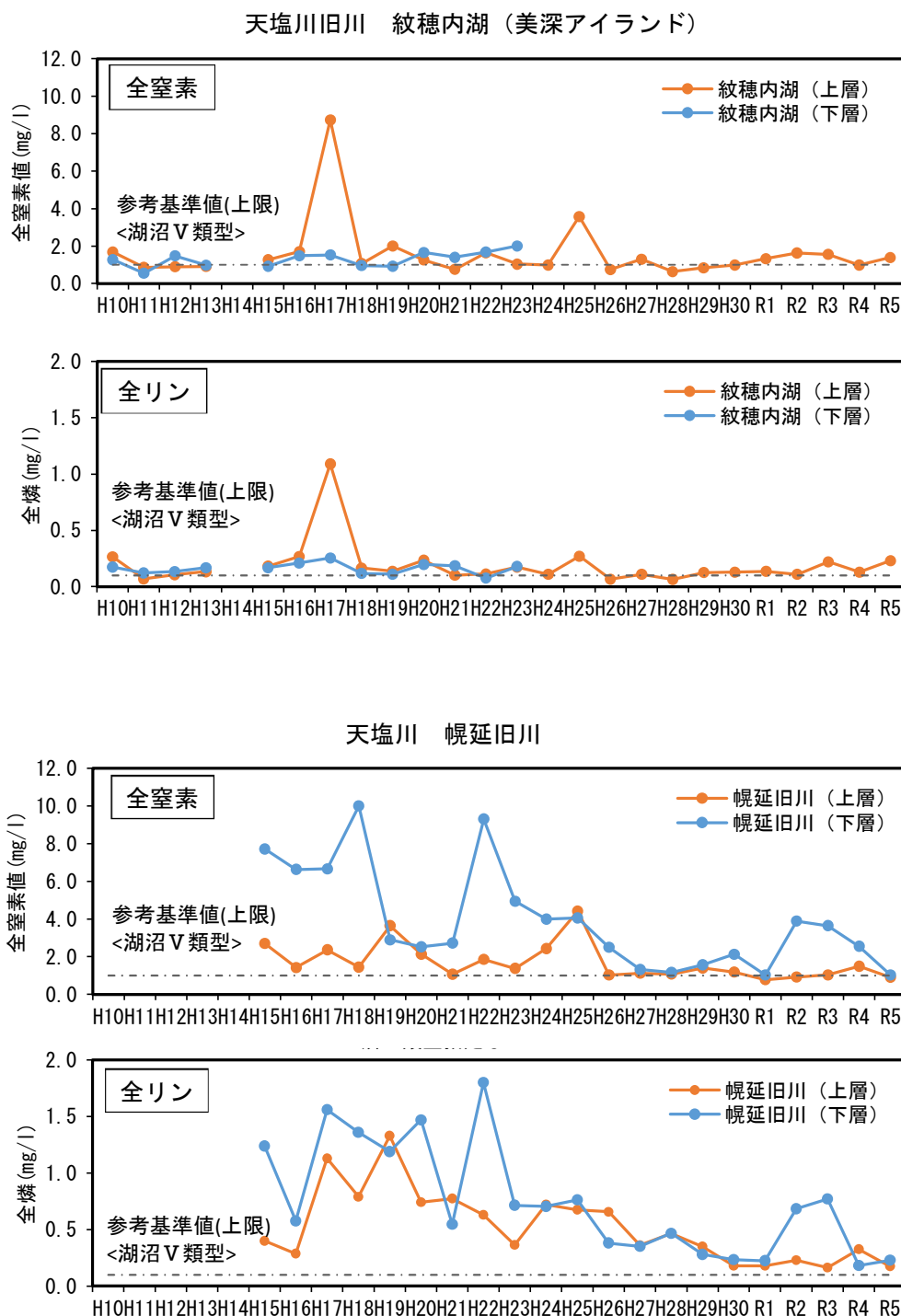


図 6-5 天塩川旧川における全窒素・全リンの経年変化

7. 河川空間の利用状況

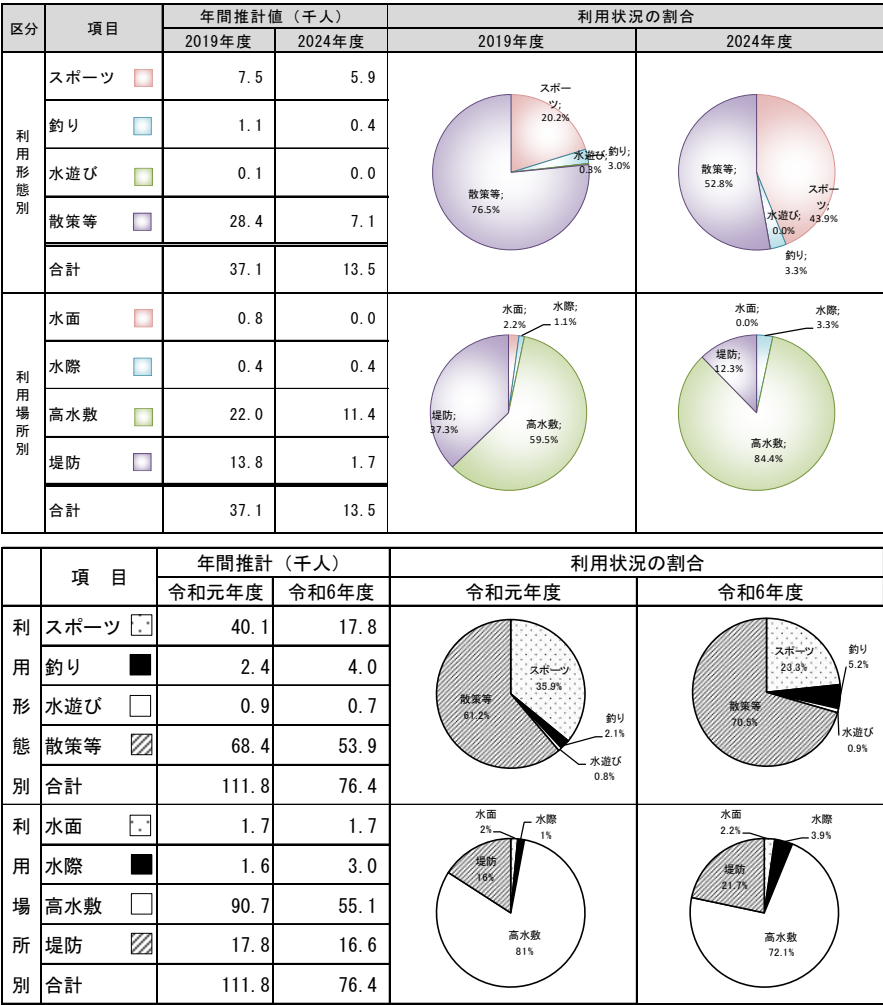
7-1 河川敷等の利用の状況

(1) 河川敷地の利用状況

天塩川の年間河川空間利用者総数（推定）を以下に示す。

令和 6 年度（2024 年度）の利用者数の推計は約 9 万人で、令和元年度（2019 年度）調査から約 5.9 万人減少している。利用形態別では、上流部では散策等が約 70%、スポーツ等が約 23%であり、上下流ともに散策・スポーツの利用が 90%以上を占めている。下流部においても散策等が約 53%と最も多く、次いでスポーツが約 44%となっている。

利用場所別では、上下流ともに高水敷利用が多くを占め、各種イベント、パークゴルフ等の利用が確認されている。



出典：令和 6 年度河川水辺の国勢調査結果〔河川版〕（河川空間利用実態調査編）

※河川利用者の年間推定値の減少は 2024 年度の気温（春期の低温・夏期の高温）による影響と推察される

図 7-1 天塩川の年間河川空間利用状況（上表：天塩川下流域、下表：天塩川上流域）

7-2 高水敷の利用状況

天塩川の河川利用は、上流から士別市、名寄市、中川町、音威子府村、天塩町の周辺は高水敷の整備が進み施設の利用が盛んであり、その他の地区では自然的利用が行われている。特に、旧河川敷地を利用した士別市のつくも水郷公園、美深町のびふかアイランド、天塩町の鏡沼海浜公園では休日にはスポーツ・散策など多くの人々に利用されている。

天塩川河川敷地は約 1,170ha の占有があり、このうち採草放牧地の占有が約 532ha で全体の約 45.5%を占め、次いで公園・緑地の占有が約 150ha となっている（表 7-1）。天塩町、中川町、音威子府村、美深町、名寄市、士別市で河川緑地の整備がすすめられて、士別市朝日町では岩尾内ダムの周辺を地域の交流の場として整備している。河川管理者においても、これらの地域計画と連携として、河川環境整備事業及びダム周辺環境整備事業により基盤整備を実施し、多くの住民に健康増進の場、憩いの場、イベント等交流の場として盛んに利用されている。

表 7-1 河川敷地の占有状況（大臣管理区間）

（単位：ha）

水系名 \ 占有面積	公園・緑地		運動場		採草放牧地		水 田	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
天 塩 川	38	150.32	2	8.21	199	532.24	45	31.70

畑		その他		合 計	
件数	面積	件数	面積	件数	面積
73	50.43	1,665	397.65	2,022	1,170.56

※上・下流部の合計値（R7.5 月現在）

7-3 河川の利用状況

天塩川の水辺は、沿江市町村の広範囲で四季を通じて利用されているほか、かわまちづくり事業等が推進されており、人々の暮らしに深くかかわっている。

(1) 上流部

天塩川上流部の士別市朝日町では、岩尾内ダム湖周辺にキャンプ場、温泉等が整備され、釣り、カヌーなどの利用が見られるほか、毎年夏には岩尾内湖水まつりが開催されている。また、天塩川の旧川を利用したつくも水郷公園及び天塩川河川敷が河川公園として整備され、市民の健康増進及び憩いの場として利用されているほか、士別天塩川まつりが開催され、川舟みこしや納涼花火大会が行われている。



写真 7-1 岩尾内 湖水まつり（士別市）

(2) 中流部

天塩川中流部の名寄市では、名寄市街部の天塩川河川敷にパークゴルフ場、サッカー場、サイクリング園路等が整備され、市民の健康増進、憩いの場として利用されている。また、天塩川の旧川である智恵文沼が釣りやバードウォッチングの場として利用されている。美深町では、天塩川の旧川である三日月湖を利用し、カヌーポート、オートキャンプ場や温泉等を配備した親水公園として美深アイランドが整備されている。音威子府村では、天塩川河川敷に隣接して天塩川温泉が整備され、多くの人々が保養の場として利用している。また、温泉に隣接してカヌーポートが整備され、カヌー利用者も多く温泉を利用している。中川町では、町民の交流・憩いの場として、天塩川河川敷にパークゴルフ場、イベント広場等の河川公園の整備を進めている。現在、対岸の河川敷にはカヌーポートが整備され、オートキャンプ場等が隣接することから、多くの人々に利用されている。



写真 7-2 サイクリング（名寄市）



写真 7-3 美深アイランド（美深町）

(3) 下流部

天塩川下流部の天塩町では、河口部旧川跡を利用し、キャンプ場やオートキャンプ場、原生植物の散策道等の鏡沼海浜公園が整備されており、多くの人々の交流・憩いの場として利用されている。また、天塩川及び鏡沼海浜公園を舞台に天塩川しじみまつり等が開催され、多くの人々が参加している。

幌延町では、三日月湖周辺をスポーツ公園として利用しているほか、カヤックツアーなどの利用がされている。

サロベツ原野には、ペンケ・パンケ沼や、エゾカンゾウなど 100 種類以上の花が咲き誇るサロベツ原生花園があり、毎年夏期には多くの観光客が自然散策を楽しむために訪れている。また、隣接する兜沼では多くの人々がキャンプや自然散策等を楽しんでいる。

(4) その他

天塩川では、カヌー利用が盛んであり、全川にわたって各所にカヌーポートが整備されている。また、全国的なカヌーのイベントとして「ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ」が開催されている。上流の名寄市から河口までの約 150km をカヌーで下るもので、平成 4 年度（1992 年度）から毎年開催されている。



写真 7-4 天塩川しじみまつり（天塩町）



写真 7-5 総合スポーツ公園（幌延町）



写真 7-6 ダウン・ザ・テッシ・オ・ペッ



1 天塩川河川公園(天塩町)



2 川の駅 中の島(音威子府村)



3 美深アイランド(美深町)
美深アイランドは、天塩川旧川を利用し整備した多目的公園



4 てっし名寄まつり(名寄市)



ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツ

※ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツは、年により開催区間が異なるため、図上に位置を記載していない

凡	例
流域界	
市町村界	
基準地点	
ダム	
指定区間外区間	
河川・湖沼(直轄)	
河川・湖沼(直轄以外)	
山地	
丘陵地	
台地・段丘	
低地	



5 土別天塩川まつり(土別市)

図 7-2 天塩川における河川利用位置図

7-4 内水面漁業

天塩川流域では、下流部に内水面共同漁業権（留内共第1号：シジミガイ・ワカサギ）が設定されている。

○漁業権の概要

ア.共同漁業権

第八次内水面共同漁業権（存続期間 R5.9.1～R15.8.31）

漁場の位置		天塩町及び幌延町
漁協名		北るもい（天塩）
漁業権番号		留内共第1号
漁業種類	第1種	しじみがい漁業
	第5種	わかさぎ漁業

漁場区域：国道40号線天塩大橋上流端から上流5kmの線から下流の天塩川本流の区域、豊富町と幌延町の境界線から下流のサロベツ川本流の区域、パンケ沼の区域及び同沼とサロベツ川を連絡する河川の区域並びに国土地理院5等三角点恩根別から180度の線以西のオンネベツ川本流の区域



イ.北海道特別採捕許可

許可対象者：一般社団法人 留萌管内さけ・ます増殖事業協会

魚種：サケ

採捕期間：8/15～1/31（毎年更新）

採捕区域：①幌延町天塩大橋下端から下流の天塩川本支流の区域

②国道40号線音威子府橋下端から下流の幌延町天塩大橋下端に至る間の天塩川本支流の区域

③名寄市名寄大橋下端から下流の国道40号線音威子府橋下端に至る間の天塩川本支流の区域

8. 河道特性

8-1 河道の特性

天塩川は、その源を北見山地の天塩岳（標高 1,558m）に発し、士別市及び名寄市で剣淵川、名寄川等の支川を合流し、山間の平野を流下して中川町に至り、さらに天塩平野に入って間寒別川等の支川を合わせて天塩町において日本海に注ぐ、幹川流路延長 256km 流域面積 5,590km² の一級河川である。河床は上流部が急勾配で下流に行くにしたがって緩くなっている。河口から 14km 付近までが感潮域である。

(1) 上流部(天塩岳～名寄川合流点)

上流部の天塩川は豊かな亜寒帯森林地帯を急勾配で安山岩質の峡谷を西に流下して岩尾内ダム地点に至る。その後、粘板岩が卓越した区間を流下し、士別付近の扇状地を通過して大規模稲作の北限である名寄盆地に入る河床標高 100m 以上、河床勾配 1/900 以上の急流河川である。

盆地周囲には砂礫質の台地や河岸段丘が発達し、河畔林が連続した自然河岸区間が多い。河床が砂礫で構成され、複列砂州が見られるが、河道は比較的安定しており、近年では砂州上に樹木の発達が多く見られる。



写真 8-1 上流部

(2) 中流部(名寄川合流点～問寒別川合流点)

中流部は名寄盆地の下流で智東の狭窄部を通過して美深低地に入り、1/2,200～1/1,000 程度の緩やかな河床勾配となる。その後、音威子府の狭窄部で北見山地を通過して中川低地に入る河床標高約 5～100m の区間である。この区間は良好な落葉広葉樹林帯が広がり、流れが早瀬である自然豊かな狭窄部とそれに挟まれている大小の扇状地から成り、扇状地上では大きな蛇行を繰り返しており、側岸侵食の激しい箇所が多数存在する。

河岸土質は主にシルトであり、河床材料は砂礫であるが、所々に築のような形で横断している岩（テッシ）が露出している。このため、天塩川は全体的に河床低下傾向にあるが、智東の狭窄部から音威子府の区間においては河床低下がほとんど無い状態である。



写真 8-2 中流部

(3) 下流部(問寒別川合流点～河口)

下流部の天塩川は大きく蛇行しながら泥炭地が広く分布する氾濫平野を西流し、豊かな湿原植生が分布するサロベツ湿原を貫流するサロベツ川を合わせた後、河岸段丘で大きく偏流して砂丘沿いに約 10km 南下し日本海に注いでいる。

河床勾配は、河口より海岸沿いの 10km まではほぼ水平、それより上流が 1/5,000 程度と緩勾配であり、河口から 14km 付近までの区間は感潮区間である。

このため河床材料はシルトや細砂が多くを占め、全体的に河床は堆積傾向にある。

著しい蛇行区間は多数の捷水路工事により直線化され、大小の旧川跡地（沼）が点在している。また、砂州変動の激しかった河口部は、導流堤により現在安定している。



写真 8-3 下流部

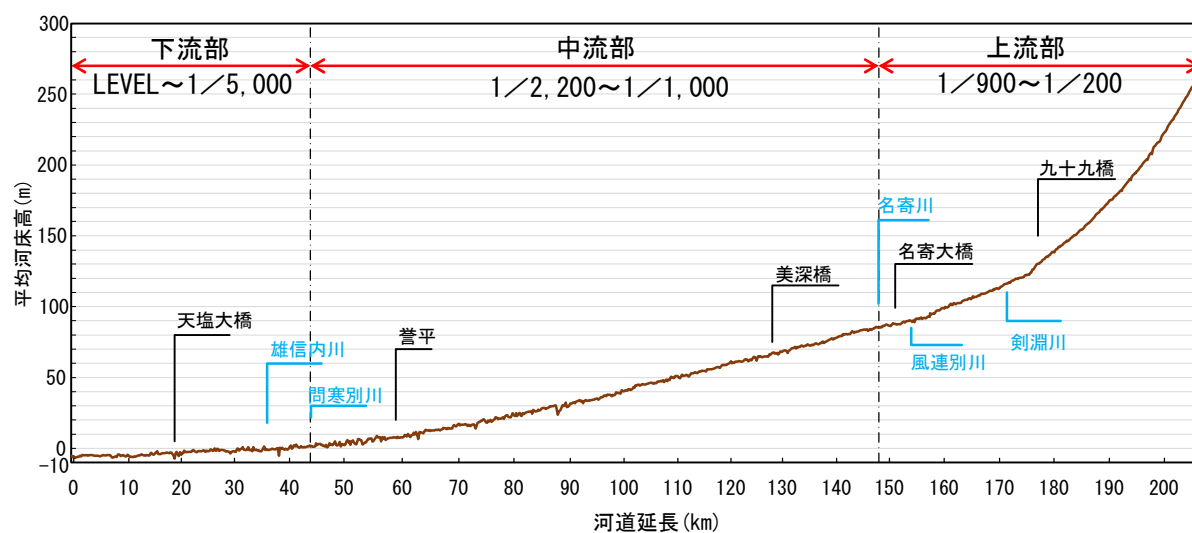


図 8-1 天塩川河床縦断面図

8-2 河床変動の経年の変化

昭和 40 年代から昭和 50 年代にかけて、河道掘削工事等が実施されており、工事実施箇所及び近傍区間で河床の低下が見られる。

昭和 50 年代から平成初期にかけて、0～10km 区間において、浚渫及び河道掘削により河床が低下している。

平成に入って以降は、河道掘削により河口部で河床低下しているほかは大きな変化は見られない。

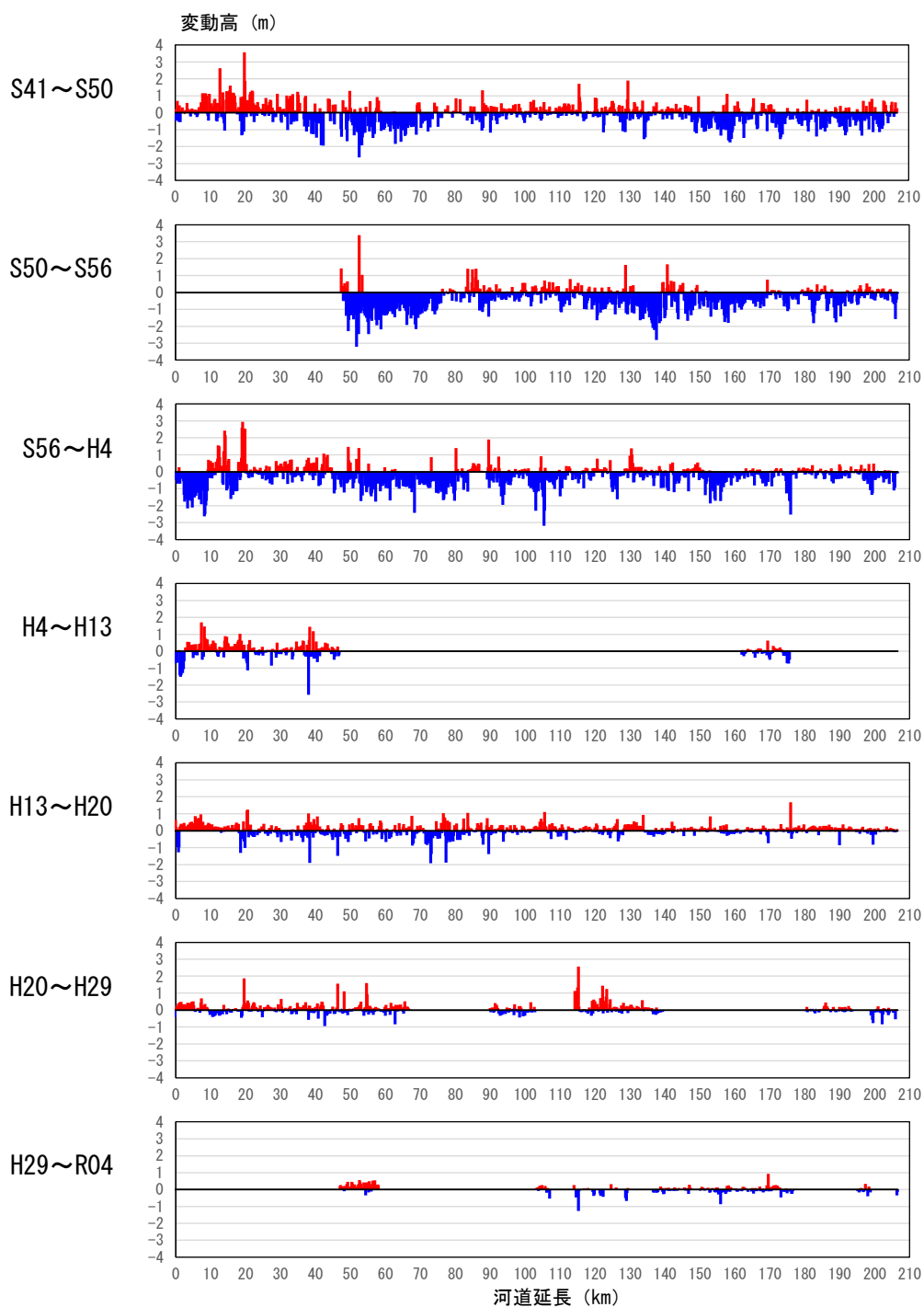


図 8-2 平均河床高の変化

9. 河川管理

9-1 河川管理区間

天塩川は、幹川流路延長 256km の一級河川であり、以下の区間を国が管理している。

表 9-1 (1) 天塩川水系の大臣管理区間

河川名	区間			備考
	上流端（目標物）	下流端	延長 (km)	
天塩川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 149 林班い小班地先 右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 137 林班い小班地先	海	227.1	大臣管理区間
円山ウブシ川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌプナイ 5621 番地先 右岸 同町同字 7361 番 1 地先	天塩川への合流点	0.7	2 条 8 号区間
ひがしろくせん 東六線川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌプナイ 5389 番 1 地先 右岸 同町同字 5438 番 1 地先	天塩川への合流点	1.2	2 条 8 号区間
まるやまあか 円山赤川	左岸 北海道天塩郡天塩町字オヌプナイ 1106 番 1 地先 右岸 同町同字 1107 番地先	東六線川への合流点	1.6	2 条 8 号区間
雄信内川	七線沢の合流点	天塩川への合流点	2.0	大臣管理区間
問寒別川	北海道天塩郡幌延町字上問寒 637 番地先の農道橋下流端	天塩川への合流点	24.5	大臣管理区間
うとない 宇戸内川	左岸 北海道中川郡中川町字上国子府 122 番地先 右岸 同町同字 56 番地先（宗谷本線鉄道橋下流端）	天塩川への合流点	0.7	2 条 8 号区間
パンケナイ川	北海道中川郡中川町字中川 58 番 5 地先の 上流端を示す標柱	天塩川への合流点	0.8	2 条 8 号区間
どうらん 銅蘭川	左岸 北海道中川郡中川町字中川 428 番 10 地先 右岸 同町同字 416 番 1 地先（宗谷本線鉄道橋下流端）	天塩川への合流点	0.2	2 条 8 号区間
安平志内川	左岸 北海道中川郡中川町字安川 151 番 1 地先 右岸 同町同字 514 番地先	天塩川への合流点	2.2	2 条 8 号区間
ルベシベ川	左岸 北海道中川郡中川町字安川 127 番 1 地先 右岸 同町同字 126 番 1 地先	安平志内川への合流点	0.5	2 条 8 号区間
音威子府川	左岸 北海道中川郡音威子府村字音威子府 384 番地先 右岸 同町同字 383 番地先	天塩川への合流点	1.1	2 条 8 号区間
ウルベシ川	左岸 北海道中川郡美深町字川西 28 番地先 右岸 同町同字 135 番地先	天塩川への合流点	1.4	2 条 8 号区間

表 9-1 (2) 天塩川水系の大臣管理区間

河川名	区間			備考
	上流端 (目標物)	下流端	延長 (km)	
美深六線川	左岸 北海道中川郡美深町 76 番地先	天塩川への合流点	1.0	2 条号区間
	右岸 同町同字 66 番地先			
かわにしろうせん 川西六線川	左岸 北海道中川郡美深町西 16 番地先	天塩川への合流点	0.5	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 14 番地先			
イオナイ川	名寄市字チエブン原野 2191 番地先	天塩川への合流点	1.3	2 条 8 号区間
ペンケニウプ川	左岸 北海道中川郡美深町字美深 432 番地先	天塩川への合流点	0.8	2 条 8 号区間
	右岸 名寄市チエブン原野 2331 番地先 (宗谷本線鉄道橋の下流端)			
名寄川	然別川の合流点	天塩川への合流点	34.1	大臣管理区間
やぶみ 矢文川	左岸 北海道上川郡下川町字名寄 3211 番の 1 地先	名寄川への合流点	0.5	2 条 8 号区間
	右岸 同町字上名寄 8100 番地先			
サンル川	左岸 北海道上川郡下川町字名寄 3151 番の 4 地先	名寄川への合流点	0.6	2 条 8 号区間
	右岸 同町字上名寄原野 3508 番 67 地先			
	左岸 北海道上川郡下川町珊瑚 1518 番地	一の沢川の合流点	9.7	大臣管理区間
	右岸 同町珊瑚 1081 番地			
サンル十二線川	左岸 北海道上川郡下川町珊瑚 730 番地	サンル川への合流点	1.0	大臣管理区間
	右岸 同町珊瑚 697 番地			
しもかわ 下川ペンケ川	左岸 北海道上川郡下川町字名寄 4212 番地先	名寄川への合流点	1.1	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 4213 番地先			
ほうえい 豊栄川	名寄市豊栄 270 番の 5 地先	天塩川への合流点	5.0	2 条 8 号区間
風連別川	北海道上川郡風連町字東風連 1282 番地先の国鉄橋下流端	天塩川への合流点	3.4	大臣管理区間
タヨロマ川	左岸 北海道上川郡風連町字瑞生 60 番地先	天塩川への合流点	5.8	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 52 番地先 (町道 25 線橋)			
	左岸 北海道士別市下士別町 1536 番の 1 地先	新タヨロマ川への分派点	0.4	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 1851 番地先			
はつちやしない 初茶志内川	左岸 名寄市字弥生 666 番地先	天塩川への合流点	1.3	2 条 8 号区間
	右岸 同市同字 665 番地先			
トーフトナイ川	左岸 北海道上川郡風連町字西風連 323 番地先	天塩川への合流点	1.3	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 224 番地先			

表 9-1 (3) 天塩川水系の大臣管理区間

河川名	区間			備考
	上流端（目標物）	下流端	延長 (km)	
剣淵川	左岸 士別市西士別町 1287 番地の 1 地先	天塩川への合流点	1.6	大臣管理区間
	右岸 同市北町 414 番の 12 地先			
ワッカウエンナイ川	左岸 士別市中士別町 799 番の 1 地先	天塩川への合流点	0.8	2 条 8 号区間
	右岸 同市同町 884 番の 11 地先			
ひがしないだいが 東内大部川	左岸 士別市上士別町 2377 番の 1 番地先	天塩川への合流点	0.8	2 条 8 号区間
	右岸 同市同町 2378 番地先			
ヌプリシロマナイ川	左岸 北海道上川郡朝日町字奥士別 4013 番の 3 地先	天塩川への合流点	0.6	2 条 8 号区間
	右岸 同町同字 4013 番の 4 地先			
岩尾内川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 35 林班は小班地先	天塩川への合流点	3.5	大臣管理区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 29 林班い小班地先			
サックル川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 63 林班と小班地先	天塩川への合流点	2.4	大臣管理区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 40 林班と小班地先			
にきま 似峽川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 96 林班へ小班地先	天塩川への合流点	1.7	大臣管理区間
	右岸 同町字新奥士別 4206 番地先			
おきとう 於鬼頭川	左岸 北海道上川郡朝日町国有林上川北部経営計画朝日事業区 106 林班れ小班地先	天塩川への合流点	0.5	大臣管理区間
	右岸 同町国有林上川北部経営計画朝日事業区 97 林班る小班地先			

注) 2 条 8 号区間とは、大臣管理区間の改良工事と一体として施工する必要があるため、河川法施行令第 2 条第 8 号に基づき、国が工事を施行する一級河川の指定区間（知事管理区間）

9-2 河川管理施設

天塩川水系は、堤防の整備率が約 65%となっており、引き続き堤防の整備を進めていく。

また、樋門等の河川管理施設は老朽化の進んだ施設が多いため、堤防も含めた河川管理施設に対して、定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕、応急対策等の維持管理を行っている。

河川管理施設の整備状況は以下の通りである。

表 9-2 堤防整備の状況

大臣管理 区間延長 (km)	堤防延長 (km)			
	堤防必要区間	計画断面 堤防区間	暫定断面 堤防区間	無堤防区間
283.9	341.1	220.3	81.7	39.3

※堤防延長は大臣管理区間の左右岸の計である。

表 9-3 主要な河川管理施設整備状況（単位：ヶ所）

堰	水門	床止	排水機場・ 救急内水排水場	樋門樋管等
0	0	0	6	216

9-3 許可工作物

天塩川水系の大臣管理区間の河川工作物については、管理者において操作体制の確立や点検、整備を行い確実な操作を実施することとしている。

表 9-4 許可工作物一覧表（大臣管理区間）（単位：ヶ所）

種別	箇所数
堰	12
樋門樋管	10
道路橋	14
鉄道橋	3
水道管	0
サイフォン	0
排水機場・揚水機場等	6
計	45

9-4 水防体制

(1) 河川情報の概要

天塩川では、流域内に国管理の雨量観測所（36 箇所）、水位観測所（33 箇所）を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い水防活動に活用している。

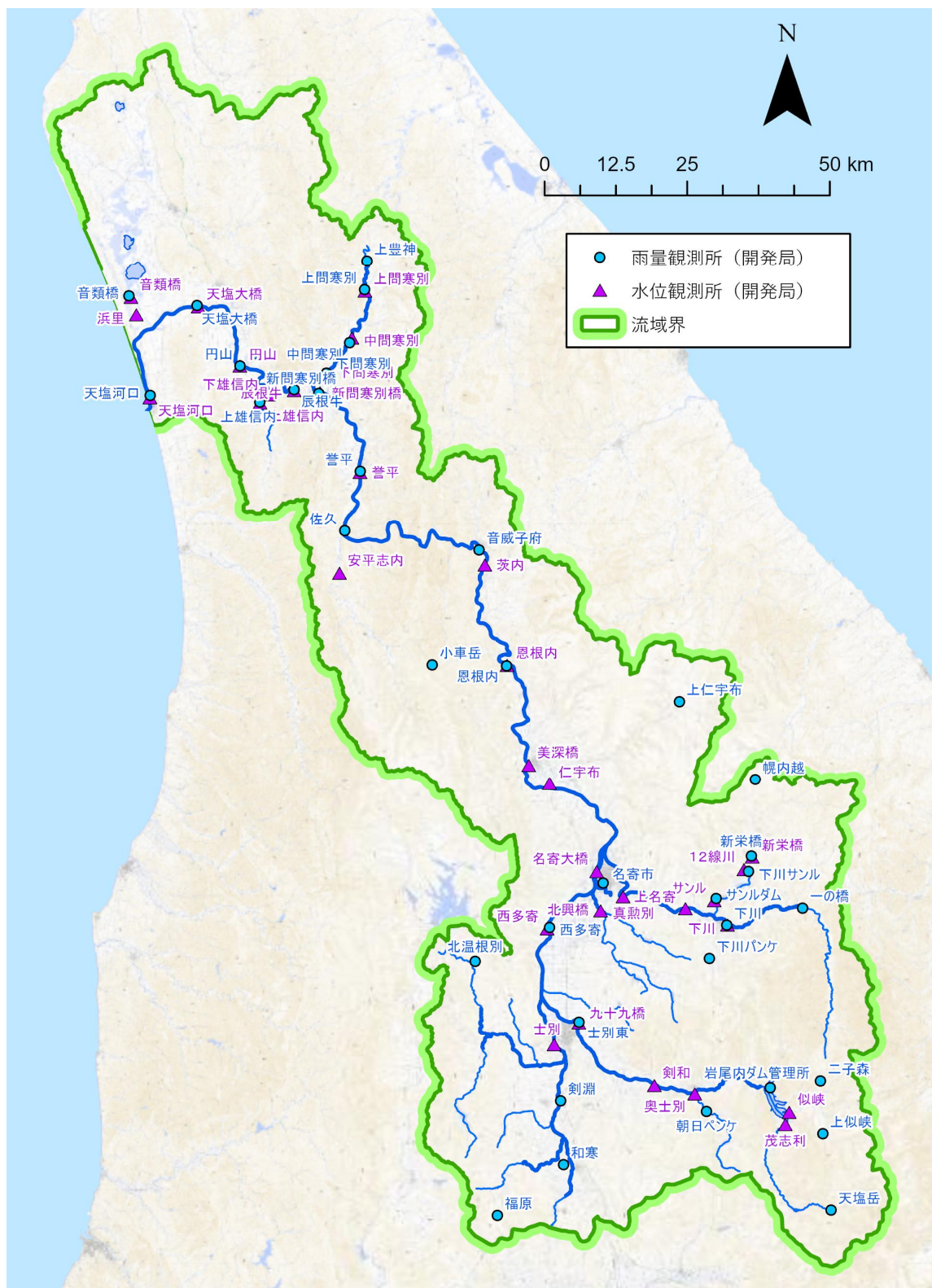
また、近年では名寄市を中心に光ケーブル網により接続された遠隔監視カメラを用いた管理も行い、迅速な水防活動の一助となっている。

(2) 水防警報の概要

天塩川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、誉平・名寄大橋・真勲別など7箇所の基準となる水位観測所の水位をもとに市町村を含む水防関係機関に対し、河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

(3) 洪水予報

天塩川では、水防法及び気象業務法に基づき、「洪水予報」を天塩川や名寄川等を対象河川として気象台と共同で発表している。流域の雨量や水位の状況、水位予測等を一般住民にわかりやすく迅速に伝えるべく整備を進めている。



※国土数値情報（河川・海岸線・行政区）（国土交通省）を加工して作成
 図 9-1 洪水予報河川等及び雨量・水位観測所

9-5 危機管理への取組

(1) 水防連絡協議会との連携

天塩川において、洪水・高潮等による被害の発生を防止又は被害を軽減するため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難、水防活動等を迅速かつ円滑に行うために、水防連絡協議会が結成されている。この協議会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握、定期的な水防訓練等を行っている。



美深町大手地区での活動状況



名寄市街地区での活動状況

図 9-2 災害対応の状況（H26.8 洪水（2014 年））

(2) 渇水調整協議会との連携

天塩川流域の渇水時における関係利水者間の水利使用の調整を円滑に行い、もって合理的な水利使用の推進を図ることを目的とした渇水調整協議会が組織されている。この協議会では、水利使用の調整時期及び方法、水利使用実態、合理的な水利使用の方策、水使用上の水質の維持、実施及び連絡体制の確立等について協議し、合理的な水使用の推進を図っている。

(3) 水質事故対策の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故は、流域内に生息する魚類や生態系のみならず、水利用者にも多大な被害を与えている。水質事故が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、迅速で適切な対応が必要になっている。このため、環境保全連絡協議会により、連絡体制を強化するとともに、水質事故訓練等を行い迅速な対応を行うことが大切であり、また、水質事故に備え、常時から資機材の備蓄を計画的に行っている。



図 9-3 水質事故訓練の状況

(4) 洪水危機管理の取組

近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進するため、国や道の関係部署並びに流域の市町村等で組織された「天塩川上流流域治水協議会」、「天塩川下流流域治水協議会」において、令和3年（2021年）3月に天塩川流域で行う流域治水の全体像をとりまとめた「天塩川上流水系流域治水プロジェクト」、「天塩川下流流域治水プロジェクト」を策定した。また、気候変動の影響による降水量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため、流域のあらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図り、「天塩川（上流）水系流域治水プロジェクト 2.0」、「天塩川（下流）水系流域治水プロジェクト 2.0」を令和6年（2024年）3月に策定した。

また、想定し得る最大規模の洪水等が発生した場合でも人命を守ることを第一とし、平成28年（2016年）10月には想定最大規模降雨を対象とした浸水想定区域図を作成・公表している。令和4年（2022年）には、土地利用の住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討等、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表している。



図 9-4 天塩川上流流域治水協議会の様子



図 9-5 天塩川（上流）水系流域治水プロジェクト 2.0



図 9-6 天塩川下流流域治水プロジェクト 2.0

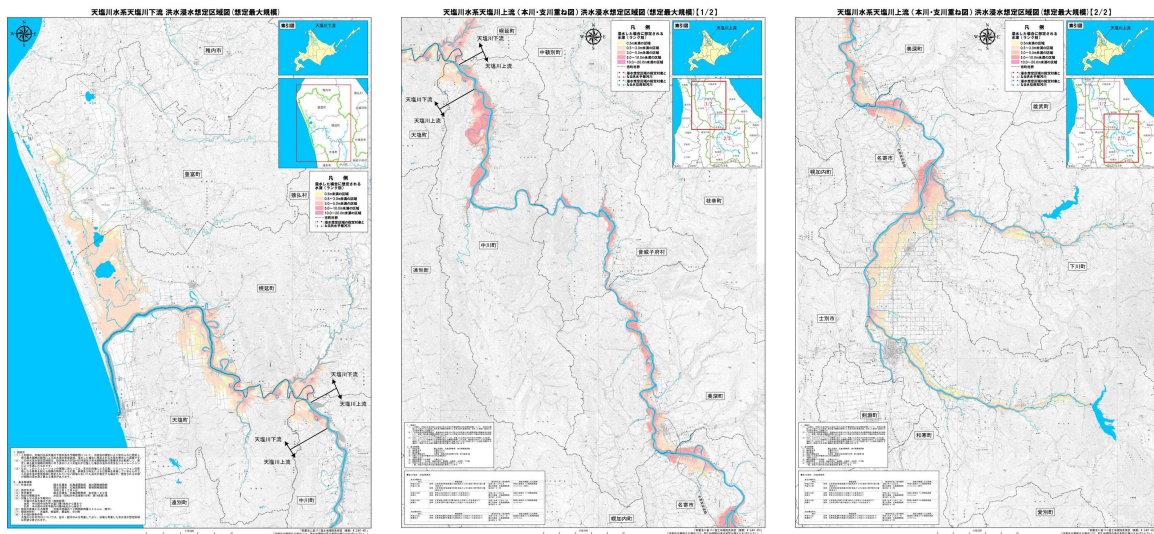


図 9-7 天塩川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

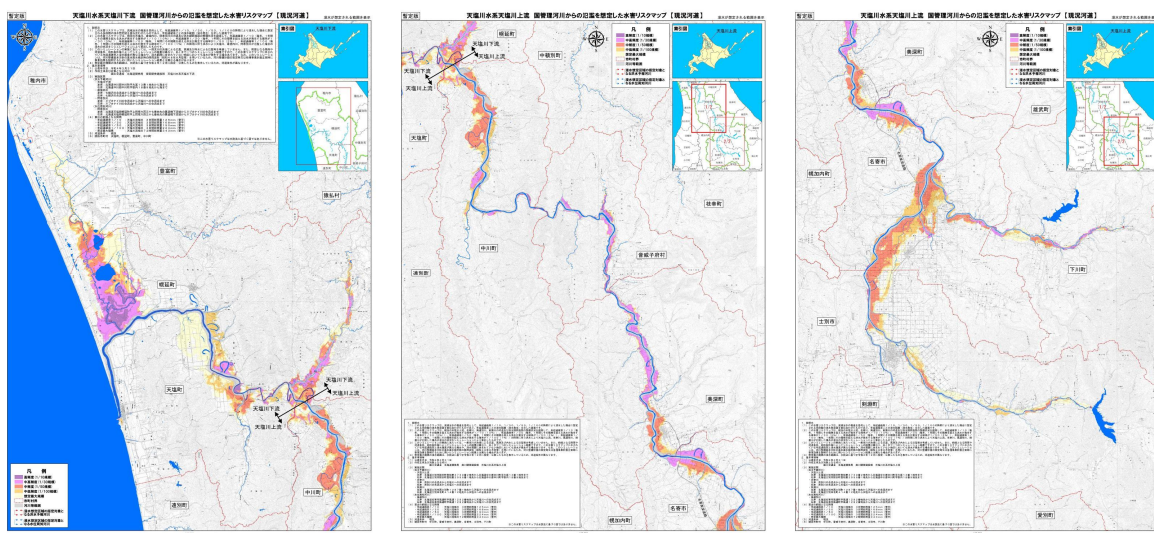


図 9-8 天塩川水系水害リスクマップ（現況 0cm 以上浸水）

(5) 地震・津波対策への取組

① 過去の地震災害

天塩川流域で震度 4 以上を記録した地震は、15 回発生しており、令和 4 年（2022 年）8 月 11 日に発生した地震では、上川中川町中川において最大震度 5 強を観測した。また、昭和 15 年（1940 年）8 月 2 日に発生した津波では、最大 2.0m の津波が観測され、周辺地域に被害をもたらした。

河川津波対策に当たっては、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」は施設対応を超過する事象として、住民等の生命を守ることを最優先とし、流域の関係者が津波防災地域づくり等と一体となって減災対策を実施する。また、最大クラスの津波に比べて発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす「計画津波」に対しては、津波による災害から人命や財産等を守るため、海岸における防御と一体となって河川堤防等により津波災害を防御するものとする。

表 9-5 過去の津波の発生状況

日時	名称	津波の最大の高さ	被害
昭和 15 年 8 月 2 日	留萌沖	2.0m（天塩）	海岸線の番屋十数戸流出、死者 8 名
昭和 46 年 9 月 6 日	サハリン西方沖	0.2m（天塩）	
昭和 58 年 5 月 26 日	日本海中部地震	0.54m（羽幌）、 0.24m（稚内）	
平成 5 年 7 月 12 日	北海道南西沖地震	0.98m（羽幌）、 0.44m（稚内）	

表 9-6 震度 4 以上を記録した地震

発生日	震央地名	マグニチュード	主な地点の震度
2003/9/26	十勝沖	8	剣淵町仲町 震度 4
2004/12/14	留萌地方南部	6.1	剣淵町仲町 震度 4
2008/10/04	宗谷地方北部	3.5	幌延町宮園町 震度 4
2012/7/15	上川地方北部	4.2	上川中川町中川 震度 4
2012/7/16	上川地方北部	4.3	上川中川町中川 震度 4
2012/7/18	上川地方北部	4.1	上川中川町中川 震度 4
2016/11/25	留萌地方中北部	4.6	天塩町川口 震度 4
2018/9/6	胆振地方中東部	6.7	剣淵町仲町 震度 4
2019/12/12	宗谷地方北部	4.2	豊富町西 6 条 震度 5 弱 幌延町宮園町 震度 4
2022/6/20	宗谷地方北部	4.4	豊富町西 6 条 震度 4 幌延町宮園町 震度 4 天塩町川口 震度 4
2022/8/4	宗谷地方北部	4.1	幌延町宮園町 震度 4
2022/8/11	上川地方北部	5.2	上川中川町中川 震度 5 弱
2022/8/11	上川地方北部	5.4	上川中川町中川 震度 5 強 豊富町西 6 条 震度 4 幌延町宮園町 震度 4
2022/8/11	上川地方北部	4.6	上川中川町中川 震度 4
2024/9/24	留萌地方中北部	3.7	天塩町川口 震度 4

出典：気象庁震度データベース検索

10. 地域との連携

河川清掃活動や河川愛護モニター制度等の活用により、住民参加型の河川管理の構築に努める。天塩川では、河川清掃活動、植樹会、環境学習など様々な市民活動が行われており、今後も市民等の川での社会貢献活動を支援するとともに、地域住民・市民団体・関係機関及び河川管理者が、各々の役割を認識し、連携・協働して、流域に伝わる文化等に配慮しつつ効果的かつきめ細かな河川管理を実施する。

10-1 地域住民、河川協力団体、市民団体等との協働

(1) 実施の基本的な考え方

河川環境の保全や河川利用について、地域住民・河川協力団体・市民団体等との協働により、地域の特性を反映した川の維持管理を実施する。

(2) 実施内容

河川清掃等において、地域住民・河川協力団体・市民団体等と協働する。

(3) 実施に当たっての留意点

地域の取組と連携し、河川整備や住民参加型の河川管理体系の構築に努める。



写真 10-1 河川清掃状況

10-2 関係自治体との連携・調整

(1) 実施の基本的な考え方

市町村と連携して、効果的・効率的な河川の維持管理を実施する。

(2) 実施内容

【減災対策協議会】

市町村等と連携・協力して、大規模氾濫に対して減災のための目標を共有し、減災対策の取組を実施する。

【合同巡視】

重要水防箇所や危険箇所等において関係自治体と連携し、出水期前に合同巡視を実施する。また、河川管理施設の安全利用点検を行う。

(3) 実施に当たっての留意点

河川巡視や各種点検の結果、注意すべき箇所については、市町村との情報共有を密に行う。



写真 10-2 効率的な水防活動を行うための減災対策協議会、合同巡視